

紀要 54号

# 研 究 報 告 書

平成29年3月

尼崎市立教育総合センター

## はじめに

尼崎市は、昨年（２０１６年）が市制１００周年という記念すべき節目の年を迎えました。「１００周年 知れば知るほど あまがすき」をキャッチフレーズにさまざまな記念行事が繰り広げられ、あらためて市民の地域愛と人の力、魅力を感じる一年となりました。その記念すべき年に教育総合センターは、旧聖トマス大跡地への移転が決まり、今までの伝統を礎としながら、教育の新たな動きを見据えるとともに、中長期的なビジョンでセンターの機能を高めるために足元を見直す一年となりました。

新生「教育総合センター」としてスタートを切る今年度の取組のひとつに、研究の在り方を刷新することがあります。先を見通した今日的課題をテーマに、指導員・指導主事と複数名の教員からなる今までの研究部会は、教員の力量形成や意識の向上にも意義深い役割がある半面、市全体にその成果を発信する機会を持っているにもかかわらず、なかなか浸透しづらいという課題がありました。

そこで、既存の研究を深める部会を継続するとともに、教職員の意識改革に寄与できる新たな方法として、すべての小・中学校から部員を募り、研究を進めることを提案し、すすめてきました。また、研究の発信方法も公開授業や事後研究会、参加型研修を盛り込む形に大きく転換させました。これらの部会の進め方や発信方法は、学校や部員の方々に負荷をかけるかたちではありましたが、実践をより多くの方々に見ていただき、横のつながりを持たせることで各校のよさを知る機会にもなり、よりアクティブで深い学びにつながる意識改革の場となりました。たくさんの方々のみなさまの取り組む様子や公開授業、意見の交流や感想を目にするたびに、成果と手ごたえが感じられ、次年度に向けての契機となりました。

さて、いよいよ、次期学習指導要領改訂案が示されました。「アクティブ・ラーニング」という言葉が「主体的・対話的で深い学び」という表現に変わりましたが、社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」を ①知識・技能の習得、②思考力、判断力、表現力等の育成、③学びに向かう力、人間性の涵養 という三つの柱をバランスよく養うことが明確化されました。

われわれは、これからの教育に必要な教員の資質・能力の向上をめざすために、まずは本センターの資質向上を図ってまいります。

今年度の研究のまとめを、各学校・園をはじめ多くの方にご高覧いただき、ご意見をいただければ幸いです。また、今後のみなさまの取組の一助になることを願っています。

最後になりましたが、今年度の研究を進めるにあたり、ご多忙にもかかわらず指導助言いただいた専任講師の先生方に深く感謝申し上げます。また、校長先生はじめ、時間を惜しまず熱心に取り組んでいただいた研究員のみなさま、ご協力をいただいたすべての方々に重ねて厚くお礼を申し上げます。

平成２９年 ３月

尼崎市立教育総合センター  
所 長 佐 藤 喜 代 子

# 目 次

|   |                                             |    |
|---|---------------------------------------------|----|
| 1 | 小学校国語科教育アクティブ・ラーニング部会……………                  | 1  |
|   | ーアクティブ・ラーニングに焦点をあててー                        |    |
| 2 | 小学校算数科教育アクティブ・ラーニング部会……………                  | 25 |
|   | アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）で創る算数科の授業を<br>目指して |    |
| 3 | 中学校アクティブ・ラーニング授業実践部会……………                   | 49 |
|   | アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）で創る算数科の授業を<br>目指して |    |
|   | ー「アクティブ・ラーニング」の授業実践と校内研修等の実施ー               |    |
| 4 | 外国語活動研究部会……………                              | 65 |
|   | 小学校外国語活動における文字（アルファベット）の効果的な指導法を探る          |    |
| 5 | 大学との連携授業のユニバーサルデザイン化研究部会 ……                 | 81 |
|   | すべての子どもが「楽しく・わかる・できる」を目指して工夫する授業のデザイン       |    |
| 6 | 家庭学習支援事業について（中間発表） ……                       | 89 |

## 授業実践研究報告

### － アクティブ・ラーニングに焦点をあてて －

指導主事 井上 雅登

#### 【内容の要約】

昨年度、小学校教員を対象に、「教師の授業力向上研修講座（国語科）」として、思考力・表現力を鍛える国語科授業を構築できることを目標にした講座を展開した。そして今年度新たに、「アクティブ・ラーニング」を中心に据えた部会として、「小学校国語科教育アクティブ・ラーニング部会」を立ち上げ、進めることとなった。学習指導要領改訂に伴って、国語科教育における新たな方向性が打ち出されようとしている現在、市内の各小学校から選任された教員が一堂に会し、実際に「アクティブ・ラーニング」を体験し、身につける良い機会となった。専任講師として、プール学院大学 准教授 今宮 信吾氏（前 関西大学初等部 教諭）を招聘し、講話・演習はもとより、小学校での公開授業における指導助言等を行っていただいた。

|     |                                      |    |
|-----|--------------------------------------|----|
| 1   | はじめに                                 | 1  |
| 2   | 部会部員名                                | 2  |
| 3   | 年間の活動について                            | 2  |
| 4   | 実践事例および考察                            | 9  |
| (1) | 実践事例                                 | 9  |
| (2) | 実践事例                                 | 15 |
| 5   | 「尼崎市のことばの力を担う先導役に」専任講師 プール学院大学 今宮 信吾 | 21 |
| 6   | 終わりに                                 | 23 |



## 1 はじめに

文部科学省は平成29年2月14日に、これからの学校教育のめざす方向性を示すうえで、小中学校の学習指導要領改訂案を公表した。

小学校国語の「ポイントと目標」の中に、「日常生活に必要な国語を適切に使えるようにし、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」と記されている。

佐藤 学氏は、平成13年に、『「学び」から逃走する子どもたち』において、「教室において「勉強」から「学び」への転換を実践する」ことを述べた上で、『二十一世紀の社会が多様な人々が相互の差異を尊重し合って共生する社会であるとするならば、自らのアイデアを惜しみなく仲間に提供し、他者のアイデアから謙虚に学び合う関わりこそが求められるべきでしょう。個と個の擦り合わせによる「協同的な学び」の実現こそが「勉強」から「学び」への転換を推進する』としている。<sup>\*1</sup>

また『教育科学国語教育』（平成28年11月号）において、石井英真氏は、アクティブ・ラーニングへの危惧として、「資質・能力やALの強調については、教科内容の学び深めにつながらない、態度主義や活動主義に陥ることが危惧される」とした上で、「グループで頭を突き合わせて対話しているような、真に主体的・協働的な学びが成立しているとき、子どもたちの視線の先にあるのは、教師でも他のクラスメートでもなく、学ぶ対象である教材ではないだろうか。ALが学びの質や深まりを追求し続けるための視点として提起されていることを再確認し、子どもたちがまなざしを共有しつつ教材と深く対話し、教科の世界にのめり込んでいく（没入していく）学びが実現できているかを第一に吟味すべきだろう」と述べている。<sup>\*2</sup>

そして、松下佳代氏は、「国語単元学習から学ぶ」『教育科学国語教育』（平成29年1月号）の中で、「現在推進されているアクティブ・ラーニングには、これからの社会を生きていくために必要な資質・能力を育てるという新たな意味づけがなされてはいるものの、その考え方や方法の多くは、すでに日本の教育実践の中に存在する。」とした上で、「国語科単元学習がディープ・アクティブラーニングの一つの典型である」と述べている。<sup>\*3</sup>

国語教育における単元学習の意義は、昭和20年代のはじめから、子どもが必要感をもって学ぶことを媒介する学習のまとまりという広い概念でとらえられているものである。子どもが、自分自身の課題をもって学ぶこと、学ぶ主体となることであり、それが単元を意味づける中核となっているのである。

大村はま氏は、『授業を創る』の中で、

「学びひたり 教えひたる、

それは 優劣のかなた。

ほんとうに 持っているもの

授かっているものを出し切って、

打ち込んで学ぶ。

優劣を論じあい

気にしあう世界ではない、

優劣を忘れて

ひたすらな心で ひたすら励む。」と述べている。<sup>\*4</sup>

すなわち、子どもが学ぶ主体となり、自らが課題をもって、夢中になって学習活動に取り組める授業を構築していくことを主眼としているのである。

このような大村はま氏の思いは、70年以上を経た現代にも通じている。

時代の流れがどのように変化しても、指導者である教師は、目の前の学習者に対して、国語の授業の中で国語のどのような力をつけるべきであるのかということを、常に考えていかなければならない。決して、「活動ありて力なし」であってはならないのである。この記録は、「アクティブ・ラーニング」をキーワードにした実践部会をとおして、市内小学校の多くの教員が学び得たことを含めた、1年間の実践記録である。

## 2 部会部員名

各小学校から、部会の部員として推薦された教員

| 学校名   | 名 前   | 学校名   | 名 前    | 学校名   | 名 前   |
|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| 明城小   | 池淵 香奈 | 成徳小   | 江形 拓也  | 武庫南小  | 立半 博満 |
| 難波小   | 浦川 祐子 | わかば西小 | 石崎 絵美  | 武庫南小  | 佐野 竜也 |
| 難波の梅小 | 森 大祐  | 大島小   | 武市 瑞代  | 武庫北小  | 井上 彩子 |
| 竹谷小   | 菅原 咲樹 | 浜田小   | 野口 雅子  | 武庫東小  | 東田 明子 |
| 下坂部小  | 高原 有子 | 立花小   | 宇都 亨   | 武庫庄小  | 大皿 紗代 |
| 潮小    | 森田 美紀 | 立花南小  | 福永 秀美  | 武庫の里小 | 増田 美伊 |
| 長洲小   | 後藤 摩耶 | 立花西小  | 田村 みずき | 園田小   | 佐藤 隆史 |
| 清和小   | 志水 昌彦 | 立花北小  | 前田 智子  | 園田北小  | 瀧本 晋作 |
| 杭瀬小   | 荒木 裕亮 | 名和小   | 喜多 淳子  | 園和小   | 林 誉子  |
| 浦風小   | 村瀬 秀代 | 塚口小   | 高田亜里紗  | 園和北小  | 蘭 里奈  |
| 金楽寺小  | 森本 祥一 | 尼崎北小  | 尾定 美咲  | 園田東小  | 井本 淳子 |
| 浜小    | 足立 友美 | 水堂小   | 坂本 肇   | 上坂部小  | 柳畑 達也 |
| 大庄小   | 松田 伸子 | 七松小   | 四方 佑季  | 小園小   | 和田 隆太 |
| 成文小   | 嘉原 智子 | 武庫小   | 西村 信作  | 園田南小  | 濱 聡美  |

## 3 年間の活動について

今年度の実施内容については、以下のとおりである。

| 回 | 実施日        | 実施 内容                                                |
|---|------------|------------------------------------------------------|
| 1 | 5月20日（金）   | 講話「主体的・協働的に学ぶために－授業創りに必要なこと」                         |
| 2 | 7月25日（月）午前 | 授業創り演習 レポート交流                                        |
| 3 | 7月25日（月）午後 | 授業創り演習 レポート交流                                        |
| 4 | 8月10日（水）   | 講話 鳴門教育大学大学院 教授 幾田 伸司 氏<br>「筆者の工夫を見つける説明文教材分析の方法と実際」 |
| 5 | 8月23日（火）   | 学年等のグループによる学習指導案検討                                   |

|   |            |                                                   |
|---|------------|---------------------------------------------------|
| 6 | 2月 1日 (水)  | 代表者による公開授業① 研究協議会<br>下坂部小学校 高原 有子 教諭              |
| 7 | 2月 14日 (火) | 代表者による公開授業② 研究協議会<br>杭瀬小学校 荒木 裕亮 教諭               |
| 8 | 2月 28日 (火) | 本年度まとめ (成果と課題)                                    |
| 9 | 3月 9日 (木)  | 講話 大妻女子大学 准教授 樺山 敏郎 氏<br>「学びの文脈を創るアクティブ・ラーニングの推進」 |

(1) 第1回 部会 5月20日 (金)

第1回の部会では、今宮 信吾氏の講話「主体的・協働的に学ぶためにー授業創りに必要なこと」の中で、アクティブ・ラーニングのイメージについて共有する機会となった。  
部会の内容は次のようなものであった。

- ①ワーキング (グループトーク) 「この講座に期待すること」  
「現在課題意識として持っていること」  
②主体的・協働的な学び アクティブ・ラーニングによわないために (情報提供)  
③国語科の授業を創るための準備 自分の学年の教科書を見て考えましょう。

まず、①のワーキングでは、今宮氏が部員に対して、その流れとともに合意形成するための枠組みを提示された。

ワーキング

- 1 各自で自分の考えをまとめる
- 2 各自の考えを伝え合う
- 3 キーワードになることを5つ書き出す (画用紙)
- 4 代表が発表する (交流)
- 5 納得できることを合意形成する

合意形成するための枠組み

- 1 学力＝評価  
関心・意欲・態度
- 2 学習課程 (単元)  
授業づくり
- 3 教材 (学習材)
- 4 教育方法
- 5 カリキュラム

各グループでの交流が行われた後、それぞれの項目においてキーワードとして出たものを、グループごとに発表し、今宮氏がその場で入力し示された。ここでは一例として、「1 学力＝評価 関心・意欲・態度」と「2 学習課程 (単元) 授業づくり」についてどのようなものが出たのかを紹介する。

1 学力＝評価  
関心・意欲・態度

主体性 (学ぶ力) 語彙力 自分の意見  
活用力 (学んだ力) 環境調整力  
対話力 課題発見 (解決)  
意欲を高める 子どもの声  
学習計画とふりかえり 学力の保証  
子ども同士で 能動的  
深め合う  
国語好き

2 学習課程 (単元)  
授業づくり

アクティブ・ラーニング  
単元設定  
みんなが参加  
多様な授業  
学び合い  
1時間の授業  
ゴールの設定  
授業形態 (グループ)

それぞれの部員から日常の実践を振り返りながら、出てきたキーワードをとおして、部員全員が課題意識として持っていることがどのようなものなのかについて、共有できた。そして、授業創りに向けての視点を与えられた。

②においては、今宮氏が、学習指導案づくりに際しての留意点として、単元的学習の展開を考えていく上で、

- ア)「教科書を」から「教科書で」へ
- イ) 学習計画を子どもたちと創る
- ウ) 個に応じた学習の道筋を立てる
- エ) つけたい能力の系統を見据える
- オ) 学び方を定着させる

の5点の説明があった。ここで、部員に授業創りに向けての視点を与えられた。部員は次回に向けての宿題となる指導案略案づくりにイメージを膨らませることができた。

③では部員が国語教科書を見ながら、自らの授業構想に向けて取り組みをスタートした。

## (2) 第2回・3回部会 7月25日(月) 午前・午後

第2回・第3回の部会においては、「授業づくりの楽しみ」というテーマで、講話があった。流れは次のようなものであった。

### 午前の部

#### ①指導案交流・チェック (グループごとに)

互いの指導案、構想を聴き合いコメントを伝え合う。

#### ②課題になることを見出し、確認する。

### 午後の部

#### ①各グループの課題交流

#### ②課題解決 (今宮氏が各グループから相談を受ける機会)

#### ③今後の予定と課題確認

はじめに、今宮氏から提示された「指導案チェックリスト」により、部員が事前に作成し持参した指導案をそれぞれチェックした。

### 指導案チェックリスト

- ☐ 単元名が言語活動が明確なものになっていますか。
- ☐ 単元計画が単元目標に向かって立てられていますか。
- ☐ 評価計画が示されていますか。
- ☐ 評価規準とルーブリックが見えますか。
- ☐ 本時がきちんと位置付いていますか。
- ☐ めあてとふりかえりが関連していますか。
- ☐ アクティブラーニングの要件に当てまはりますか。



そして、指導案を作成する際に気をつけることとして、低学年のグループ、中学年のグループ、高学年のグループから交流した内容について発表があった。具体的には、各



## 指導案を作成する際に気をつけること

### <低学年>

- ベアトークのタイミング(話型)
- 深い学びの過程とは何か
- 主体的な学びとはどんなことか
- 場面読みはしてはいけないか
- 音読指導は(劇)気持ちを読み取った方がいいのか。

### <低学年>

- 評価(なりきって評価する・楽しんで評価)
- ファンタジーの入り口を子ども達に気づかせる必要があるか。
- ふりかえり書かせて表現するのではないか。

### <中学年>

- 主体的に積極的に学べる課題
- 学習計画をどのように立てるか
- ペア(確認)グループ(広げる)
- 思考ツール、付箋 その他に
- 話す・聞くと書くの関連指導
- グループ活動の観点(子どもへの制約をどの程度つけるか)
- メモから原稿広げ書く。メモを写すだけではダメ
- 調べたことを発表する
- グループ活動を広げる

### <高学年>

- 子どもがめあてを考える方がいいのか
- 読み取り教材における一人読みの意味、話し合いをすることの意味は何か。
- 言語活動を児童の実態に合わせてどう設定するのか。
- 学習計画の設定の仕方
- 叙述を根拠に(情景描写、行動)に根拠を添える。
- 多読につなげるためにどうすればいいのか。
- 背景となる設定をどこまでよませるのか。(漁師のすること)

低学年が2グループ、中学年グループ、高学年グループともに次回の学習指導案検討に向けて、部員自ら指導案の修正点を確認し、課題を明確にできた。

### (3) 第5回部会 8月23日(火)

まず今宮氏から、「論点整理におけるアクティブ・ラーニングの視点」について講話があり、その後の交流に向けて、単元構想を作成する時の留意点について説明があった。

#### 〔留意点〕

- ア) 言語活動がはっきりしていて、子どもたちと共有できるか。
- イ) 言語活動との出会いが工夫されているか。
- ウ) 言語活動について学び方を教える時間があるか。



部員は持参した学習指導案をもとに交流をし、今宮氏が部員から出た質問に対して、それぞれアドバイスをする機会があった。「言語活動は設定しているが、何のための言語活動であるのかということ」などを振り返るとともに部員はお互いに考えを深め、2学期からの授業実践に向けて再考する機会となった。

#### (4) 第8回部会 2月28日(火)

第8回は、今年度の「国語科教育アクティブ・ラーニング部会」のまとめの部会である。

##### ① 講話「授業で子どもを育むことー新しい教育課程に向けてー」

・「アクティブ・ラーニング(能動的な学び)」とは

「深い学び(気づき→変容→習得→活用→探究)」

「主体的な学び(やらされている→自ら取り組む→没頭している)」

「対話的な学び(語り合う→伝え合う→学び合う→紡ぎ合う)」

→トライアングルの位置づけそれぞれの学びが変容していくのが望ましい。

・思考ツールの紹介と具体的な活用法

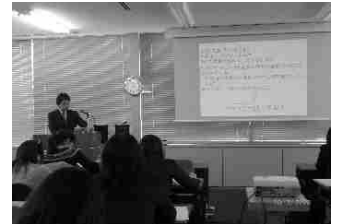
「クリティカル・シンキング」「コンパクトシンキング」「チェーン・シンキング」「ラベル・シンキング」など

##### ② グループ交流および発表

・「この部会において1年間で学び得たもの」と「これからの自分の授業実践に活かしていきたいこと」を中心テーマとして交流

・交流後のグループ発表で部員から出た内容

- ・アクティブ・ラーニングとしての理解が深まった。
- ・考えを深めるために対話を取り入れる。(ペアトーク、グループトークの工夫)
- ・何のために活動しているのか。活動の最終目標や自分たち(子ども)が単元を通してつけた力をはじめに把握(意識)させておく。
- ・目的意識を持った言語活動を進めていくこと(目的がずれると学ばせたいことができない)
- ・読解中心の授業ばかりしていたが、単元を通しての活動という授業を組み立てる上での新しい視点が得られた。
- ・主体的であるということ、対話的であるということがどういう意味(どんな子どもの姿)を表しているのかが見えてきた。
- ・評価を子どもに提示する。ルーブリックの設定。
- ・本時の評価基準A・Bの設定とその具体化について今後もしっかり考えていく。
- ・アクティブ・ラーニングについて教師も対話的に学べたこと。
- ・代表授業の方の授業で、子どもとルーブリックを作ってから授業を展開されていたのが参考になった。
- ・「指導」ばかりに力を注ぐのではなく、「評価」して「価値づける」ことの大切さを学んだ。
- ・型ばかりにこだわるのではなく、授業はいつも子どもが中心にあるということ。
- ・一人で学ぶ時間をしっかりととり、自分なりの考えや思いを持った上で、ペアやグループの活動を進めること。さらにペアやグループの交流の時には、何についての交流(話し合っ)ているのか視点をはっきりさせておくこと。



- ・1年生でも、年間を通じて「学び合い」のスタイルを繰り返せば、物語文を深く学ぼうとする態度と力が養えることが分かった。
- ・同じ学年を担当している教員同士での話し合いや指導案検討があったので共通理解ができた。
- ・ただ交流させたらよいのではなく、考えを深めるために対話を取り入れていく。そのために、タイミングや話す内容を考えていくことが必要である。
- ・評価基準について いつも先生視点だけだったので、子どもたちとその基準を共有する。評価にこだわった1時間にする。この1時間でどう成長させられるか、成長したか、どんな力がついたかをしっかり見返す。“楽しい”だけではなく。
- ・ツールありきではなく、「理解しやすくなる、より深く考える」ための効果的なツールの提示ができるようにしたい。

### ③今宮氏から交流内容を受けての講話

- ・「発表を聞いていて、先生方一人ひとりが多くのことを学ばれたと感じている。尼崎の先生方は1年間をととして研修を受けることができて幸せである。他市にも指導助言に行くことがあるが、なかなかこのような研修は実施されていない。」と話された。
- ・研修のまとめ

ア) 5つのポイント→「1 言語活動の明確化が大切」「2 子どもたちに主体的な学びの保証をすること」「3 対話的になっていない学習からの質的転換」「4 評価活動を見直すこと」「5 想定外の事態が起きた時の教師の状況適応・判断能力」をおさえる。

イ) 「学級力」の紹介→「自己決定力」「問題解決力」「自己整調力」等の項目で学級力を「視る」。

### (4) 第9回部会 3月9日(木)

第9回部会では、前国立教育政策研究所学力調査官兼教育課程調査官であり、現在は大妻女子大学家政学部児童学科准教授の樺山敏郎氏を招聘し、「学びの文脈を創るアクティブ・ラーニングの推進」というテーマで講話があった。

#### ①全国学力・学習状況調査の結果を受けて

- ・多くの情報を関係・関連づけることの弱さ
  - 複数の情報をコントロールできない。
  - これまでの授業が単線ルートで行われている。
- ・要点を的確にとらえて書き出すという場の設定
- ・小学生新聞を利用する
  - シャワーのように情報を浴びること。
  - 最新の情報であり教科書を越えていくことができる。



#### ②アクティブ・ラーニングについて

- ・「主体的」「対話的」「深い」の意味
  - 主体的・対話的はイメージしやすい。
  - 「深い」学びについて
    - 「自分に向き合う学び、自分にベクトルが向かないと（自己内対話）成立しない」
    - 「言語活動の充実の延長にアクティブ・ラーニングがある」





## 4 実践事例および考察

### (1) 実践事例 (下坂部小学校 第4学年 授業者 高原 有子 教諭)

① 単元名 すてきな下小を伝えよう リーフレットで紹介ー

② 単元の指導目標

- ・新1年生が下坂部小学校に行きたいなと思えるように、学校のよさをリーフレットで紹介できる。(関心・意欲・態度)
- ・「アップとルーズで伝える」の段落構成や説明の仕方を読み取ることができる。(読むこと)
- ・目的に合った説明の仕方の工夫を用いて、リーフレットを書くことができる。(書くこと)

③ 指導上の留意点

○関心・意欲・態度

- ・学習課題より学習計画を児童と立て、目的意識を持って学習を進められるようにする。
- ・新聞やリーフレットなど実際に使用されている身近なものから写真の効果を見つけさせる。
- ・リーフレット作成では、次年度本校に入学する児童向けに「下小のいいところをしょうかいしよう」と相手意識を明確にする。(児童それぞれのお気に入りの場所や学校の自慢)
- ・いいところ・すてきな人などに意識を持って日常生活を送らせる。

○読むこと

- ・アップとルーズ・伝わることと伝わりにくいことなど対になるワードをもとに、比較を通して、説明の工夫を見つけさせる。

○書くこと

- ・学習した「説明の工夫」を用いてリーフレットを作成させる。
  - ・相手意識を持ち、伝えたい目的にあった写真の選定や説明の文章（事実や例を用いる）をどのように書くか、段落の構成の仕方について理解させる。
  - ・グループトークやペアトークによって、リーフレットを推敲させる。
- 相手に伝えたいことを目的に合った文章や写真を用いて書く力を育てたい。

④ 単元の評価規準

| 関心・意欲・態度                                                                                                                              | 読むこと                                                                                                                            | 書くこと                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アップとルーズで伝える」を読んで、書き込みを進んでしようとしている。</li> <li>・下小のよいところを進んで見つけ、リーフレットを用いて伝えようとしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アップとルーズで伝える」の筆者の意図を読み取ろうとしている。</li> <li>・「アップとルーズで伝える」の説明の仕方の工夫を読み取ろうとしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことがよく分かるように、目的に合った写真の選択・具体例・決められた文字数でリーフレット作りをしようとしている。</li> </ul> |

\*ABCのBを規準とする

⑤ 指導計画（全12時間）

| 時                  | 学習活動                                                                                                       | 指導上の留意点○と支援・                                                                                                                                                                                    | 評価                                                                                                                                                 |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第一次<br>つかむ<br>(1)  | 1 学習課題を知り，学習計画を立てよう。                                                                                       |                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                    |
|                    | 「下小へようこそ」リーフレットでしようかいしよう                                                                                   |                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                    |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習課題を知る。</li> <li>学習計画をたてる。<br/>説明文の読み方を振り返り学習計画を立てる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○下小のよいところはどんなところか想起させる。</li> <li>○説明文の読み方<br/>段落構成（始め・中・終わり）<br/>段落読み<br/>自分の考え</li> <li>○リーフレット作成を，単元を貫く言語活動と位置づけ，説明の仕方の工夫を見つけるよう学習計画を立てさせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで学習計画を立てようとしている。</li> <li>【関心・意欲・態度】<br/>[発表・ノート]</li> </ul>                                              |
| 第二次<br>ふかめる<br>(4) | 2 「アップとルーズで伝えよう」から説明の仕方の工夫を見つけよう。                                                                          |                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                    |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>第一段落から第三段落まで読み，筆者が「何を」「どのように」説明しているのかを考える。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○対になっているワードや写真をもとに，筆者の説明の仕方の工夫を見つけさせる。</li> </ul>                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>対になっているワードを探し，工夫を見つけようとしている。【読む】<br/>[教科書・ノート]</li> </ul>                                                   |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>第四段落から第六段落まで読み，筆者が「何を」「どのように」説明しているのかを考える。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○対になっているワードや写真，逆説やまとめの接続語を見つけ，比較して読み取らせる。</li> </ul>                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>対になっているワードを探し，工夫を見つけようとしている。【読む】<br/>[教科書・ノート]</li> </ul>                                                   |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの段落の役割を考える。</li> <li>身の回りのもののアップとルーズの使われ方からそのよさを考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○段落構成について，対になっている段落を見つけて考えさせる。</li> <li>○新聞を用いて，アップとルーズを見つけ，何を伝えたいのか考えさせる。</li> <li>・例を用いて，全体でアップとルーズについて確認させる。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>段落の役割を考えようとしている。【読む】<br/>[発表・ノート]</li> <li>アップとルーズの写真を選択し，よさを見つけようとしている。</li> <li>【読む】<br/>[ノート]</li> </ul> |

|                               |                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第三次<br/>まとめる(7)<br/>本時</p> | <div>3 説明の仕方の工夫を使って、リーフレットでしようかいしよう</div>                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                               | <p>・「ようこそ下小リーフレット」作りの見通しを持つ。</p> <p>・リーフレットに使いたい写真を撮る。</p> <p>・説明の仕方の工夫をリーフレットに当てはめ、共有する。<br/>(本時)</p> <p>・リーフレットを作る。</p> <p>・互いに紹介しあう。</p> | <p>○教材文より、リーフレット作りの見通しを持たせる。下小のよいところを発表させ、意欲的に学習できるようにさせる。</p> <p>○リーフレットの構成について確認する。</p> <p>○伝えたいことを考えさせて、写真を撮らせる。</p> <p>○説明の仕方を工夫させる</p> <p>①目的に合った(伝えたいこと)写真</p> <p>②事実など具体例を用いた文章</p> <p>③「～を～といいます。」のような文章表現</p> <p>④「このように」などの接続詞</p> <p>○文字数は、200～300字で書かせる。また、「初め・中・終わり」の構成で書かせる。</p> <p>○しようかいのしかたを確認し、観点をもって読ませる。<br/>観点・説明の仕方の工夫があるか。</p> <p>・下小のよいところがよくわかったか。</p> | <p>・進んで下小のよいところを考えようとしている。【関心・意欲・態度】</p> <p>[ノート・発表]</p> <p>・伝えたいことを考えて、撮影しようとしている。【書く】</p> <p>[ノート・撮影画像]</p> <p>・伝えたいことに合った写真や説明の文章を考えようとしている。【書く】</p> <p>[ワークシート]</p> <p>・伝わりやすい表現について考えようとしている。【書く】</p> <p>[ワークシート]</p> <p>・工夫を用いてリーフレットを作る。【書く】</p> <p>[リーフレット]</p> <p>・観点をもって、友だちの作品を評価しようとしている。【書く】</p> <p>[ワークシート]</p> |

⑥ 本時の展開

|     | 学習活動                               | 指導上の留意点(○)と支援(・)                                                                                                       | 評価・評価方法                                                            |
|-----|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 導入  | 1 学習課題を確認する。                       |                                                                                                                        |                                                                    |
|     | 伝えたいことがよくわかる写真や説明の文を考えよう。          |                                                                                                                        |                                                                    |
| 展開  | 2 伝えたいことがよく分かる写真を選んだり、説明の文を考えたりする。 | ○自分が撮影した写真から 1 枚選択させる。<br>・伝える相手…新 1 年生<br>伝える目的…学校のよさを伝える<br>この 2 つの視点で写真を選択させる。<br>○説明の文には、具体例（体験したことなど）を入れるように指導する。 | ・なぜなにシートに伝えたいことに合った写真を選んだり、説明の文を書こうとしていたりしている。<br>【書く】<br>[ワークシート] |
|     | 3 伝えたいことや選んだ写真と説明の文を話し合う。          | ○グループトークの中で伝えたいことと写真が合っているか、説明の文が分かりやすいかの視点で話し合わせる。<br>○全体で交流し、伝えたいことと写真が合っていることや説明の文に具体例があるとよいことを確かめさせる。              | ・伝えたいことと写真の選択や説明の文が合っているか確認しようとしている。<br>【関心・意欲・態度】<br>[ワークシート]     |
| まとめ | 4 ふりかえる。                           | ○課題が達成できたか振り返らせ、次時へつなぐ。                                                                                                |                                                                    |

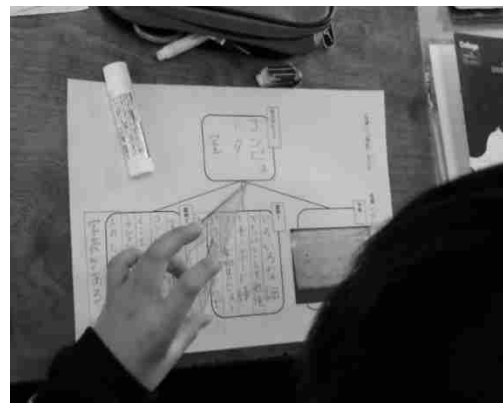
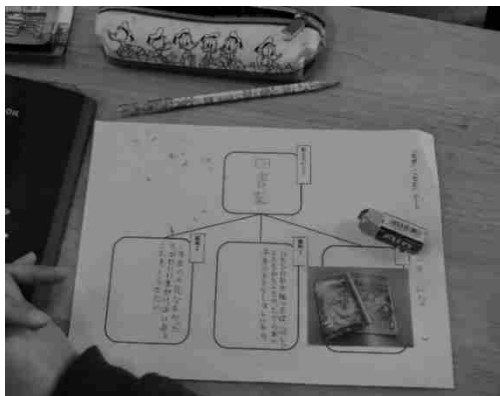


## ⑦ 事後研究会でのまとめと振り返り

### ア 成果

単元を構成するうえで、学習者に興味関心を持続させることや学ぶ目的を意識させることが重要と捉え、言語活動に重点を置いた。本単元では、リーフレット作りが主体となる言語活動として単元を構成した。実践後の児童の振り返りには、『『アップとルーズで伝える』で学んだことをリーフレット作りに活かすことができた』など意欲的に取り組めた様子がうかがえた。また、完成したリーフレットにもこれまでに学んだことが活かされており、以上のことから効果的な単元構成であったことが分かる。

次に、学び方が分かることについての取り組みについて述べる。下坂部小学校では、授業を（①めあて②一人学び③ペア・グループトーク④全体交流⑤ふりかえり）で展開している。これらの授業の流れが児童に定着し、見通しをもって学習することができている。シンキングツールとしての、ボーン図やピラミッドチャート、本単元で使用した「なぜ・なにシート」などを用いて実践している。これらのシートにより、何をどのように考えるのが分かりやすくなっている。シートを使った学習の振り返りでは、それぞれのシートのよさや使いやすさについての感想が多かった。また、これらのシートは、友だちとの考えを共有しやすく、指導者側にとっても学習者のつまづきが分かりやすく、指導しやすいといった点でも効果的であった。



【下坂部小学校 公開授業の様子】

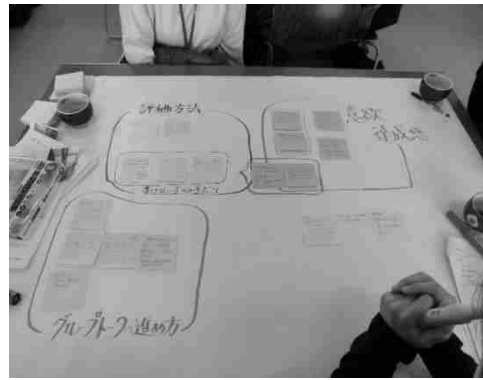
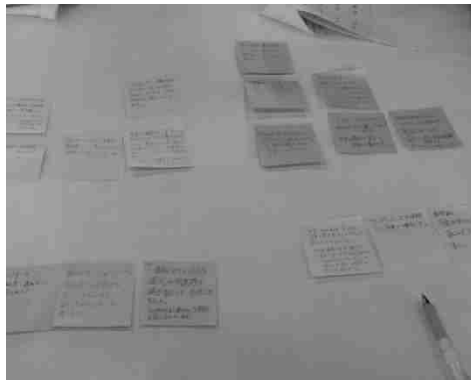
## イ 課題

授業公開後の事後研究会では、主として以下の3点について話し合われた。

### ○写真選択について

- ・アップとルーズで撮影された写真について、選択した根拠が適切であるかどうか話し合われていたらよかった。
- ・児童の選択している写真が、文章に合っていないものもあった。
- ・写真を選択してから文章を書いていたので、その後に写真の選択を変更する必要があるかもしれない。

→本時において、写真選択と説明の文と二つのことをめあてとしたため、話し合いの焦点化ができていなかった。写真については、本時の後、選択の変更をした児童もいた。



【下坂部小学校 公開授業 事後研究会 グループ交流の様子】

### ○説明文に具体例を入れることについて

- ・シートの書き方（文章表現）に統一感がなかった。具体例とは、どのようなことがモデル文を活用するとよい。

→伝えたいことの2つ目をシートに書くときに、モデル文を拡大シートに書き、書き方について統一した。



【下坂部小学校 公開授業 事後研究会 グループ交流後の発表の様子】

○グループトークについて

- ・自分の考えを伝えただけで終わっている。交流の視点を明確にしておく。
- ・司会や参加者の話型を指導する必要があった。日頃より、根拠を明らかにして意見を述べるように指導しているが徹底されていないことが今後の課題である。

(2) 実践事例 (杭瀬小学校 第5学年 授業者 荒木 裕亮 教諭)

① 単元名 声の花束を届けよう—朗読会を開こう—

② 教材名 中核教材：『大造じいさんとガン』

補助教材：「片耳の大シカ」「月の輪熊」など

③ 単元の指導目標

- 自分の経験や体験と重ねながら、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。
- 「大造じいさんとガン」や同じ作者の他作品を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 物語の構成をとらえ、心情や場面の様子が伝わるように、叙述に即した工夫をしながら朗読することができる。

④ 単元の評価規準

|                     |                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国語への<br>関心・意欲・態度    | 自分の経験や体験と重ねながら、作品の登場人物同士のつながりや、それぞれの心情を読み取ろうとしている。                                                                                                                                                              |
| 読む能力                | <p>ア 自分の思いや考えが伝わるように表現を工夫し、朗読している。</p> <p>エ 登場人物の相互関係や心情、場面について、叙述をもとに読みとり、それに対する自分の考えや意見をまとめている。</p> <p>オ 作品から読み取ったことを交流し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>カ 作品の世界を読み深めるために、他作品を複数読んだり、筆者の生い立ちや考え方に目を向けたりしている。</p> |
| 言語についての<br>知識・理解・技能 | イ (カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持っている。                                                                                                                                                                            |

⑤ この単元でつける力

【児童の実態】

本学級の児童は、1学期に物語教材「あめ玉」「なまえつけてよ」、説明文教材「見立てる」、「生き物は円柱形」に出会ってきた。物語教材を通じて、起承転結やクライマックス、それに伴う登場人物の変容を叙述から読み取る術を学んだ。叙述を根拠に自分の考えを持つことや、そこから場面の様子や登場人物の心情をとらえながら読みを深めていくことの重要性に気づいている。読書習慣の定着を目的に実践している読書貯金においては、10月末時点で5000ページ以上が14名、2000ページ以上が13名、1000ページ以上が5名おり、読書に対して抵抗のある児童は少ない。また6月実施のアンケート（4段階）では、「国語の勉強は好きですか。」という質問に対して「好き」と答えた児童が10名、「まあまあ好き」が18名、「少し苦手」が3人いた。「苦手」と答えた児童は2人で、国語の学習に意欲的な子どもが全体の8割近くいることがわかった。しかし、情景描写や行動描写など、書かれている言葉に注目して主題に迫り、理解できている児童は4分の1に満たない。また作者や登場人物の生き方や考え方と自分の経験とを比較し、その共通点や

相違点を見つけたり、自分の生き方に結び付けて考えたりする力は十分とはいえない。同時に、語彙の乏しさや自己表出に対する抵抗感から、自分の考えを表現することに対する戸惑いがある児童も多い。このような実態の児童にとって、読みの視点を明確にしながら、物語の世界をじっくりと味わうこと、また朗読という方法で、言葉や表現を大切にしたい自己表出の場を設定することは、感想や考えにも広がりや深みを生み、「言葉の力」を育むことにもつながると考える。

【指導にあたって】

指導においては、まず朗読の特長を児童に知らせ、音読との違いを明確にしながら朗読会をするために何が必要かを考えさせていきたい。「読みの視点」を明確にし、物語全体を意識した読みを進めていきたい。具体的な「読みの視点」としては、次の11の視点をもとにして児童に分かり易く言い換えながら説明していく。

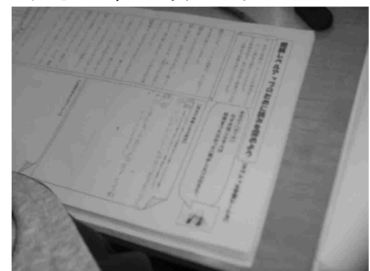
- ①時・場所：物語中の時間と場所の設定。
- ②登場人物：人間だけに限らず、作品の中で動いたり話したりする動物や物も含む。
- ③中心人物：作品の中で最も変容した登場人物。または、視点人物。
- ④語り手：誰の視点で描かれているのか。
- ⑤出来事：作品の中で描かれている事件など。
- ⑥大きく変わったこと：中心人物の状況や心情の変化に焦点を当てる。
- ⑦構成：作品を「はじめ・中・おわり（起・承・転・結）」に分ける。
- ⑧人物関係図：作品が一目でわかるように表した図。
- ⑨一文で表現する：作品全体を一文で表す。
- ⑩主題：作品の中にある作者の思想内容。作品から自然に見出されるもの。
- ⑪おもしろさ：作品の設定や言葉づかいなど、おもしろさを論理的にとらえる。

具体的な読みの視点を与えることにより、低位の児童が漠然とした読みをしないようにする。また児童の実態に即して一人読みのできるものと授業の中で理解させていくものと分けて指導する。同時に、椋鳩十作品の並行読書を進めさせ、同じ視点で読ませることで作者の表現の工夫や、作品の主題の共通性などを見出すことができるようにする。

朗読の練習、および朗読会をする際には、表現の工夫をするだけでなく、叙述を根拠に工夫した理由を述べさせるようにする。

【思考力をはぐくむ手立てとして】

- 同作者の他作品を読み比べて、作品を通じて見えてくる構成や表現の共通点や相違点を考える。[比較]
- 叙述（人物の行動、言葉などの優れた表現）を根拠に、朗読する場面を選ぶ。  
[理由・根拠]
- 作品の魅力について、感じたことや考えたことを友達と交流し、自分の考えをより深める。[再構築]





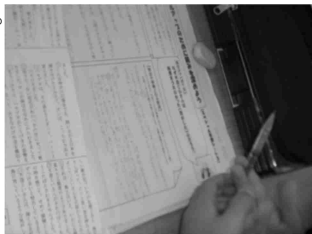
⑥ 本時の評価規準

| A 評価の基準                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | B 評価の基準                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○大造じいさんの残雪に対する見方がなぜ変わったのかを<u>今までの学習内容（出来事，中心人物の心情）</u>や他作品と関連づけながら考えることができる。</p> <p>【評価の目安となる児童の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの「つりばり作戦」や「たにし作戦」は大造じいさんと残雪との戦い（知恵比べ）だったけど，ここは残雪とハヤブサとの命がけの戦いだったから，じいさんは邪魔はできないと考えたんだと思います。</li> <li>・最後の場面で「おうい，ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつを，おれはひきょうなやり方でやつけたかあないぞ。・・・また堂々と戦おうじゃないか。」と言っていて，じいさんは弱った残雪をうつのはひきょうだと思ったからうたなかったのだと思います。</li> <li>・最初の方は，残雪に対して「いまいまして」思っていたけど，だんだん残雪の賢さを認めはじめて，この場面で「残雪はただの鳥（ガン）じゃない」と考えが完全に変わったからだと思います。</li> <li>・自分が作戦のためにつかった「おとりのガン」を「ただ救わなければならぬ仲間のすがたがあるだけでした」と書いているように命がけで守ろうとする姿に，感動したのだと思います。</li> <li>・「大造じいさんが手をのばしても，残雪は，もうじたばたさわぎませんでした。最後の時を感じて，せめて頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。」というところから，大造じいさんは，残雪を心の底から認めたのだと思います。</li> <li>・「山の太郎グマ」でも，太郎が子グマのために命がけで，ワシと戦う姿に私は感動していて，動物の愛情や強さを大造じいさんも感じたからだだと思います。</li> </ul> | <p>○本文の叙述（第3場面を中心に）を根拠に，大造じいさんの残雪に対する見方がなぜ変わったのかを考えることができる。</p> <p>【評価の目安となる児童の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「が，なんと思ったか，再び銃を下ろしてしまいました。」と書いてあって，残雪がハヤブサと必死で戦っている姿に大造じいさんは感動したからだと思います。</li> <li>・「鳥とはいえ，いかにも頭領らしい，堂々たる態度」をしている残雪を見て，こんなすごいガンを撃ち殺すことは自分にはできないと思ったのではないかと考えました。</li> <li>・クライマックスで「大造じいさんは，強く心を打たれて，ただの鳥に対してのような気がしませんでした。」と書いていて，大造じいさんは残雪のことを人間と同じような存在だと考えるようになっていたんだと思います。</li> <li>・自分が飼っていた「おとりのガン」を必死で助けようとしていた残雪を見て，ありがたいという気持ちになったのだと思います。（または，）自分のやり方はずるいなと思ったんだと思います。</li> <li>・「最後の時を感じて，せめて頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。」というところから，弱っている残雪を横からやつけるのは，かっこわるいと思ったんだと思います。</li> </ul> |

⑦ 本時（7／13）の目標

じいさんがなぜ残雪を撃たなかったのか、叙述や場面のつながりを根拠に読み取ることができる。

⑧ 本時の展開

| 時刻                     | 児童の学習活動                             | 教師の指導と支援及び留意点                                                                                                                   | 評価                                                                                                                                                               |
|------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13:45                  | 1. 学習計画を確認し、本時の学習のめあてを確認する。         | ○前時のふり返りや学習予定を確認し、学習に向かう意欲を持たせる。<br>○前時に見つけたクライマックスを押さえ直す。                                                                      |                                                                                                                                                                  |
| マイ朗読のレベルアップのために読みを深めよう |                                     |                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                  |
| 13:50                  | 2. なぜじいさんは残雪を撃たなかったのかを考える。<br>【一人で】 | ○前時までにとらえた、じいさんと残雪の戦いとそれに伴うじいさんの残雪に対する印象、意識について考えさせる。                                                                           | 【読む能力】エ<br>大造じいさんの心情の変化について、叙述をもとに読みとり、それに対する自分の考えや意見をまとめている。<br>〔学習シートの分析〕<br>〔学習態度の観察〕                                                                         |
| 13:58                  | 3. 考えたことをグループで交流する。<br>【グループで】      | ○友達の意見を聞いて新たに気がついたことや、自分の考えとの違いを見つけさせる。<br> | 【読む能力】オ<br>作品から読み取ったことを交流し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。<br>〔学習シートの分析〕<br>〔学習態度の観察〕                                                                                      |
| 14:08                  | 4. 全体で交流する。<br>【全体で】                | ○考えの根拠となる叙述も併せて述べさせる。<br>○大造じいさんの行動描写や心情の変化だけでなく、他作品から見えてくる作者の考え方にも触れられるようにする。                                                  | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>A評価の基準</b><br/>           本文の叙述を根拠に、じいさんの残雪に対する見方がなぜ変わったのかを今までの学習内容や他作品と関連づけながら考えることができる。         </div> |
| 14:25                  | 5. 本時のふりかえりと次時への展望をもつ。              | ○自分の考え方について学習前と学習後で変化があったこと、深まったと感じたことを中心に感想を書かせる。                                                                              | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>B評価の基準</b><br/>           本文の叙述を根拠に、大造じいさんの残雪に対する見方がなぜ変わったのかを考えることができる。         </div>                   |

—大造じいさんとガン—

○「大造じいさん」が「残雪」をうたなかつた理由を、叙述を根拠に、想像を広げて考えることができる。

マイ朗読のレベルアップのために読みを深めよう

一、うなぎつりばり作戦 ④ ⑤  
 二、たにしばらまき作戦 ⑦ ⑧  
 三、おとり作戦 ↓ クライマックス

大造じいさんは強く心を打たれて、ただの鳥に対してしているような気がしました。

Q、なぜ「大造じいさん」は「残雪」を打たなかったのだろう。

|            |          |
|------------|----------|
| ☆みんなが考えた理由 | ☆根拠となる叙述 |
|            |          |

朗読レベルアップのために読みを深めよう 「スペシャル学習シート3」

☆ 叙述を根拠に、じいさんが残雪をうたなかつた理由を読むことができる。  
 ☆ 物語全体や、他の作品と関連づけながら理由や根拠を読むことができる。

① そのまま、ハヤブサと残雪は、もつれ合つてぬま地に落ちていきました。

② 大造じいさんはかけつけました。

③ 二羽の鳥は、なおも地上ではげしく戦っていました。が、ハヤブサは、人間のすがたをみとめると、急に戦いをやめて、よろめきながら飛び去っていききました。

④ 残雪は、むねの辺りをくれないにそめて、ぐつたりとしました。しかし、第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼつて、ぐつと長い首を持ち上げました。そして、じいさんを正面からにらみつけました。

⑤ それは、鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。

⑥ 大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もうじたばたさきませんでした。それは、最期の時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありません。

⑦ 大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してしているような気がしました。

☆ 理由や根拠となる叙述

⑧ 2行目

第二のおそろしい敵が…  
 (残りの力をふりしぼり、はたして…)

理由

大造じいさんが残雪に近づくと、ふつは、そのままだりとしていたが、残雪は、大造じいさんが近づいて、もバタバタせず、頭領らしい堂々とした態度だ、だから、なうたれた。

梅 ④ ⑤ ただ、救わねばならぬ…  
 仲間の事を考え、自分の命をすて、戦に行きた。

永 ⑥ ⑦ ⑧ のまこめ

はじめは、ただの鳥だとおもって、だが、頭領としての自尊をまもるために、守るために、努力している、次自分を、めて、自分より、同じく、いの存在、を、認め、た、から。

学習を通して、君の姿容を感想に書こう！

今日の夕（はてな）  
 なぜ大造じいさんは  
 残雪をうたなかつた（敵がいた）のだろう。



【授業時におけるワークシート例】

## ⑨ 事後研究会でのまとめと振り返り

はじめに、授業者の荒木教諭から、「読書好きの生徒が増えているが、まだまだ叙述を手がかりに読もうとする段階に至っていない」ことや、「作品を読み込まずして朗読へは導けない」という説明があった。その後、参観の部員がグループとなり、交流を経て、質問や意見を発表した。以下が発表された内容である。

| 事後協議会                                                                                                                                                               | 事後協議会                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>＜板書と学習シート＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●板書時間の保証はできるのか。</li> <li>●学習シートはあれで良かったのか。</li> <li>●板書の構造化を目指して欲しい。</li> <li>●感想文のシートをより生かしたい。</li> </ul> | <p>＜グループ交流と学習者の動き＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●必要感はどのくらいあったのか(グループ交流)</li> <li>●四人組、司会者の働きを育てていく必要がある。</li> <li>●マニュアルを提示しても、話す中身を示す方がいいと判断した。</li> <li>●オープンエンドで終わると時とそうでない時がある。</li> <li>●協同的な学びを仕組むための要素とは何か。<br/>(一斉授業でも全体交流とふりかえりではないか)</li> </ul> |

授業後の指導助言として、今宮氏は、授業のポイントとして、次の3つを挙げられた。

- ア) 目標で期待している子どもの姿が見られるか。
- ・アクティブ・ラーニングとしての要素
  - ・ループリックの設定
- イ) 教師も子どもも評価ができるか
- ・何を評価するのか(学習評価)
  - ・相互評価できるのか
- ウ) 学び方として具現化できるものは何か
- ・文学の読み方として何を実現するのか
  - ・中心的な言語活動である朗読の変容が見られるか。

そして最後に、「つきたい力の明確化を図る」ことの重要性を話された。



【杭瀬小学校 公開授業 事後研究会の様子】

## 5 尼崎市のことばの力を担う先導役に

プール学院大学 今宮 信吾

### (1) 研修を生かす力

昨年度に引き続き、本年度も教育総合センターの企画によりこの研修が実現できたことを何よりも嬉しく思っています。私がこの研修に期待することは、「学び続けることができる人こそ、人に教えることができる」という先人の教えです。昨今、様々な期待と要求が学校現場に寄せられ、日々奮闘している先生方に、少しでも授業を創る喜びやきっかけを持っていただけたらと始めた企画でした。現実は一層厳しく、奮闘というより格闘の毎日といった方が適切なのかもしれません。しかし思い出してみてください。教師になろうと志した時に描いた夢を、そして、理想を。時代が変わったと言われます。学校を取り巻く環境も変化しています。ただ一つだけ真実なのは、子どもは変わっていないということです。社会や大人に適應するために子どもたちも一生懸命毎日を生きているのです。授業を通して先生方が日々感じておられることだと思いますが、子どもは変わっていません。変わったように立ち振る舞っているだけなのです。そうしなければ子どもたちも生きていけないのです。

先生方に期待し、お願いしたいことがあります。このような研修の場を企画してもらえ、尼崎市という教育環境は、全国的に見ても決して劣っているようなものではありません。私は多くの尼崎市内の学校に関わらせていただいています。その中でよく聞くことばがあります。「尼崎は・・・」という主語で始まる言葉です。多くの場合には、謙遜を含めて反省的に文章が続くことばが多いです。私は決してそんなことはないと思っています。研修の機会を利用し、学び、自分の学校、学級に生かそうというように他と比べても意欲的な先生方が多いと思います。教育を取り巻く状況は明るいと言える状況にはないと思っています。しかし、それを解決するには、学び続けることと学んだことを生かすことでしか解決しないと思っています。

### (2) 研修を確かめる力

市内の先生方と夏休みまでに研修したことは、実際の指導案の検討でした。教材研究をグループで行いながら、自分の学校・学級に合わせた指導を構想していただきました。そしてそれらを受けて、公開授業研究会も2つの学級で行いました。

1. 下坂部小学校：高原教諭「すてきな下小を伝えようーリーフレットで紹介ー」（第4学年）

「アップとルーズで伝えよう」（光村図書）

この授業のポイントは、リーフレット作りを目的として、学校の「素敵」を考え、教科書で学んだ写真の効果的な活用の仕方を生かすところにあります。自分たちの学校の魅力を伝えようとする相手意識を持つことと、それをリーフレットにして伝えるという目的意識が中心となる実践でした。

2. 杭瀬小学校：荒木教諭「声の花束を届けようー朗読会を開こうー」（第5学年）

「大造じいさんとガン」（光村図書）

この授業のポイントは、朗読会を目的として、中心人物である大造じいさんと残雪の心情や行動の変化等を読み解きながら、作品の良さが伝わるように朗読の仕方を探究してい

くところにあります。心情を行動や情景描写を基にして読み取ることと、それを音声言語として表現するという内容と方法の統合が求められる実践でした。

### 3. アクティブ・ラーニング実施における留意点

二つの授業とその事後研究会の場で感じたことをまとめてみると、以下のようになります。

#### ①言語活動の明確化

相手意識（誰に）目的意識（何を何のために）を明確にして、学び方の定着をめざした言語活動を仕組むことが大切だと思います。子どもたちに、「どうしてこの活動をしているの。」と問うた時に、子どもたち自身が活動の意味を語れるようにしたいと思います。

#### ②主体的な学びの保証

個人作業であれ、共同作業であれ、その時の学びに関心・意欲・態度を発揮しながら取り組んでほしいと思います。きっかけは教師からの要求であっても、単元が終わるまでに学びに浸れるような主体性を求めたいと思います。

#### ③対話的な学習の質的転換

ここ数年、各学校での授業参観でよく見かけるのが、ペアやグループでの学習です。確かに学校で学ぶ意味は、他者の価値観を共有しながら進めるところにあります。しかし、ただ声が交流しているだけでは、対話的とは言えないと思います。何かを創造する対話であってほしいと思います。

#### ④単元学習と評価活動

言語活動が中心になり、子どもたちの主体性が発揮しやすく、学びの必然性も生まれやすくなります。しかし、子どもたちが1時間で何を学んだのか、子どもたち自身がそれを内省的に捉え、自覚できるかが大切になります。評価活動をシンプルに、そしてより効果的にしたいと思います。

#### ⑤教師の状況適応・判断能力

授業前にはより効果的な学びを保証したいと臨む授業ではありますが、実際にはなかなかうまくいかないものです。それは授業がより現実的な側面を持っているからです。私は、想定外の事態が起きた時の教師の適応・判断能力こそ、授業を高めるチャンスだと捉えています。みんなで立ち往生しましょう。そしてそれを楽しみましょう。

### (3) 研修を伸す力

「高みをめざす」ということばがあります。私も常にそれを心がけて日々過ごしています。そして、学校現場で活躍される先生方にもそのことを大事にしてほしいと思います。目の前にいる子どもたちに対して、実態に即した指導方法を工夫することと、年度末、5年後、10年後というように、未来を見据えた眼ざしも持ち続けていただきたいと思います。教師の仕事の醍醐味は、目の前にいる子どもたちと数年後に出会い自分の仕事の結果を検証できるということです。複眼を持って日々取り組んでほしいと思います。子どもたちの未来が明るいことを信じて日々過ごしてほしいと思います。

私は最近二つの「力」を先生方に身につけていただけるように、研究会、研修会を企画しています。一つは、「教師力」です。私たちが専門性として、他の方々に語れることは、教師でなければできないという能力です。人の人生に関わる仕事をしているだけに、マニュアル通りにはいきません。そして、マニュアルはないのかもしれませんが。新任研修会な

どでお話しすることの一つに、「指導書を見ない教師になってください。」ということがあります。ここではあえて、授業力、対話力など書かずにいるのは、先生方の「教師力」の概念を膨らませ、確かなものにしてほしいからです。この研修はそのためにあります。誰かから教えを請うだけでなく、自らが教える人にもなってほしいと願います。

もう一つは、「学級力」です。教育現場では、学級経営ということばの方が馴染みがあると思われます。ここで「学級力」ということばを用いるのは、学校・学年・学級づくりに子どもたちを参画させてほしいという願いからです。教師の熱意は必要です。しかし、それだけでは空回りします。こうだと思い込んでいた自分の学級と一緒にあゆむ共同的なメンバーとして見つめ直してみると、自然とアクティブ・ラーニングを創るヒントが見えると思います。未来を見据えて、子どもたちと授業を通した成長を共に歩んでいただくことを期待しております。

(2017. 2. 21)

## 6 終わりに

新学習指導要領の中から、「アクティブ・ラーニング」というキーワードがなくなってしまったことへの驚きは、教育に携わる者にとっては避けられないものであったに違いない。

しかし、「はじめに」でも記したように、たとえどんなに時代が変わろうとも、また何がしかのキーワードが前面に押し出されることがあったとしても、揺れ動き、見失ってはいけないものがある。それは、目の前の学習者に対して、どのような国語の力をつけていく必要があるのかということである。学習者がこれからの長い人生において、様々な困難にぶつかった時に、その壁を乗り越えていけるような国語の力を培っていかなくてはならない。

例えば、情報収集力、情報選択力、そして情報を再構成する力は、身につけなければならない力として、今に始まったことではなく、これまでも言われ続けていることである。

すなわち、学習者が生きる力として、備わっていなければならない力は不変だということである。

鹿毛雅治氏は、「自分にとって意味のある豊かな学びを子どもたち自らの意志で創造していけるような教育環境を整備することが教師の仕事である」と述べ、「意味のある自己決定を子どもができるような条件整備や援助、さらには自己決定に沿った活動がうまく展開しているかを注意深く見守ることこそが大切である」\*5としている。

学習者にとって意味のある豊かな学びを、これからも教師は追い求めていかなくてはならないのである。

今年度、「国語科教育アクティブ・ラーニング部会」で、各小学校から推薦された部員が多くのことを学び得ることができたと考える。最後のまとめの部会において、交流後のグループ発表の際に、あるグループの部員が「部会で学んだことを活かしていく中で、子どもたちが指導者である自分を超える瞬間がわかって、とてもうれしい。」また、別の部員は「この部会に参加し、主体的に取り組んできたことこそがアクティブ・ラーニングである。」と話していた。そしてアンケートを見ても、「1年間をとおして、評価について、目標について考えるいい機会になりました。ループリック評価やアクティブ・ラーニングについてわかりやすく知ることができました。」と書いていた。つまりは、部員にとって「アクティブ・ラーニング」とは何かということを、定義として知ることができたのはもちろんのこ

と、部会に参加し多くの交流などをとおして、「アクティブ・ラーニング」そのものを体感できたのではないだろうか。

今年度は、研究部員自らが授業実践を創り上げていく上で、課題を共有し試行錯誤しながら完成まで取り組んだ。

来年度に向けての課題としては、第二段階として、研究部員が、国語科授業におけるアクティブ・ラーニング授業実践モデルを作成し、市内の小学校に広めることで、多くの教員が授業を実践していく上での指針にしていくことに取り組んでいきたいと考える。具体的には、学習材を選定し、同じ学年のグループの部員同士が、言語活動をとおして身につく力を明確にし、単元展開を構想し授業実践モデルを作成する。そしてグループの代表者が授業実践モデルをもとに公開授業を実施し、その後に、作成したモデルが有効であるかについて再考し、軌道修正をしながら完成させていくというものである。市内の小学校教員が授業実践をする際に、それぞれの小学校の学習者の実態に合わせる形で、このモデルをアレンジして利用してもらうことができれば、国語科授業におけるアクティブ・ラーニングが今後さらに広まっていくだろうと考えている。

#### 【参考資料及び文献】

- \* 1 佐藤 学 「学び」から逃走する子どもたち 岩波ブックレット 岩波書店  
2000年12月
- \* 2 石井 英真 教育科学国語教育 明治図書 2016年9月
- \* 3 松下 佳代 「国語単元学習から学ぶ」教育科学国語教育 明治図書 2017年1月
- \* 4 大村 はま 授業を創る 国土社 2005年9月
- \* 5 鹿毛 雅治 子どもの姿に学ぶ教師－「学ぶ意欲」と「教育的瞬間」－  
教育出版 2007年1月



## 「アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）」

### で創る算数科の授業を目指して」

指導主事 相 方 伸 二

#### 【内容の要約】

本研究部会では、算数科における「授業改善」を図り、「アクティブ・ラーニング」（主体的・対話的で深い学び）で創る授業を構築していく上で、以下のような実践に取り組む。

○目標とする「授業像」「子ども像」を明確にする。

・専任講師による継続した指導をもとに、自分の授業の問題点を自覚化する。

○教師自身がアクティブな学びを体験できる参加型の研修を設定する。

・教材を研究する力、教材提示や指導技術等の実践的な授業力を身につける。

・「授業を観る力」、「子どもを観る力」を鍛え、「授業を創る力」に直結させる。

・各自が授業実践を持ち寄り、交流する。

○代表者による公開授業を年間2回設定する。

キーワード： アクティブ・ラーニング、授業改善

|     |                                                               |    |
|-----|---------------------------------------------------------------|----|
| 1   | はじめに .....                                                    | 25 |
| 2   | 研究について .....                                                  | 26 |
| 3   | 小学校算数科教育アクティブ・ラーニング部会について .....                               | 27 |
| 4   | 研究部員による実践報告および考察 .....                                        | 34 |
| (1) | 実践1【1年生】(園和小学校 亀岡 優子)<br>子どもの思いを引き出す指導の工夫 .....               | 34 |
| (2) | 実践2【6年生】(武庫南小学校 植松 大輔)<br>子どもたちのつぶやきを引き出す教材の工夫 .....          | 37 |
| (3) | 実践3【4年生】(明城小学校 友居 秀行)<br>子どもたちに自分の考えとの「ズレ」を生み出す導入の工夫 .....    | 40 |
| (4) | 実践4【5年生】(浦風小学校 山本 正貴)<br>子どもたちが「聞きタイ」「言いタイ」と前へのりだす導入の工夫 ..... | 42 |
| 5   | 専任講師による研究の総括<br>子どもの声と向き合う (関西大学初等部 尾崎 正彦) .....              | 47 |
| 6   | おわりに .....                                                    | 48 |

## 1 はじめに

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では、『解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手続を効率的にこなしたりすることにとどまらず、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付け、子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすること』の重要性について言及されている。

このような「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」を育む観点から、①『何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）』②『理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）』③『どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）』の三つの育てるべき資質・能力と各教科等を学ぶ意義の明確化について示されている。

また、「質の高い理解を図るための学習過程の質的改善」が求められており、具体的には、『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うこと』が必要不可欠であると述べられている。さらに、「深い学び」を実現するための鍵となるものとして、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」が軸となることも述べられている。

尼崎市教育委員会では、小学校において2020年（平成32年度）から全面実施予定である次期学習指導要領に向けて、改訂への背景・根拠・動向を捉えようと政策を進めている。そのなかでも、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と尼崎の子どもたちの実態に適した学習・指導方法の改善、そして、それらの改善した内容を市内へ普及させることを目的として、本年度より「アクティブ・ラーニング学習モデル研修事業」を実施している。

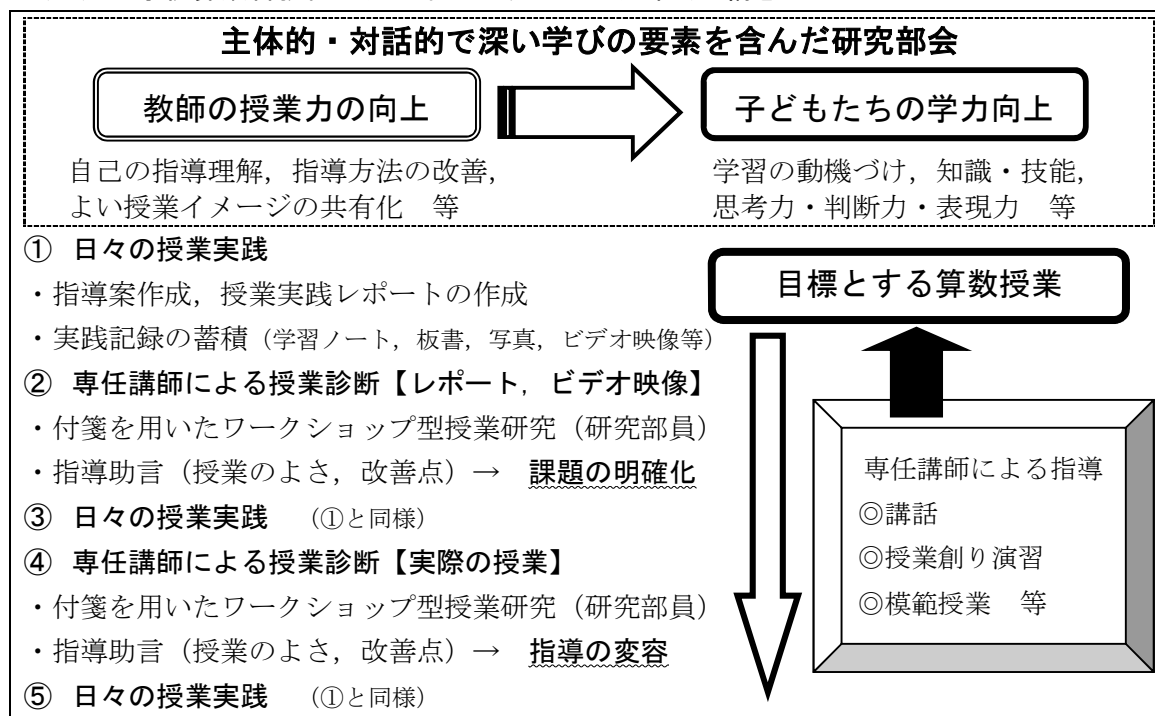
本研究部会は、前身となる昨年度実施の連続講座や研究部会において継続的な指導をいただいている関西大学初等部 尾崎 正彦 氏（全国算数授業研究会全国常任理事）を専任講師としてお迎えし、尼崎市内全41校から推薦された43名の教員で構成している。

本研究部会では、「授業改善」に焦点をあて、『アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）で創る算数科の授業』について研究を進めることとした。また、特徴的であるのが、教師自らが「アクティブ・ラーニング型の研修」を通して、「授業改善」を図っていくことである。次に示している通り、本研究部会での『学び』と毎日の『授業実践』が直結し、往還的な関係性を保ち続けられるような教師自身が学びを継続できる実践的なサイクルによる効果は大きいと考える。

専任講師の尾崎氏が『楽しい算数授業を構築するための近道はない。「練習の虫」と呼ばれるほどの教材研究や授業の延長線上に、子どもの声で創り上げられる安定した算数授業が構築できる。』と語られている通り、授業改善を続ける姿勢が大切であると考えます。

## 2 研究について

### (1) 小学校算数科教育アクティブ・ラーニング部会の構想



### (2) 小学校算数科教育アクティブ・ラーニング部会 部員

|    | 学校名     | 氏名      | 担当学年 |    | 学校名     | 氏名     | 担当学年 |
|----|---------|---------|------|----|---------|--------|------|
| 1  | 明城小学校   | 友居 秀行   | 4年   | 23 | 名和小学校   | 原田 誠久  | 6年   |
| 2  | 難波小学校   | 日高 千佳子  | 2年   | 24 | 塚口小学校   | 田渕 千尋  | 5年   |
| 3  | 難波の梅小学校 | 中尾 武史   | 6年   | 25 | 尼崎北小学校  | 杉村 公大  | 5年   |
| 4  | 竹谷小学校   | 山下 翔伍   | 新学習  | 26 | 水堂小学校   | 貝畑 健太  | 新学習  |
| 5  | 下坂部小学校  | 竹内 義明   | 6年   | 27 | 七松小学校   | 野川 啓   | 6年   |
| 6  | 潮小学校    | 安田 稔    | 1年   | 28 | 武庫小学校   | 中村 隆文  | 1年   |
| 7  | 長洲小学校   | 福森 愛子   | 3年   | 29 | 武庫南小学校  | 木口 範彦  | 6年   |
| 8  | 清和小学校   | 長門 純子   | 1年   | 30 | 武庫南小学校  | 植松 大輔  | 6年   |
| 9  | 杭瀬小学校   | 山本 由香里  | 4年   | 31 | 武庫北小学校  | 田久保 佑弥 | 1年   |
| 10 | 浦風小学校   | 山本 正貴   | 5年   | 32 | 武庫東小学校  | 吉向 良太  | 3年   |
| 11 | 金楽寺小学校  | 丸橋 弘和   | 5年   | 33 | 武庫庄小学校  | 浅野 尚子  | 1年   |
| 12 | 浜小学校    | 山田 慎哉   | 2年   | 34 | 武庫の里小学校 | 花岡 祐介  | 1年   |
| 13 | 大庄小学校   | 品田 雄一朗  | 1年   | 35 | 武庫の里小学校 | 由良 健一  | 5年   |
| 14 | 成文小学校   | 藤田 素子   | 2年   | 36 | 園田小学校   | 寺岡 純子  | 3年   |
| 15 | 成徳小学校   | 齊藤 宏之   | 6年   | 37 | 園田北小学校  | 坂本 和也  | 5年   |
| 16 | わかば西小学校 | 安部 裕子   | 1年   | 38 | 園和小学校   | 犬持 卓也  | 6年   |
| 17 | 大島小学校   | 井上 慧    | 1年   | 39 | 園和小学校   | 亀岡 優子  | 1年   |
| 18 | 浜田小学校   | 橋本 則子   | 2年   | 40 | 園和北小学校  | 岡本 光希  | 4年   |
| 19 | 立花小学校   | 玉置 智香   | 1年   | 41 | 上坂部小学校  | 湯浅 直幸  | 6年   |
| 20 | 立花南小学校  | 大久保 由美子 | 4年   | 42 | 小園小学校   | 藤田 孝幸  | 6年   |
| 21 | 立花西小学校  | 小野 裕未   | 2年   | 43 | 園田南小学校  | 小西 崇久  | 5年   |
| 22 | 立花北小学校  | 井實 康了   | 2年   |    |         |        |      |

### (3) 小学校算数科教育アクティブ・ラーニング部会 年間の取り組み

| 回 | 実施日              | 研修内容 等                                                                              |
|---|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 6月28日(火)         | 講話:「アクティブ・ラーニングで創る算数授業」<br>アクティブな授業創り演習(5年生「体積」の授業プラン)                              |
| 2 | 8月1日(月)          | 講話:「アクティブ・ラーニングで創る算数授業」<br>授業創り演習(5年生「偶数と奇数」の授業プラン)<br>指導案演習①・②                     |
| 3 | 8月3日(水)          | 基調講話:「クラス全員をアクティブにさせる算数授業の創り方」<br>講師:筑波大学附属小学校 主幹教諭 田中 博史 氏                         |
| 4 | 8月25日(木)<br>【午前】 | 授業映像を使った研究<br>第6学年「4段目の上り方は何通り?」トピック教材「変わり方」<br>(授業者 武庫南小学校 植松 大輔 教諭)<br>研究協議, 指導助言 |
| 5 | 8月25日(木)<br>【午後】 | 学年等のグループによる指導案交流, プレゼン協議<br>各グループ代表プレゼン発表(12グループ)→代表授業者2名選出                         |
| 6 | 11月22日(火)        | 1~3年 授業代表者による公開授業①<br>園和小学校 亀岡 優子 教諭 1年「ひきざん」<br>研究協議, 指導助言                         |
| 7 | 2月7日(火)          | 4~6年 授業代表者による公開授業②<br>明城小学校 友居 秀行 教諭 4年「直方体と立方体」<br>研究協議, 指導助言                      |
| 8 | 2月21日(火)         | 学年等のグループによる授業実践レポート交流(グループ→全体)<br>講話:「子どもがアクティブに動き出す算数授業創り」                         |

### 3 小学校算数科教育アクティブ・ラーニング部会について

#### (1) 第1回 平成28年6月28日(火) 旧教育総合センター 科学実験室

講話・演習「アクティブ・ラーニングで創る算数授業」

講師 関西大学初等部 教諭 尾崎 正彦 氏

##### 1. これからの日本の教育の進路

○算数授業は導入で8割決まる(手島 勝朗 氏)

○材料7部に腕3部(有田 和正 氏)

##### 2. 子どもが生き生きと動き出す授業創りのポイント

○尾崎先生の授業実践を通して 5年「図形の合同」

①形式指導では思考力は深まらない

算数で鍛える思考力

帰納的な考え方, 類推的な考え方, 演繹的な考え方, 一般的な考え方,  
算数的読解力, 再現力

②「たい」を引き出す授業構成を→ズレを授業場面に位置付ける

友だちの考えとのズレ, 予想とのズレ, 感覚とのズレ, 既習事項とのズレ

③「問い」の連続が授業を変える

##### 3. アクティブな授業創り演習

○5年生「体積」導入場面の授業プランを考えよう。

グループ検討→代表による模擬授業→尾崎氏の授業実践を通して



4. 子どもが使う言葉を共有化し、  
価値づける  
○価値ある子どもの声や姿などを授業の舞台に載せ、クラス全体で共有・発展させていく
5. 次回に持ち寄る課題  
○公開授業の単元を決める  
○指導プランの概略を考える
6. 研究部員の振り返り



- 今の自分の授業を見直すきっかけになりました。1時間ごとの授業がとぎれとぎれになっているので、子どもたちの思いにフィットした授業展開、問いの連続など明日からの授業づくりをもう一度考えたいと思います。
- 子どもの「たい」を引き出すための導入やしかけの大切さが改めてわかりました。問いがうまれるような流れを考えて、授業を創っていきたいです。

## (2) 第2回 平成28年8月1日(月)教育総合センター 602研修室

講話・演習「アクティブ・ラーニングで創る算数授業」

講師 関西大学初等部 教諭 尾崎 正彦 氏

### 1. 教師の腕が落ちる？夏休み



### 2. 5年生「偶数と奇数」の場面をどう構成しますか？

個人作業→グループ検討→尾崎先生の授業実践を通して

### 3. 指導案演習 その1

(1) 指導案提案(15分程度)

(2) 質疑(グループ全体で1時間程度)

○同意点は青の付箋,

疑問点・改善点はピンクの付箋に記入

○次の提案者が司会

→同意できる点とその根拠や代案を示すことも  
大切な教師の授業技量

### 4. 指導案演習 その2

①各学年グループで代表授業を選出

②各代表授業者によるプレゼン→本代表授業2本選出 …次回(8/25)に実施



#### 5. 次回に持ち寄る課題

○同学年の代表授業と同じ場面の授業略案作成（他グループも可）

A 4 版 1 枚以内（裏表可），参加者分（4 8 部）を印刷

#### 6. 研究部員の振り返り

- ☐ いつもとても楽しくためになります。やはり，今日も授業の「導入」が大切であると勉強になり，また，自分の未熟さにも気付くことができました。また，明日からがんばっていきたいです。

☐ 指導案を持ち寄ることによって，自分では気づかなかった指導方法や児童が気づくであろうという点が多く見えてきてよかったと思います。

☐ 同学年の授業の提案を見られてよかったです。自分の授業プランに意見をもらえて，参考になりました。

### （3） 第3回 平成28年8月3日（水）教育総合センター隣接 学生会館

講話「クラス全員をアクティブにさせる算数授業の創り方」

講師 筑波大学附属小学校 主幹教諭 田中 博史 氏

#### 1. 小学校の算数科教育がなぜアクティブになりきれないのか。

○教え込み，繰り返しの練習，形式通りの展開に終始する授業になっている。

○教師がアクティブになりきれないから？

○アクティブな展開によって，子どもが育ったという実感がもてないから？

○「子どもたちがちゃんと学習しているといえるかどうか」教師が不安を感じている



#### 2. 具体的な算数の授業実践を通して

（追究のプロセスを楽しむ子どもたち）

○アクティブ・ラーニングのコツは，教師がいかにかうまくボケるか

→ 教師が動かない子どもの背中を懸命に押している

→ 教師が半歩下がってみる 「たまたまじゃないの？」

→ 子どもが自分で動き出さないと意味がない「たまたまじゃないよ。だって…」

○「子どもってすごいな」と思える瞬間をたくさん味わう

→ 最初から「教えること」に気負い過ぎない

（教師である自分だけが答えを知り尽くしている…）

→ ときには子どもたちといっしょになってドキドキ，ハラハラする時間を楽しむ

○ノートはきれいだけど，テストをやると理解できていない。

→ 「まとめは写す」と「まとめは子どもが自分で行う」の間を考える。

→ 子どもは先生が書いたまとめにまちがいがあるとは思っていない。

→ 先生がまちがいを含むまとめを書いて，「先生のまとめ方でいいかなあ？」

#### 3. 研究部員の振り返り

- ☐ 子どもをアクティブにさせるには，教師が半歩下がって話を聞き，発見する喜びを味わわせることが大切だと学びました。

- 生きた授業をするために、教師はどうあればよいか、大変心を動かされる研修でした。  
考える子にするために、教師と子どもの位置が大切だということがよくわかりました。
- 言葉の使い方一つで子どもが答えやすい環境をつくれたり、対応の仕方一つ変えるだけで、子どもの可能性を広げたりすることを実感し、教師の言動一つ一つの大切さを感じました。

#### (4) 第4・5回 平成28年8月25日(木) 教育総合センター 602研修室

講話・演習「アクティブ・ラーニングで創る算数授業」

講師 関西大学初等部 教諭 尾崎 正彦 氏

##### 1. 学びの軌跡で創る算数

授業を見る眼、子どもを見る眼を鍛える

##### 2. 授業を分析しよう (個人→グループ交流→全体交流)

第6学年「4段目の上り方は何通り?」【トピック教材「変わり方」】

(授業者 武庫南小学校 植松 大輔 教諭)

視点①: 子どもは能動的に動いていたか

→子どもが動いた瞬間はどこか?

→動いた瞬間を引き出すために

有効な働きかけは何か?

視点②: 次の公開授業に引き継ぐものは何か

→同じ手立てで試すことは何か?

→改善した手立てで提案することは何か?

○青付箋…よい手立て 自分も使いたい

○赤付箋…課題 代案



##### 3. 指導案交流, プレゼン協議

○同学年の代表授業と同じ場面の授業略案を交流

○各グループの代表者が授業をプレゼンするための, グループ内での最終検討

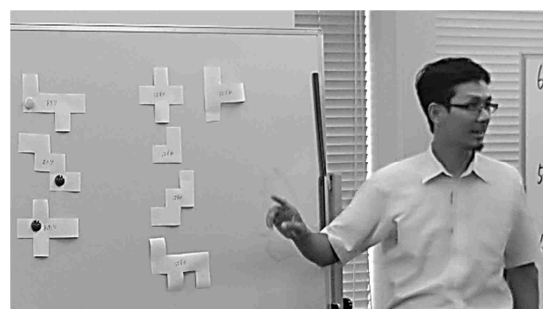
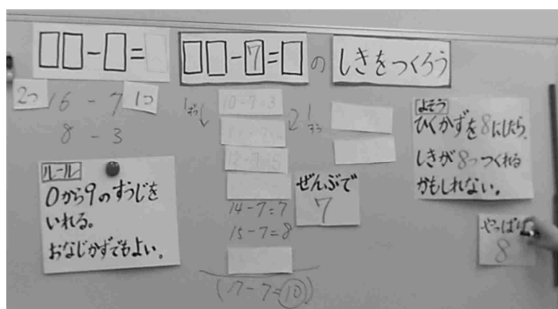
##### 4. 各グループ代表プレゼン発表 (12グループ) →代表授業者2名選出

○各グループ代表12名が模擬授業, プレゼンテーション用ソフトの活用, 使用する教材(具体物)を提示等により, 「アクティブな算数授業」について提案する。

○提案された授業のなかから, 「一番みてみたい授業」に举手し, 決定する。

【1～3年 代表授業者】園和小学校 亀岡 優子 教諭 1年「ひきざん」

【4～6年 代表授業者】明城小学校 友居 秀行 教諭 4年「直方体と立方体」



## 5. 次回に持ち寄る課題

○代表授業と同じ場面の指導略案作成（どちらかの代表授業）

A 4版 1枚以内（裏表可），参加者分（48部）を印刷

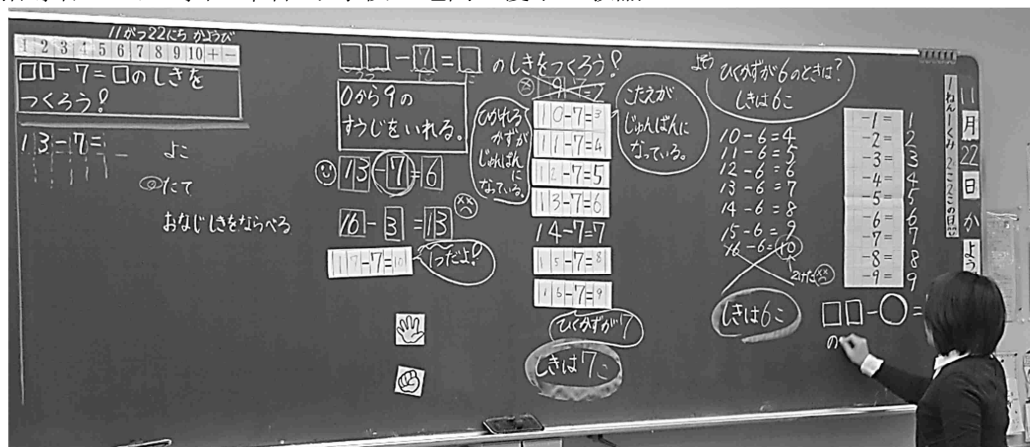
## 6. 研究部員の振り返り

- 一つの単元でも先生方のいろいろな考え方で指導案が工夫されていて、とても参考になりました。子どもたちがアクティブになる授業をこれからも取り入れていきたいです。
- 研究部会に参加して、アクティブ・ラーニングについて考えていく度に、これまでのように一つの問題について多様な考えで解決しようだけではだめだなと思っています。また、1時間をどうするだけでなく、単元で問いがつながる構成を考えるようになりました。

## （5） 第6回 平成28年11月22日（火）園和小学校

### 1. 公開授業 第1学年 算数科『□□-7=□のしきをつくろう』

指導者 尼崎市立園和小学校 亀岡 優子 教諭



### 2. 公開授業についての研究協議会

（ア）受講者による研究協議（付箋を用いて，個人→グループ→全体の順で）

※自分が本時の授業を実施することを想定し，「どんなふうに展開したいか」等について指導略案（本時案）にまとめたものを持ち寄る。

（イ）指導助言

講師 関西大学初等部 教諭 尾崎 正彦 氏

#### 【この授業のよさ】

- 教師の演出力抜群
- 自由に呟く，価値ある呟きが生まれる空気感
- きまりが潜む課題（子どもが動く課題）
- 同じ答えのカードを意図的に提示
- 曖昧さをそのままにしないこだわり
- 引く数と個数の関係への気づきが生まれた
- 一般化に向けた展開がある





【この授業の課題】

- 導入が長い
- ためを作ること
- 並べ方を演出すること
- ポイント場面での展開を急ぎすぎたこと
- きまりの一般化での感動が少なかったこと
- 「－6」は全体で実験する → その後、子どもに任せる

3. 研究部員の振り返り

- 教材によって子どものアクティブ感が生まれることや黒板の前に集合させたり、ペア学習を取り入れたりすることによって、一人学習で苦しんでいる子どもも救われるということに改めて感じました。
- 教師が実際の授業をみて、話し合えることが力になると感じました。尾崎先生が示された「ためをつくることの大切さ」や「代案」がとても納得できるものでした。
- 事前に本時の授業について考えてのぞむことで、授業をみる視点がよくわかりました。

(6) 第7回 平成29年2月7日(火) 明城小学校

1. 公開授業 第4学年 算数科

『6つの正方形をならべて、箱になる「あたりくじ」を作ろう』

指導者 尼崎市立明城小学校 友居 秀行 教諭

2. 公開授業についての研究協議会

(ア) 受講者による研究協議(付箋を用いて、個人→グループ→全体の順で)

※自分が本時の授業を実施することを想定し、「どんなふうに展開したいか」等について指導略案(本時案)にまとめたものを持ち寄る。

(イ) 指導助言

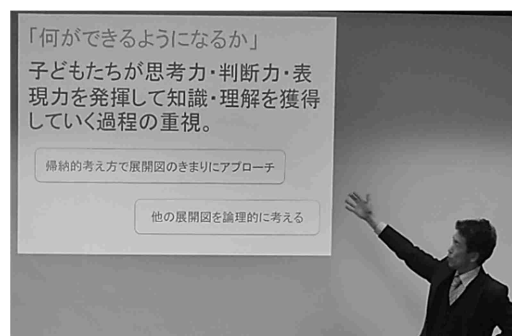
講師 関西大学初等部 教諭 尾崎 正彦 氏

【この授業のよさ】

- くじびきゲームで興味を引き出す
- 正方形6個でも当たりでない仕掛け
- 作図したくなる展開
- 1時間の流れはすばらしい
- 作図の目的意識をもたせる展開
- 全部で何種類? 真ん中は4つ?
- 教材の準備の完璧さ

【この授業の課題】

- 作図で引き出したいきまりは何か
- 展開を急ぎすぎしていないか
- 「あたりくじを作ろう」が主課題でよいか
- 授業のポイント子どもから引き出す
- 共有が不十分
- もっと子どもに任せる



- 呟きをつなげる
- 真ん中3つが発表されたとき

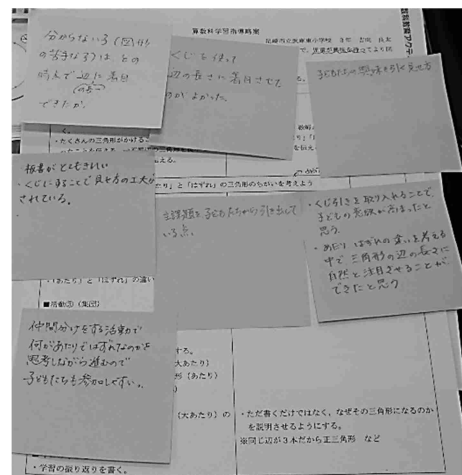
### 3. 研究部員の振り返り

- 授業を見たあとのグループでの交流，全体での交流が非常に勉強になりました。これも素敵な授業を提案してくださったからです。
- 子どもたちが主体的に活動する授業を見せていただき，とても勉強になりました。今後の授業実践にいかしていきたいと思います。
- いきなりの展開図からの導入で難しいかな？と最初は思いましたが，あたりやはずれなど，とても自然な流れで子どもたちの興味をひきつけていたと思いました。

## (7) 第8回 平成29年2月21日(火) 教育総合センター 602研修室

### 1. 算数授業実践レポートをもとにしたプレゼン交流 (グループ交流→全体交流)

- 「一番うまくいった算数授業」，「一番愉しく展開できた算数授業」をテーマとした授業実践レポートを各自で作成の上，持参
- 共通点を画用紙にまとめる。
- 三つの視点 「教材」「見せ方」「発問」



### 2. 指導助言

「子どもがアクティブに動き出す算数授業創り」  
講師 関西大学初等部 教諭 尾崎 正彦 氏

#### ①新学習指導要領(案)のキーワードを抜粋

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- 各教科特質の見方・考え方を鍛える。
- 見方・考え方と知識を関連付けて考えを形成する。
- 問題を見いだして解決策を考える。
- 思いや考えを基に創造する。

#### ②指導計画の作成

- 主体的・対話的で深い学びの実現
- 数学的な見方・考え方を働かせながら，算数の問題を見だし，問題を自立的，協働的に解決

#### ③三つの視点の授業の蓄積(算数授業実践レポート交流会より)

- 「教材」→ きまり・秘密が潜む
- 「見せ方」→ 見せたいことを見せない→見たくなる見せ方
- 「発問」→ 念押し・偶然性を問う

#### ④授業実践より(変わり方)



#### ⑤アクティブ・ラーニングのポイント

- 強烈な問いを引き出す課題創り
- 価値ある子どもの声にアンテナを張る
- 価値ある声の共有と価値づけ
- 価値ある声で授業を創る  
(子どもに任せる)



#### 3. 研究部員の振り返り

- 一年間の研修を通して、普段の授業づくりにつながることや自分のこれまでの授業を振り返って考えることができました。研修後、いつも次の日の授業を考えるのが楽しみになりました。
- 少しずつ実践をするなかで子どもたちの自分の考えを説明する言葉や仕方、数の見方が変わってきたように思います。
- 授業創りをするなかで、尾崎先生の言葉を意識して授業にのぞむと少し子どもたちの動きが変わってきたと思います。これからも実践を積み重ね、授業スキルをあげていきたいです。
- 子どもたちがアクティブに学ぶために、教師がたくさんのしかけを学ぶ必要があると実感しました。
- 全8回の研修で算数の授業を主体的に取り組めるものにするための考え方が身についたと思います。ぜひ、学校に持ち帰って広めていこうと思います。

## 4 研究部員による実践報告および考察

研究部員が年間を通じた研究実践の積み重ねを振り返り、今一度、自分自身の授業の現在地を捉えるため、今後、改善が必要な点、伸ばすべき点等を加味しながら「自己診断」を行うことが大切である。このような意図から、蓄積してきた学習指導案や授業実践レポート等をそのまま掲載するのではなく、まだまだ道半ばではあるが、研究テーマに沿ったそれぞれの「主張点」を提案し、「子どもの変容が肌で感じられた場面」、「有効であった取り組み（導入、指導技術、学習方法等）」といった具体的な授業場面を中心に構成している。

### (1) 実践1【1年生】 子どもの思いを引き出す指導の工夫

1年生の子どもたちは、教師に教えられることが多く、受動的になりがちである。1学期はゲーム活動を通して、楽しみながら知識・技能を身につけることを重点的にした。2学期以降、主体的に自分の思いを表現できる活動も取り入れるようにした。できる子どもは自分の思いをどんどん伝えることができるが、できない子どももいる。子どもたちが自分の思っていることをつぶやきやすくなるように取り組んだ。

#### 1. 実践の内容

##### ① 導入での課題の提示（一部分を隠す）【どちらがながい？】

「赤(①)のテープと青(②)のテープ、どちらが長い？赤だと思う人はパーで、青だと思う人はグーをあげてね」と言い、子どもたちに2本のテープの一部分を紙で隠した物を子どもたちに見せた。すると、多くの子どもたちは赤のテープを選び、パーにして手を

あげていた。

「なんでそう思うの？」と尋ねたところ、「だって赤の方が長いから。」と子どもたち。少数派の子どもたちも負けてはいられないと、「でも紙で隠しているかもしれないよ。」「あやしい。」と意見する。

自分の予想が当たっているかどうかを知りたいため、どうしたら長さを比べられるかを子どもたちが話し合い始めた。子どもたちが考えた方法で比べた結果、少数であった青のテープが長かった。赤を選び、予想がはずれた子どもたちは、とても悔しそうにしていたが、「次からは、はしっこに気をつけよう。」と長さを直接比較する時のポイントを口にしていった。

T なんで  
そう思った  
の?

C あやしい。

C どっちかな?

C 赤①と青②  
を重ねたら  
いいんじや  
ないかな?

C 青②の方が長かった。

C だって  
紙で隠し  
ているか  
もしれな  
いよ。

C 上と下に  
並べてみ  
よう。

C くっけたら  
いいと思  
うよ。

C どこに?

C はしっこに  
くっけてみよう。

がんばるぞ

今日のふりかえりを文で書くことが  
難しかったので、顔の絵を描かせるようにした。

- ポイント**
- ①問題の一部を隠したり、一瞬だけ見せたりする。
  - ②子どもが「ずるい！」と思うようなしかけを作る。
  - ③「だって」が使えるような発問をする。

②カードさがし 【ひきざん「 $\square\square-7=\square$ のしきをつくろう」】

$\square\square-7=\square$ の式を作らせ、カードに記入させた。教師がわざと同じ式のカードを集めたり、不足をつくるために特定の式のカードを集めないようにしたりした。集めたカードを黒板にランダムに貼った。

式が全部集まっていない状態で、「これで全部ですね。」と言い切った。子どもたちは、「違うよ。」や「まだある。」などつつぶやく。「なんで？こんなにたくさんあるから全部だよ。」と教師がとぼけると、カードを指しながら「だって同じのがある。」と一つにまとめていた。「 $\square$ の中に数字が入ってないから」や「ここは一桁にしないと」などと気付いたことを友達にどんどん伝える姿が見られた。

その後、ランダムに貼ったカードを並べて貼る中で、「次はあのカード。」「わかった。」と子どもたちの中でカードをならべるためのきまりを見つけた。

C 間違っているよ。

T なんで間違っているの？

C だって答えが2桁になっているもん。

C 同じカードがある。

C 同じカードは1つにまとめよう。

C まだカードが作れそうだよ。

C 順番になっている。

C ぜんぶおなじ7がある。

ひきざんが7

しきは7

**ポイント** ①わざと間違える。

②子どもの考えと反対のことを言って、とぼける。

③ばらばらのカードをならべていく中で、きまりを予感させる。

## 2. 実践を振り返って

今年度は、子どもたちに「算数って楽しいな。」と思ってもらうためにはどうしたらいいかを考えて、子どもたちを引きつける導入や、ゲーム活動、掲示物（カード、くじなど）を取り入れるようにした。このことで、子どもたちは「やってみたい。」「がんばるぞ。」と意欲的に学習に取り組んでいた。

子どもが分かりきっていることを教師がわざと間違えることで、子どもは「ちがう！」「こうだよ！」と必死に言ってくる。さらに、教師がとぼけて「なんで？これでいいはずだよ。」と言うと、「だって」を使って一生懸命教えようとしてくる。この流れを何度も取り入れたことで、子どもは「だって」を使って自分の思いを伝えようとする姿が見られるようになった。しかし、子どもの考えを引き出すために「なんで？」という言葉はまだ教師が多く使っている状態が課題である。子どもから考えが出ず、教師が一問一答するかのように聞き出し、展開してしまっていたので、子どもがもっとじっくり話し合える時間をもつようにしなければならなかった。子どもが全体に向けて、「なんでだろう？」と思ったことを素直に伝え、子どもたち同士で話し合いができるようにしていきたい。

## （２） 実践２【６年生】 子どもたちのつぶやきを引き出す教材の工夫

「先生方の授業でタイは泳いでいますか。」と尋ねられたことがある。筑波大学附属小学校OB教諭の正木 孝昌 氏である。その意味は、教師が提示した問題に対して「解いてみたい」、「話してみたい」、「説明したい」など子どもたちの素直な気持ちを引き出す授業である。どうすれば子どもたちのタイを引き出すことができ、子どもたちが本音で思っていることをつぶやく授業を展開できるのか。子どもがやりたいという意欲をもち問題に向かい友だちと本音をつぶやき合う。そのつぶやきが重なり合い深い学びとなれば、これほど楽しい算数授業はないのではないか。このような授業が展開できれば、算数好きの子どもを増やせるのではないかと考えた。そこで、本実践では子どもたちから自然に価値あるつぶやきが生まれる教材開発と出されたつぶやきを教師の言葉かけにより全体共有し深い学びへと紡いでいけるように取り組んだ。

### 1. 実践の内容

前回６年生を担当した時に資料の調べ方の単元でとても苦労した思い出がある。西小屋と東小屋の卵の重さを最小値、最大値、ドットプロット、柱状グラフ（ヒストグラム）、度数分布表などにまとめながら学習していく。しかし、そこには、子どもたちのやりたいという気持ちはない。なぜ卵の重さを調べないといけないのか？西小屋と東小屋の卵を比べて一体どうなるのか？といった気持ちから主体的とは程遠い受け身の授業が続いていくのである。そんな重たい空気の授業をなんとか主体的に学ぶ授業に変えたいという思いから筑波大学附属小学校教諭の盛山 隆雄 氏の実践を追試させていただいた。

AさんBさんともにジャガイモを２０個２．４kgずつほってきた。このジャガイモを使っ

て肉じゃがを作る。肉じゃがには360gのジャガイモが必要である。そこでジャガイモは何個必要かと子どもたちに問いかける。2.4kgを2400gに直し平均を出すと120gとなる。3個ぐらい必要なんじゃないというつぶやきを全体で共有していった。

3個ジャガイモが必要ということを全員で共通理解できた後にジャガイモ引きゲームに入っていく。ジャガイモのカードを3枚引き360gに近い方が勝ちというゲームである。Aさんのジャガイモは、先生チームとし、Bさんのジャガイモは子どもたちのチームと設定しゲームをスタートした。ゲームを進めていくとAさんばかりが勝ちBさんは全く勝てない。3回戦ほど行ったところで子どもたちは、怪しいとつぶやき始める。

「先生が仕組んでいるんじゃないの？」と教材を疑うつぶやきや「なんかAさんの方は、120gに近い数字ばかりが出ている。」と平均値に関するつぶやき、「Bさんは、幅が広い。」と散らばりに関するつぶやき、「40gとか200g」最大値と最小値に関するつぶやきなど、「価値あるつぶやき」

が多く出された。従来の授業では教師主導で教え込んでいた知識が子どもたちの方から出され、教師はその出された考え方を価値付けしていく展開となった。



**ポイント** ①教材をつくる際に細かな配慮を込める。

②子どもの必要感を見極める。

③価値あるつぶやきを見逃さない。

ポイントの1つ目は、「なぜじゃがいもを3枚ひかせるのか?」「なぜ先生チーム対子どもチームなのか?」について疑問をもっていた。しかし、自分で実践したり、尾崎氏の授業を見せていただいたりすることを通して、3枚引くのは、1回戦でより多くのじゃがいもの重さの情報を開示するためのものであることや先生チーム対子どもチームの構図は、子ども対子どもになると負けばかり続くチームの子どもの意欲が下がってしまうことなど教材に込められた細かな配慮が実践を通して感じる事ができた。

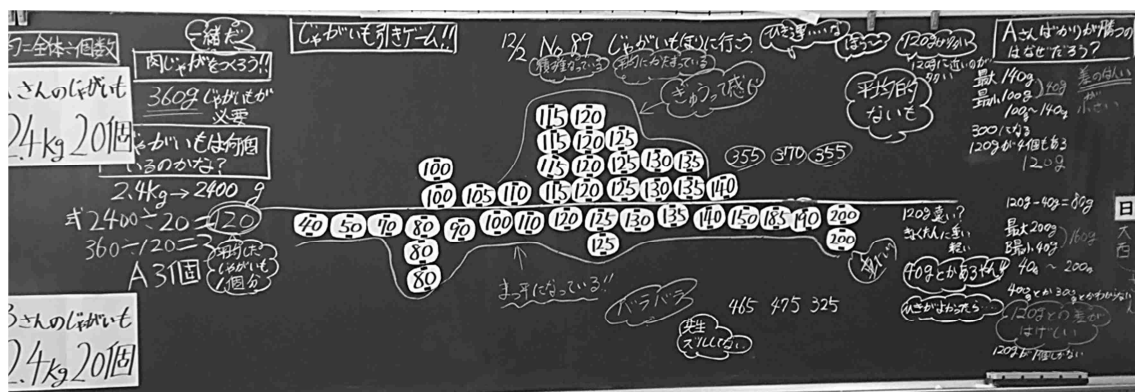
2つ目は、子どもたちが勢いよくつぶやいている最中に子どもが必要と感じていないプリント

を配ったり、考えを書かせたりすることは子どもたちのつぶやきの勢いを奪うということを実感することができた。子どもたちが、前のじゃがいもの数値だけでは、「見えにくい」「計算しにくい」といった困り感が生まれた時に必要な物を与えることが必要である。教



師の「プリントを用意したから必ず配りたい」とか「ここで絶対考えをノートに書かせたい」という教師のタイが強く出た瞬間、子どもたちのやりタイという気持ちは消えていく。

3つ目は、教師が必死に板書している後ろでは、子どもたちの思考はどんどん進んでいる。板書に意識を強くもちすぎると子どもたちの価値あるつぶやきやジェスチャーを見逃してしまうことになる。子どもたちのつぶやきにしっかりと寄り添いながらそれをみとり、価値づけしていくこの行為こそが教師の腕が問われる大切な部分であると改めて学ぶことができた。



## 2. 実践を振り返って

### ①子どもを全員みとる

まだまだ、全員の理解度をみとることができていないのが現状である。いい考えや式、図など子どもたちのノートやつぶやきには、価値あるものがたくさんある。その価値ある考えや価値ある考えの前段階のものを教師が拾い上げ、全体に共有することが大切である。これこそが教師の腕の見せ所である。

### ②全員に説明できる力をつけさせる。

算数の得意な児童ばかりが喋り、苦手な児童はその得意な児童が説明してるのを眺めているだけ。そんな授業になってしまいがちである。やはり、全員理解と全員が式などの論理的な説明ができるようにしたいというのが私の思いである。しかし、理想と現実の溝はまだ大きく力不足を感じる毎日である。いかにして全員を巻き込み、苦手な児童に対してもある程度追い込みながら力をつけさせていく、そんな授業を日々模索している。

### ③先行知識のある児童に対する指導

もうすでに先行知識があり授業に参加する意欲がない児童もクラスの中には、混ざっている。低学力の児童をいかに引き上げるかということも大切だが、また先行知識のある児童をどのように授業に巻き込んでいくのかということも大切である。学び合いを取り入れて分からない児童を先行知識のある児童が教えるという場面を取り入れる。しかし、この状況ばかりが続くと低学力の児童が自ら考えようとする意欲が低下する。やはりここでも教師がバランスを見極めて授業の舵取りをしていく必要がある。

今年1年の実践を振り返ってみて気づいたことは、両極が大切ということである。計



算練習させることも大切だが、問題解決学習のような論理的に説明させる力を育てることも大切である。低学力の児童を引き上げることも大切、先行知識のある児童も満足できる授業を展開することも必要である。

つまり、バランスが大切になってくる。ある算数の教育書には、「計算練習と問題解決型の授業を組み合わせたハイブリット型の授業展開が必要である。」と書かれている。

私たち教師は、1つのことに固執する傾向がある。授業の型を求め、形式的なドリル学習をさせれば、自分の役目を果たしているような錯覚に陥る。目の前の子どもたちの様子をくまなくみとり、柔軟に授業を進めていく力こそが今後の教師には、求められる。子どもたちに本当に必要な力とは何か？今必要な授業は、いったいどんな授業なのか？常に自問自答しながら教師自身が学び続ける覚悟を持つことが最も必要であると強く感じた1年であった。

### (3) 実践3【4年生】 子どもたちに自分の考えとの「ズレ」を生み出す導入の工夫

専任講師である尾崎 正彦 氏から、子どもたちは自分の考えと「ズレ」を感じた時に能動的に活動することを教えていただいた。子どもたちが主体的に学習に取り組むために、友だちの考えとのズレ、予想とのズレ、感覚とのズレ、既習事項とのズレといった「ズレ」を生み出す導入の工夫を試みた。また、児童が使う教具にも、思考の助けとなるような工夫を盛り込んだ。

#### 1. 実践の内容

##### ①子どもたちの興味を引き出す導入の工夫

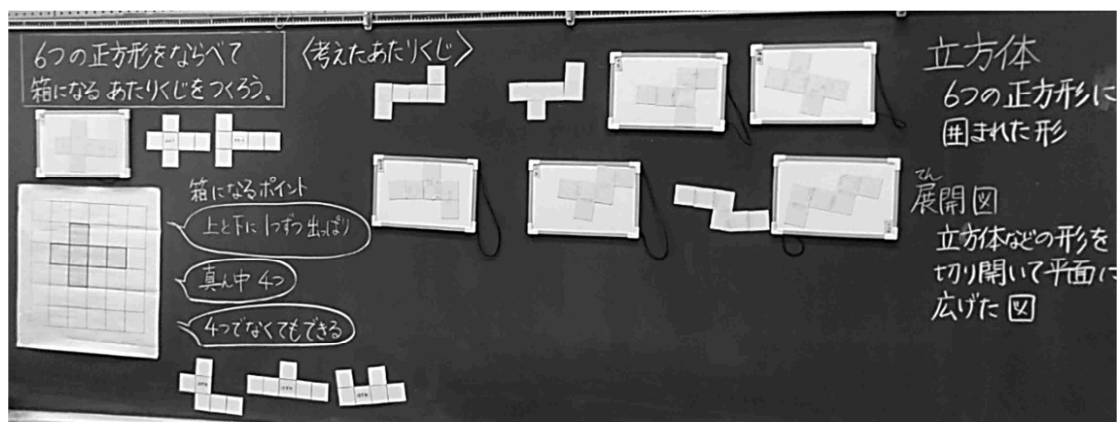
4年生「直方体と立方体」の単元は、教科書では、実際の箱を仲間分けすることから始まるものが多い。実際に箱を手にしたがらの学習は、子どもたちにとってわかりやすいと思うが、仲間分けをする必然性が子どもたちにはなく、こちらがやらせているという感じは否めない。そこで、子どもたちが自ら学習したくなるような展開に持ち込みたいとの思いから、別の流れを考えてみることにした。

そこで思いついたのが、導入で展開図を扱うというものである。しかし、ただ展開図をかくというのでは、子どもたちの興味を引き出すことができない。何か楽しく活動ができないだろうかということで考えたのがくじ引きである。立方体の展開図を「あたりくじ」として、その「あたりくじ」を考えてみようということにした。「あたりくじ」も、教師側から作ろうと投げかけたのではやらせているのと変わらない。そこで、「あたりくじ」である展開図を少しだけ提示することで、もっと「あたりくじ」になる形を見つけないかという気持ちを引き出すことにした。

本時の展開では、子どもたちがくじ引きをしていく中で、正方形の数が6こ組み合わせた形が「あたりくじ」だと認識していく。そのタイミングで正方形が6こでも「あたりくじ」ではない形を示すことで、子どもたちの中に「ズレ」を生じさせようと試みた。

子どもたちから「あたりくじ」を作りたいという言葉はなかなか出てこなかったが、その後の活動の様子を見てみると、自分たちで新たな展開図を見つけていくことにとっても積極的だった。また、「ズレ」が生じたことで子どもたちが考えている様子も伺えた。しかしながら、本時の主課題であった「あたりくじを作ろう」では、展開図のきまりを

見つけさせたいのか、種類を見つけさせたいのかがわからず、授業のポイントの押さえが不十分であった。そのため、子どもたちのつぶやきをうまく拾えず、展開が不明瞭となってしまった。



- ポイント** ①子どもたちの「ズレ」を生じさせる仕掛けで、思考を促すことができた。  
②つぶやきを拾い、子どもたちから授業のポイントを引き出すことが重要。

## ②児童が使う教具の工夫

展開図を考えさせるにあたり、図形が苦手な児童もたくさんいることから、実際に具体物を使わせたいと考えた。何度も立方体を組み立てたり分解したりして試行錯誤を繰り返すことができるように、一般的によく用いられる厚紙ではなく、マグネットシートとテープを用意した。厚紙とテープでは、一度張り付けたテープが取り外しにくく、次第に厚紙がいたんでくることが想像できる。また取り外すことができても粘着力が弱まるので、組み立てている途中で外れて崩れてしまう可能性もある。そこでマグネットシートを使用することでその問題は解決でき、児童の思考を妨げることなく活動に取り組みさせることができると考えたのである。

実際に子どもたちの様子をみてみると、とても意欲的に活動に取り組んでいた。何度もやり直しができることから、一つの展開図だけではなく、複数の展開図を見つけることができた児童も多かった。しかし今回、児童全員にこのマグネットシートを使わせたが、そこまでする必要があったかどうかは考えなければならない。2年時に実際の箱を使った学習は経験済みである。4年時では、空間概念を育んでいくところに2年時との違いがあり、具体物はそれを妨げる可能性も考えられる。したがって、この教具を必要とする児童にのみ使わせるという方法を選択しても良かったように感じる。



- ポイント** ①教具を工夫することで、意欲的に活動させることができる。  
②必要以上に教師側から手を貸すことは、児童の概念の成長を妨げる。

### ③次時につながるふりかえり

「問い」の連続がアクティブ・ラーニングにつながることは、これまで尾崎氏から教わってきたことである。そこで、ふりかえり時に、これまで学習してきた立方体の展開図とは違う直方体の展開図を示すことで興味を引き出し、次時の学習につなげようと試みた。

子どもたちのふりかえりに書かれた言葉を拾ってみると、めあてに対するふりかえりが大部分を占め、本時の成果が一定現れているように感じる。直方体の展開図に興味を示し、次時に調べてみたいという児童も数人いた。しかし、全体からするとわずかな割合である。むしろ、本時で取り扱った立方体の展開図をもっと見つけたいという数の方が多く、子どもたちからすると、その方が自然だったのかもしれない。

「問い」の連続でアクティブ・ラーニングの授業をつくるには、子どもたちから自然に出てくる疑問が必要だと感じた。今回の授業では、立方体だけでなく、他の形も調べてみたいという言葉が出てくればよかった。しかし、どのように引き出すかについては課題が残った。

**ポイント** 子どもたちからの自然な「問い」をつなげて授業をつくる。

## 2. 実践を振り返って

### 【成果】

- 導入の工夫により、子どもたちの興味を引き出すことができた。
- 正方形6個でも、「あたりくじ」ではない仕掛けをつくることで、子どもたちの中に「ズレ」を生じさせ、思考させるきっかけをつくることができた。
- 「あたりくじ」を作図したくなるような展開に持ち込むことができた。
- 教具についても、工夫を重ねることで、児童の思考の助けとなった。

### 【課題】

- 「あたりくじを作ろう」という主課題では、めあてが不明瞭であったため、種類を見つけるのか、きまりを見つけるのか、共有が不十分であった。
- 子どもたちの弦きを拾い、つなげることができなかった。
- 教師が手を出しすぎた。

### 【手立て】

もっと子どもに任せる。念押し発問や子どもの弦きを繰り返し、子どもたちから授業のポイントを引き出しつなげていく。そのためには、子どもたちの弦きを拾えるよう、普段からの意識が大切だと感じる。また、あらかじめ出てきてほしい弦きを教師側でもっておくことが必要である。子どもたちの弦きをつなぎながら授業を展開できるようにしていきたい。

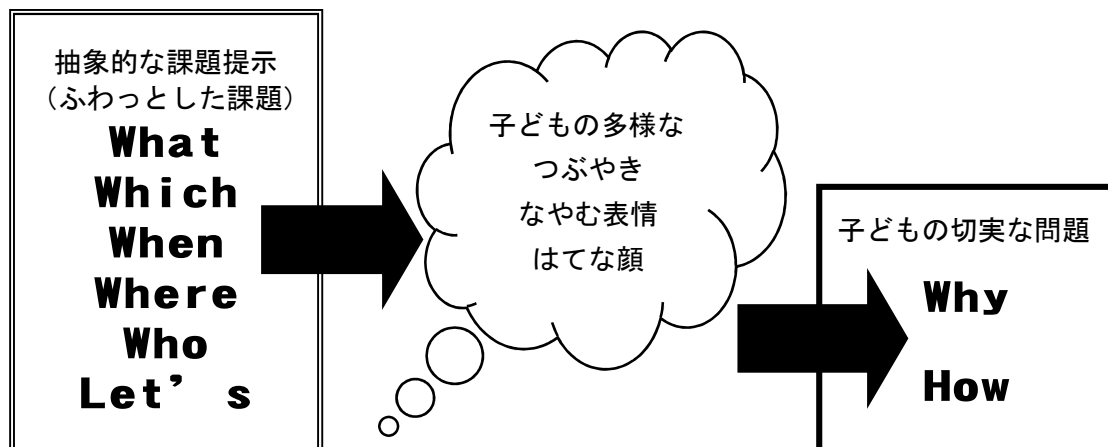
## (4) 実践4【5年生】子どもたちが「聞きタイ」「言いタイ」と前へのりだす導入の工夫

子どもたちが熱中する授業を構成するには、何かしらの仕掛けや手立てが必要である。導入場面、交流場面、焦点化場面の3つの場面において、教師がどんなアプローチをすれば、主体的な子どもを育てることができるのかを考えながら取り組んだ。

## 1. 実践の内容

子どもたちが必要感をもち、切実性のある思いで主体的に活動ができるような問題提示が必要である。その問題に対して違和感やズレを感じたり、驚きや疑問が生まれたりすることが「調べたい」、「考えたい」といった子どもたちが生む問いへと発展するからである。

次の図に示しているように、あえて抽象的な課題（ふわっとした課題）を提示することで、多様な子どもたちのつぶやきを生み出し、その過程を通して、子どもたちにとって切実な問いへと発展させていくような授業展開を心がけている。



あたかも「今日はこれを学習します。」と先が見えすぎてしまうような課題提示ではなく、子どもたちが「今日は何を学習するのかな？」とわくわく期待できるような導入、つまり子どもたちと教材をどのように出合わせるのかを考えることで、子どもの意欲もずいぶん変わってくると思われる。「あれ？」、「どうして？」、「おかしい！どうやるの？」等々、こうだ、ああだと自然とつぶやきが生まれる導入をめざしてきた。その子どもの会話や教師とのやりとりのなかで解きたいと思える問題へとつなげていくことが可能となるからである。

### 実践例① Which をつけた問題

○どちらがたくさん入る？～体積～

「どちらがたくさん入る？」と板書する。

C：何を入れるの？

C：水？

C：中に何かいれるの？ と返ってくる。⇒ 上の2枚の写真を提示した。

C：小さい箱を入れたらいいんじゃない。

C：1 cm ぐらいの箱を入れよう

C：どっちが多いかで比べられるね。⇒ 確かめよう

C：いや、広げたら分かるかも。

C：でも長さが分からないといけない。

T：長さは立方体が一辺 4 cm。

直方体がたて 5 cm，よこ 4 cm，高さ 3 cm。



A：立方体



B：直方体

C: 同じだ!  $4+4+4=12$   $5+4+3=12$

C: いや, ちがう! かけ算をする!

C: 何で, かけ算をするの?  $\Rightarrow$  Why の問いへ

**ズレ!**

**どうしてかけるの?**

どちらがたくさん入る?

水? 空? 実験できる? 何を入れます?

立方体 (立方体) 直方体 (直方体)

辺の長さ同じ 底面積 (底面積) 高さ (高さ)

1.  $4 \times 4 \times 4 = 64$  大きい 2.  $5 \times 4 \times 3 = 60$  よこの幅が大きい

実験の方法は?

どうしてかけるの? 4年 (4年) を使

立方体 (立方体) 直方体 (直方体)

正方形  $\Rightarrow$  1辺1辺 長方形  $\Rightarrow$  長さ  $\times$  高さ

$4 \times 4 = 16$   $5 \times 4 = 20$

$16 \times 4 = 64$   $20 \times 3 = 60$

## 実践例② Whereをつかった問題

○どれがどこまで進むかな? ~円周~  
エントリーを発表する。

①セロハンテープ ②正方形のカン ③おぼん ④長方形のねん土板 ⑤フープ  
ルールを共有する。見本を見せて, どこまで進むかを理解する。

C: 進むのは1周だ。 C: 大きい方が長い, 小さい方が短い

T: 大きいって?

C: 面積 C: 周りの長さ  
セロハンテープを1周進ませる。

$\Rightarrow$  C: 全然進んでない。

カンを1/4進ませる。

$\Rightarrow$  C: あっもう勝った!



どれがどこまで進むかな?

1. セロハンテープ 2. カン 3. おぼん 4. ねん土板 5. フープ

形 (形) の周りの長さ (周りの長さ)

計量 (計量)?

円 (円) の周りの長さ (周りの長さ) 直径 (直径)

|         | 周りの長さ (cm) | 直径 (cm) |
|---------|------------|---------|
| フープ     | 157cm      | 47cm    |
| おぼん     | 80cm       | 26cm    |
| セロハンテープ | 25cm       | 8cm     |

カン (カン) セロハンテープ (セロハンテープ) おぼん (おぼん)

C：もうどこまで進むかだいたい分かった。

T：どうして分かるの？

C：カンは正方形だから、一辺の長さが同じで、あと3回同じ距離すすむ。

C：だから、粘土板も2回動かしたら、あとはその倍。

T：じゃ、おぼんやフープは？

C：1周がその形の周りの長さってことは分かるけど、円の周りの長さ分からない。

C：何かきまりがあって、公式がありそう。

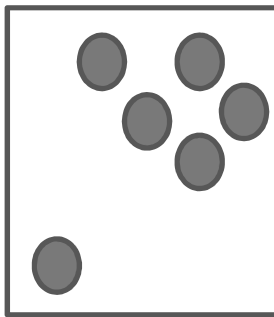
⇒ 円の周りの長さはどうしたら求められる？

### 実践例③ Whoをつかった問題

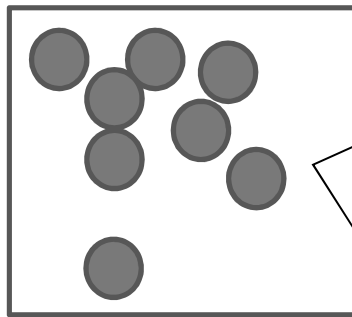
○ゆったりしているのはだれかな？～こみ具合～

筑波大附属小学校 田中 博史 氏の実践より

101号室



102号室



板書し、101号室の様子をスライドで見せる。「あの子がゆったりしている！」と気付けば、「○」を移動し、次のスライドへ。を3度くり返す。そして、「ゆったりとはどういうこと？」とたずねる。子どもたちは、距離が遠い、人と近くない、スペースが広い、窮屈じゃないと答えた。みんなを平等にする図案を考え、何人か紹介して、102号室のスライドへ。

101号室と同様に、102号室も平等に分けようと、101方式で図にすると、

C：あと1人いれば、ちょうどになる。

C：101号室は、6人で平等になるけど、

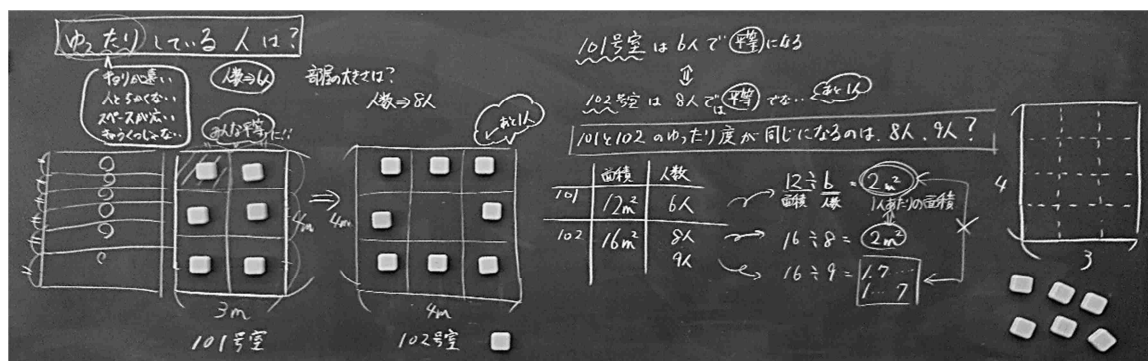
102号室は、8人では平等でない、あと1人でちょうどいい。

C：だって、あと1マス空いてるもん。

C：いや、8人のままでいいだろう。

ズレ！

⇒ 101号室102号室、ゆったり度が同じになるのは8人、9人？



### 実践例④ Let'sをつかった問題

○分数宝くじをしよう～倍分～

1～9のカードを使って、3つの分数を作ります。ただし、仮分数ではなく、真分数に

する。同じカードは使わない。このルールを共有し、3つの分数をつくる。

くじの点を発表する。

2点くじ  $1/2$  C：やったー！ ⇒ T：まだあります。

3点くじ  $1/3$  C：よっしゃー！ C：やっぱり！

T：何がやっぱり？気付いた人はヒント教えて！⇒分母と点が同じであることを共有

T：4点はどうな分数？ ⇒ C： $1/4$ ！

T：この3つの当たりくじしかないんです。

C：えー、 $1/9$ があったから、このままいくと9点だったのに。

T：でもまだこの2～4点の中で当たりの分数があるんです。

T：2点くじには、 $2/4$ もあるんです。

C：やったー！

C：あー分かった分かった！

C：気付いた！

T：何言っているか分からない人がいるから、もう1つだすね。

$3/6$ を提示する。

C：あーやっぱり！

T：次もわかるの？じゃ、どうしてこの分数は2点くじで同じなのかな？

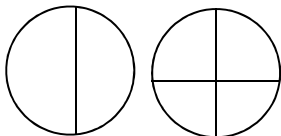
C：それは…

T：みんなが分かるように考えてみよう

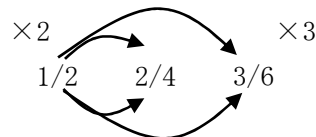
⇒ どうして、 $1/2$ や $2/4$ や $3/6$ は同じ2点くじなのだろうか？

### 【生まれた考え】

○円の図を使うパターン



○比例パターン



○計算パターン①

$$1 \div 2 = 0.5$$

$$2 \div 4 = 0.5$$

○計算パターン②

$$2 \div 1 = 2 \text{ 点}$$

$$4 \div 2 = 2 \text{ 点}$$

## 2. 実践を振り返って

①～④の実践事例を振り返ると、スタート時の子どもたちの姿、反応は今でも鮮明に記憶に残っている。あの子の発言や疑問から問いが生まれ、共有されたなどである。一方で、教師本位で課題を投げかけていることも多々あった。それは、しびれが切れた時、思わぬ方向に傾きかけた時で、準備しているが故に子どもの思考に寄り添いきれないことが理由の多くで、次年度への課題でもある。

本質はあくまで、中身であり、教材と出会った子どもとどう向き合うのか、子ども同士の対話をどううながすのか、どう解決に向き合わせるのかであると思う。また興味関心を引く導入の教材開発をしていくと同時に、中身での実践力も向上させていきたい。

## 5 専任講師による研究の総括「子どもの声と向き合う」

関西大学初等部 尾崎 正彦

昨年末、全国算数授業研究会高知大会が開催された。高知大会では、6年生の子どもたちに「度数分布」との出合いの授業を公開した。会場校の6年生の子どもたちに授業を行うのは初めてである。そこで、楽しく盛り上がるゲーム素材を準備した。

「100に近い方が勝ちゲームをしよう」と投げかけた。数字カードが入った封筒を2つ用意する。クラスを2つに分けて、どちらからの封筒を選択させる。それぞれの封筒から1枚ずつ数字カードを引き出し、100に近いカードを引いたチームが1点獲得というゲームである。ただし、封筒には95と102という数字が書いてある。中に入っている数字カードの平均値である。95の封筒を選択したチームは、それだけでテンションが下がってしまった。

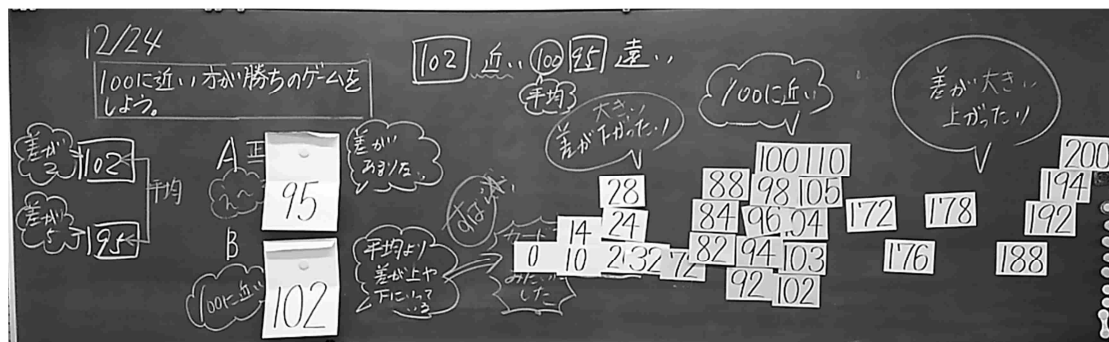
ところがゲームが始まると、結果は想定外になる。何度カードを引いても95の封筒を選択したチームの勝利が続く。4回目のゲームが終わったとき、その声が聞こえてきた。

「102は、差が大きい」 「差が上や下にいつている」

102の封筒から引かれた数字カードは、20や188である。一方、95から引かれたカードは、98や105である。この両者を比較して生まれてきた声である。しかし、この声の意味は、まだ他の子どもたちに理解されていない。そこで、次のように投げかけた。

「『差が上や下にいつている』という人がいるけど、どういう意味かな?」

この投げかけに、手を上下に動かしてジェスチャーで思いを表現している子どもがいた。「差が上や下にいつている」という曖昧な言葉を、見える形に置き換えようとする素敵な姿である。次は、このジェスチャーの意味をクラス全体で共有化する。



この共有化を通して、子どもたちは黒板にランダムに張られた数字カードを、度数分布状に整理し始めた。

子どもの声と向き合い、その背後にある思いをクラス全体で共有化することで、「数字カードを整理したい」という気づきや、度数分布につながる見方を引き出すことができた。

本研究部会に参加されている先生方の授業も、子どもの思いに向き合う教師の姿が見えている。一方、その思いをクラス全体で共有化する場面が課題である。指導案のゴールに縛られ過ぎず、授業展開を急がないことがポイントである。

子どもの思いに寄り添う姿勢をこれからも大切にして、日々の授業を「授業スキルを鍛える場」として意識することが大切である。子どもの思いを大切にする授業展開を継続していくと、やがては子どもの思いが教師の思いを超えていく。そんな授業創りをめざして、今後も教師としての授業スキルを高めてもらいたい。



## 6 おわりに

43歳を迎えた今も自分自身を更新し続ける努力を惜しまないメジャーリーガーのイチロー選手は、『打撃に関して、これという最後の形はない。これでよし、という形は絶対はない。でも、今の自分の形が最高だ、という形を常につくっている。この矛盾した考え方が共存していることが、僕の大きな助けになっている』、『失敗を重ねないと（安打は）生まれない。それが打撃。それで奥深くなっていったらいいと思う。』と語っている。ある担当記者は、『イチロー選手は、卓越した技術の上に妥協を許さない創意工夫や努力、常に「進化」を求め、「変化」を恐れず挑戦し続ける勇気を持ち合わせている。』と書いている。

私たちの日々の授業創りに置き換えることができる大きな指針となるのではないかと考える。

本研究部員は、尾崎氏の示す「価値ある子どもの声や姿・考え方などを授業の舞台に載せ、クラス全体で共有・発展させていくような授業過程」を目標とする算数の授業として設定し、「授業改善」を図るため、個々の研究部員が自ら課題をもって主体的・協働的に行う研究実践を積み重ねてきた。

年間を通じて、学校を越えた担当学年によるグループを編成されていることで、所属の学校はちがうが、同じ尼崎市の子どもたち、同じ学年の子どもたちという共通点をもった教員が集い日々の算数の授業創りについて刺激し合えるコミュニティがあることの意義はとても大きいと考える。

次年度は、研究部員が所属校を中心として、研究部会における学びや授業実践をより一層普及し、教師の「意識改革」、「授業改善」を推進するリーダーとしての「啓発力」を高めていきたい。そのことにより、校内や市内においても日常的に教師同士が「学び合う場」が生まれ、活性化されていくことが望まれる。

### 【 参考・引用文献 】

『アクティブ・ラーニングでつくる算数の授業』

著 者 尾崎 正彦 （株式会社東洋館出版社 2016/4/27）

『小学校 算数の授業づくりはじめの一步』

著 者 尾崎 正彦 （明治図書出版株式会社 2016/3）

『算数学力日本一への挑戦－問題解決型授業離脱の校内研修改革ヒント－』

著 者 尾崎 正彦 （明治図書出版株式会社 2014/10）

『ボケとツッコミがアクティブな空間をつくり出す対話でつくる算数授業』

著 者 田中 博史 （株式会社文溪堂 2016/3）

『田中博史の算数授業4・5・6年&授業を支える学級づくり』

著 者 田中 博史 （株式会社東洋館出版社 2015/3/21）

## アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び） の授業づくりを通して」

### － 「アクティブ・ラーニング」の授業実践と校内研修等の実施 －

情報教育担当係長 民 谷 洋 二

#### 【内容の要約】

中学校の「アクティブ・ラーニング授業実践部会」では、次の2点を大きなねらいとする。

○アクティブ・ラーニングの授業づくりを通して、その重要なポイントを明確化することができる。

○上記の視点をもとに、教員向けの研修等をデザイン、実施することができる。

市内全中学校から推薦された部員により組織された部会を通して、以下のような活動に取り組む。

○「アクティブ・ラーニング実践のファーストステップ」について学ぶ。

○自らが「アクティブ・ラーニング」を授業で実践する。

○「アクティブ・ラーニング実践のネクストステージ」について学ぶ。

○部会での内容等を広めるため、校内研修をデザインし、実施する。

○自分以外の教員（できれば他教科）も巻き込んで、「アクティブ・ラーニング」の授業実践を広める。

○アクティブ・ラーニング授業実践の公開授業を実施する。

○アクティブ・ラーニング授業実践の先進校視察を実施する。

キーワード：アクティブ・ラーニング，授業実践，校内研修

|   |                             |    |
|---|-----------------------------|----|
| 1 | はじめに .....                  | 49 |
| 2 | 研究について .....                | 49 |
| 3 | アクティブ・ラーニング授業実践部会について ..... | 51 |
| 4 | アクティブ・ラーニング通信について .....     | 61 |
| 5 | おわりに（研究のまとめ） .....          | 62 |

## 1 はじめに

尼崎市立教育総合センターが、今年度から実施している「アクティブ・ラーニング学習モデル研究事業」では、求める成果として「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）の効果的な活用により、教員の授業力向上を図り、児童生徒の学力向上をめざす。」と示している。

市内全中学校17校から推薦された部員により組織された「アクティブ・ラーニング授業実践部会」では、「これから必要とされる資質・能力の育成をめざし、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的に学ぶ学習の充実と尼崎の子どもたちに適した学習・指導方法を学び、市内への普及を図るとともに指導方法の工夫改善を一層推進する」ことを目的とし、部会を通じて「アクティブ・ラーニング授業実践」について学び、授業モデルを作成して全体に広めることをめざす。

今年度の授業実践部会には、大阪教育大学大学院連合教職実践研究科准教授の寺嶋浩介氏と鳴門教育大学大学院学校教育研究科講師の泰山裕氏を専任講師にお迎えして、年間の活動に取り組んだ。

## 2 研究について

### (1) 研究について

本授業実践部会の研究・活動については、第1回部会の中で、寺嶋氏から次のように示された。

まず部会の開催にあたって「互いに学び、広げよう」と、次の5点を確認した。

- ICTは必ずしも、必要ではない。アクティブ・ラーニングの本質を追究しよう。
- みんなが参考となる地に足ついた取組をし、互いから学び合おう。
- 教科を越えた「中学校の授業改善」をしよう。
- 成果を市内の先生方へ還元し、広げよう。
- まずは、自分たちがアクティブに取り組み、楽しもう。

次に、「この講座の大きなねらい」として、次の2点を示した。

- アクティブ・ラーニング（AL）の授業づくりを通して、その重要なポイントを明確化することができる。
  - ・アクティブ・ラーニングの特徴がわかる。
  - ・アクティブ・ラーニングの授業づくりや実施のポイントがわかる。
  - ・事例集としてまとめる（予定）。
- 上記の視点をもとに、教員向けの研修等をデザイン、実施することができる。
  - ・研修のデザイン・実施技法を習得できる。
  - ・普及できる。

また、事例集につながる具体的な取組として「アクティブ・ラーニング通信」の作成をしていくことや、ICTの活用にこだわることなく、アクティブ・ラーニング授業実践のツールとしては「まなボード」（書き込みができる透明シート付きのホワイトボード）を活用していくこととし、第1回部会で、各学校に10枚の「まなボード」を配布した。

(2) アクティブ・ラーニング授業実践部会 部員について

部員については、次のとおり国語、数学、理科、社会、英語の5教科の教員が参加した。

| 中学校      | 教員氏名   | 教科 |
|----------|--------|----|
| 成良中学校    | 和田 康伸  | 数学 |
| 中央中学校    | 大西 勝也  | 社会 |
| 日新中学校    | 濱石 龍   | 数学 |
| 小田中学校    | 酒井 勝広  | 数学 |
| 小田北中学校   | 辰 雄一   | 数学 |
| 大成中学校    | 窪野 春生  | 数学 |
| 大庄中学校    | 城 仁史   | 英語 |
| 大庄北中学校   | 前川 淳   | 社会 |
| 大庄北中学校   | 米原 恵   | 数学 |
| 立花中学校    | 竹中 葉月  | 数学 |
| 塚口中学校    | 藤平 玲   | 国語 |
| 武庫中学校    | 笹脇 正勝  | 社会 |
| 南武庫之荘中学校 | 楯原 輝明  | 国語 |
| 武庫東中学校   | 井上 範子  | 英語 |
| 常陽中学校    | 大久保 陽造 | 数学 |
| 園田中学校    | 谷川 和広  | 英語 |
| 園田東中学校   | 和田 健   | 理科 |
| 小園中学校    | 和田 健志  | 数学 |

(3) 年間の活動について

年間の活動については、以下のとおりである。

| 部 会 | 実施日    | 曜日 | 場 所        | 内 容                        |
|-----|--------|----|------------|----------------------------|
| 第1回 | 5月27日  | 金  | 教育総合センター   | アクティブ・ラーニングのポイント           |
|     |        |    |            | アクティブ・ラーニングを支えるシンキングツールの活用 |
|     |        |    |            | まなボードでの発表と活用事例             |
|     |        |    |            | アクティブ・ラーニング通信について          |
| 第2回 | 7月26日  | 火  | 教育総合センター   | 1学期の授業成果報告                 |
| 第3回 | 8月10日  | 水  | 教育総合センター   | アクティブ・ラーニングのネクストステージ       |
| 第4回 | 9月23日  | 金  | 教育総合センター   | アクティブ・ラーニングを校内でどのように伝えるか   |
| 第5回 | 11月30日 | 水  | 尼崎市立大庄北中学校 | アクティブ・ラーニング授業実践 公開授業       |
|     |        |    |            | アクティブ・ラーニングの校内研究をどうすすめるか   |
| 第6回 | 1月20日  | 金  | 教育総合センター   | アクティブ・ラーニングの取組を拡げる         |
|     |        |    |            | 授業成果の交流                    |
|     | 2月6日   | 月  | 篠山市立丹南中学校  | アクティブ・ラーニング授業実践 先進校視察      |
| 第7回 | 2月15日  | 水  | 教育総合センター   | 年間の授業成果報告                  |
|     |        |    |            | 本年度のまとめと次年度へ向けて            |

### 3 アクティブ・ラーニング授業実践部会について

(1) 第1回 平成28年5月27日(金) 旧教育総合センター 技術工芸室

#### 1. 「アクティブ・ラーニング実践のファーストステップ」

(大阪教育大学大学院連合教職実践研究科准教授 寺嶋浩介 氏)

##### ①アクティブ・ラーニング概論

##### ②前提として考えること

- ・アクティブ・ラーニングは「教育方法」なので、目的を実現させる手段である。
- ・学習者が主体的に取り組む教育方法である。
- ・学習者が何らかの「問題解決」に取り組む。
  - －解がある程度あるもの／今のところ解が見つからないもの
  - －教師が提示する／子どもがつくる
- ・目的は、活用する能力をつけることやよりよい人生を送ることである。
  - －学習のプロセスからも、学びが求められる

しかし、実際には「短時間の中で教えるべきことが多い」「忙しくて、完成された授業を行うのが難しい」「十分な学習環境が整っていない」「繰り返さないと力はつかない」という状況もある。

そこで、「教えるべきパート」と「AL型のパート」を意識的に整理し、ファーストステップとしては、単元の中盤から終盤にアクティブ・ラーニングのパートを用意してはどうか、との提案があった。

##### ③アクティブ・ラーニング ー設計のファーストステップ4原則ー

- ・課題を設定する。
- ・子どもが主体的・協働的に取り組むことの意義を明確にする。
- ・子どもが情報に出会い、整理・思考し、発信する。
- ・振り返らせる。

#### 【課題を設定する その1】

##### 解決すべき「課題」を示す

- ・パフォーマンス(外部に現れる行動)で示す
- ・どのような条件のもとでできればよいかを示す
- ・解決できる「課題」か？
  - －解決のための前提知識を明確し、それを生徒にもたせておく
  - －知識以外の学力として何が必要なのかを明確にする

##### 課題の例

- ・3種類の金属のうち、2種類を電極として組み合わせる場合、必ず＋極(陽極)になる金属は存在するのか。その存在の有無について、その根拠となる映像と解説の図を添えて、班としてひとつの答えを出しなさい。(中・理)
- ・日本の食料自給率が低い状況と、高い(輸入に頼らない)状況とで、どのような違いがあるかを、各グループで意見を作り、説明しなさい。(小・社)

【課題を設定する その2】

【主体的・協働的に取り組むことの  
意義を明確にする】

**子どもが動機づけられる「課題」**

ARCSモデル

- 面白そうな課題か？ 主
- 自分に関係がありそうな課題か？ 主
- やってみれば、何とかできそうな課題か？ 主、協
- 解決したら、達成感が得られそうな課題か？ 主、協

子どもが行う ←→ 教師が設定する

**主体的・協働的に  
取り組むことの意義を明確にする**

- 子どもにとって  
出される成果物にメリットがある場合  
–  $0.5+0.5=1$  (例:ジグソー学習)  
–  $1+1=3$  (新しい価値の創造)
- プロセスにメリットがある場合  
– 他の人を見て、「なるほど、こうすればいいんだ」と考  
え、次に活かすことができる(スキル)  
– 他の人と一緒に取り組んで、達成感がある(情意面)  
– 他の人にはない自分の良さの発見(情意面)

【子どもが情報に出会い、整理・思考し、  
発信する場面づくり】

【振り返らせる】

**子どもが情報に出会い、  
整理・思考し、発信する場面づくり**

- 子どもが情報に出会う  
– 必要な情報を用意する  
– 子どもの実態に応じて、広げたり、絞ったりする
- 子どもが情報を整理し、思考する  
– シンキングツールの活用
- 子どもが発信する  
– まなボードの活用  
– すぐ書ける、みんなで情報を共有しやすい

**振り返らせる**

- 自分たちがどう考えて、問題解決に至った  
(至らなかった)のか
- (至った場合)  
何が効果的に機能し、問題を解決できたのか
- (至らなかった場合)  
知識のなさが問題なのか、  
解決方法に問題があったのか  
教師にとって、授業づくりに対する評価にもなる

2. 「アクティブ・ラーニングを支えるシンキングツールの活用」

(鳴門教育大学大学院学校教育研究科講師 泰山 裕 氏)

①学校教育で育てるべき「思考力」「考える力」とは何か。

②「考え方」を示し補助するツール ⇒ 「シンキングツール」

③シンキングツールを活用することで

- 具体化 … この授業で行っている「考える」は何か明示する。
- 可視化 … シンキングツールに書き込むことで考えを可視化する。
- 過程の共有 … 意見の途中や根拠を明示し、思考の過程を共有する。

④シンキングツールを選ぶ。

- どんなツールを使えばいいのか？⇒どんな思考を求めているのか？

⑤思考スキルの一覧 ⇒ 授業の中の「考える」の種類 『考えてごらん』とは…

- |          |           |         |         |
|----------|-----------|---------|---------|
| • 多面的にみる | • 変化をとらえる | • 順序立てる | • 比較する  |
| • 分類する   | • 変換する    | • 関係づける | • 関連づける |
| • 理由づける  | • 見通す     | • 抽象化する | • 焦点化する |
| • 評価する   | • 応用する    | • 構造化する | • 推論する  |
| • 具体化する  | • 広げてみる   | • 要約する  |         |

⑥やってみましょう「どんなシンキングツールをどう使うか」

⑦思考スキルとシンキングツール

⑧思考スキルを指導する



3. 「まなボード」の活用事例（泉株式会社 亀田 氏）

「まなボード」を、各校10枚ずつ配布した。

4. 次回までの課題について

「アクティブ・ラーニング通信（AL通信）」1号を作成する。次回までに実施したアクティブ・ラーニング授業実践のうち「ベスト2」を選び、通信にまとめる。

2つの実践については、最低限、次の項目を盛り込む。「教科、指導略案、使用した教材、ALのポイント、生徒の反応」。

## (2) 第2回 平成28年7月26日（火） 教育総合センター 602号室

ねらいを「自分たちなりの【良いアクティブ・ラーニング】について、説明することができる」として、それぞれが作成した「AL通信第1号」をもとに、1学期の授業成果報告を行った。

1. それぞれがまとめた「AL通第1号」の中から、部会内でのベスト1を決定する。

①グループ内のベスト実践決定

それぞれが自分の実践を発表し、グループ内のベスト1を決定する。

②情報収集タイム

グループで「ベスト実践」に選ばれた教員はその場に残り、それ以外の教員は、手分けして他のグループへ移動する。

③部会内のベスト実践決定

情報を収集してきた教員による情報の共有を行い、部会内のベスト1を決定する。



2. 「良いと思うアクティブ・ラーニング」について共有する。

①「良いと思うAL」について、付箋に書く。

②共有し、グルーピングする。

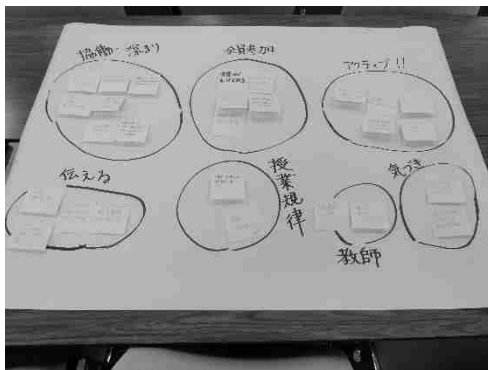
③グループごとに発表し、全体で共有する。



3. グループで考えた「良いと思うアクティブ・ラーニング」グルーピングの例

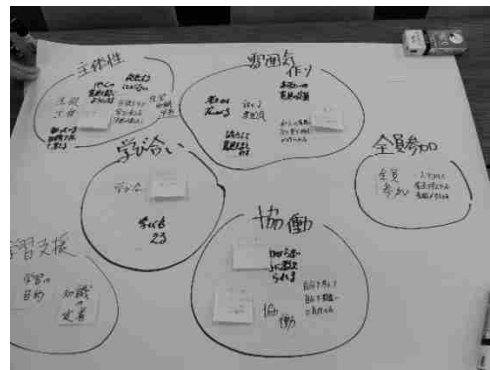
【例1】

協働・深まり，全員参加，伝える，  
アクティブ！！，授業規律，教師，  
気づき



【例2】

主体性，雰囲気作り，全員参加，  
学び合い，学習支援，協働



(3) 第3回 平成28年8月10日(水) 教育総合センター 602号室

「アクティブ・ラーニングのネクストステージ」として、実践事例をもとに、改善点について協議し、アクティブ・ラーニングポイントの修正を行う。

1. 「アクティブ・ラーニングのネクストステージ」

(鳴門教育大学大学院学校教育研究科講師 泰山 裕 氏)

①「深い学び」が「主体的・対話的な学び」によって実現できているか。

②深い学びを捉える視点

ア) 教科等を横断する汎用的なスキル

・汎用的なスキル等としては、例えば、問題解決，論理的思考，コミュニケーション，意欲など。

・メタ認知（自己調整や内省，批判的思考等を可能にするもの）。

イ) 教科等の本質に関わるもの

「エネルギーとは何か，電気とは何か，どのような性質を持っているのか」  
のような教科等の本質に関わる問いに答えるためのものの見方・考え方，処理や表現の方法など。

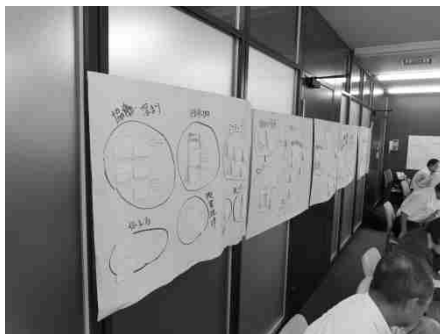
ウ) 教科等に固有の知識や個別スキルに関するもの。



- ③汎用的な能力を育てる学習活動とは何か。
2. 「ネクストステージの視点」からの検討
- ①個人で、AL通信第1号を見直す。
- ②グループ内で共有し、改善のポイントを検討する。
- ③挙げられた改善点をもとに、グループ内で「1つの実践」について、具体的に修正していく。



3. 「良いと思うアクティブ・ラーニング」のポイントを修正する。
- ①前回グルーピングした「良いと思うアクティブ・ラーニング」のポイントの追加・修正を検討する。
- ②その後、2つのグループ合同でペアを作り、共有する。
- ・共有内容は「授業実践の修正」「アクティブ・ラーニングポイントの修正」



4. AL通信第2号と第3号について
- ①第2号は「自分以外の先生にアクティブ・ラーニング授業実践をしてもらい、そのうち実践ベスト2の報告をする」。
- ②第3号は「アクティブ・ラーニング授業実践ベスト1の報告」と「アクティブ・ラーニングを広めるための校内での働きかけ」について。

#### (4) 第4回 平成28年9月23日(金) 教育総合センター 602号室

テーマを「アクティブ・ラーニングを校内でどのように伝えるか」とし、校内研修の実施に向けて、意見の交流等を行った。

1. 「アクティブ・ラーニングで考慮しないといけない要素の確認」  
(大阪教育大学大学院連合教職実践研究科准教授 寺嶋浩介 氏)
- ①アクティブ・ラーニング 学習過程の3要素(特定の型にこだわらない)
- ・学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結びつけていく「主体的な学び」
  - ・多様な人との対話や先人の考え方(書物等)で考えを広げる「対話的な学び」
  - ・各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、学習

対象と深く関わり、問題を発見・解決したり自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする「深い学び」

②アクティブ・ラーニングを意識する価値

- ・本時レベル … 生徒主体の割合が多い授業で、楽しく、意欲的に学べる。
- ・単元レベル … 学んだことについて、質的に深い定着を図る。
- ・年間カリキュラムレベル … 学んだことを利用して、問題を解決する（主体的学び）。
- ・学校カリキュラムレベル … 汎用的能力が育成され、未知の問題を解決できる。

③アクティブ・ラーニング 設計のファーストステップ4原則

④汎用的な資質・能力の育成

2. 「研修づくりを考える」

①これまで受けた研修の中で「良かったと思う研修」について、付箋に書き出す。

②グループ内で、発表・共有する。

③グループごとに発表し、全体で共有する。

3. 「研修づくりのステップを考える」

①講義型研修と参加体験型研修について。利点は？欠点は？

②ワークショップとは。

- ・3つの特徴「参加」「体験」「相互作用」
- ・基本構造「導入」→「知る活動」→「創る活動」→「まとめ」

③まとめ

- ・ワークショップ型研修とそのデザインには、基本となる型や原則がある。
- ・しかしながら、「こうすれば必ずうまくいく」という「唯一の正解」がわるわけではない。
- ・けれども、ワークショップ型研修の特徴や目指すものを理解した上で、デザインしてみることが重要である。

4. 「アクティブ・ラーニングに関する校内研修の内容を考えよう」

①グループで研修内容を考える。

- ・目的は？何を説明するか？どのような活動を展開するか？

②短時間研修（30分）と中時間研修（90分）

③グループごとに発表し、全体で共有する。



(5) 第5回 平成28年11月30日(水) 尼崎市立大庄北中学校

尼崎市立大庄北中学校の米原 恵 教諭に、数学の公開授業を行ってもらい、その後の部会では、「アクティブ・ラーニングの校内授業研究会を進めていく際のイメージを明確化できる」ことをねらいとして、協議した。

1. 米原教諭による公開授業(数学 3年 少人数クラス 23名)

単元「相似な図形」 小単元「相似な図形の相似比と面積比」

授業者は、単元の指導について、学習指導案に次のように記している。「本単元の指導においては、図形の性質を筋道を立てて説明できるよう、基本事項をおさえて論理的な思考をさせていきたい。また、具体的な場面を用いて相似の考えについて理解を深めさせていきたい。さらに本校で取り組んでいる『G L T』(Group Learning Time・グループ学習)では、生徒同士がわからないことを伝え、わかったことを教えるなど理解を深めることができるようになってきている。互いに学びあい、深め合う活動を重視し、論理的な思考になるように進めていきたい。」



2. 公開授業について、グループによる意見交流と全体での協議をする。



3. 指導助言(大阪教育大学大学院連合教職実践研究科准教授 寺嶋浩介 氏)

①米原教諭の実践について

- ・今日のような取り組みが日常化されている。
- ・生徒も慣れている。
- ・先生の時間感覚がある。

②「校内研究をどう進めるか」

- ・中学校の授業研究は
  - －何を共通の基盤とするか？(教科が異なる、担当ではない、等)
  - －生徒の取り組みや関わりから見る？

- ー教師には何が問われるか？
- ・アクティブ・ラーニングは曖昧だ → どう語り合うか。
- ー特定の型はない。
- ー自分たちで意味づけるしかない。
- ー意味づけるための言語を持っておく（3つの視点、生徒の学び、通常の授業の枠組み）

### ③ どうやって教えるか

| どうやって教えるか |                |                   |
|-----------|----------------|-------------------|
| 導入        | 1. 学習者の注意を喚起する | 「おやっ」と思わせる情報提示    |
|           | 2. 学習目標を知らせる   | 明確に、大きく           |
|           | 3. 前提条件を確認する   | 前の時間にやったことを想起させる  |
| 展開        | 4. 新しい事項を提示する  | 情報の焦点化、発問         |
|           | 5. 学習の指針を与える   |                   |
|           | 6. 練習の機会を設ける   | 繰り返し、情報の共有        |
|           | 7. フィードバックをする  |                   |
| まとめ       | 8. 学習の成果を評価する  | ことばと映像で定着を        |
|           | 9. 学習の保持と転移を促す | 次の時間（機会）に今回のことを示す |

### （6） 第6回 平成29年1月20日（金） 教育総合センター 701号室

AL通信の第2号と第3号をもとに、グループで実践事例の報告を行って意見を交流し、次回（第7回）の報告会に向けてイメージを作った。

- AL通信第2号（自分以外の部員の、アクティブ・ラーニング授業実践）をもとに、事例を共有する。
  - ①校内での事例を2～3つのタイプに分けて、それぞれ「××タイプ」と命名する。  
（例）意欲向上タイプ、創造タイプ、データ活用タイプ、課題解決タイプ、等。
  - ②広げるために、特に良いと思ったアプローチを紹介する。



- AL通信第3号（アクティブ・ラーニング授業実践ベスト1と校内での広まり）の内容について、グループで共有する。
  - ①AL通信第3号の内容について共有し、お互いに意見を交換する。

②グループ内でやりとりしたことを参考に、第7回での報告に向けて、自分の報告内容をブラッシュアップする。

3. 指導助言（大阪教育大学大学院連合教職実践研究科准教授 寺嶋浩介 氏）

①アクティブ・ラーニングのポイントは…

- ・育てたい生徒像を明確にする。
- ・生徒がどのように学ぶのかを支援する。
- ・不断の授業改善を行う。
- ・学校（組織）で取り組む。

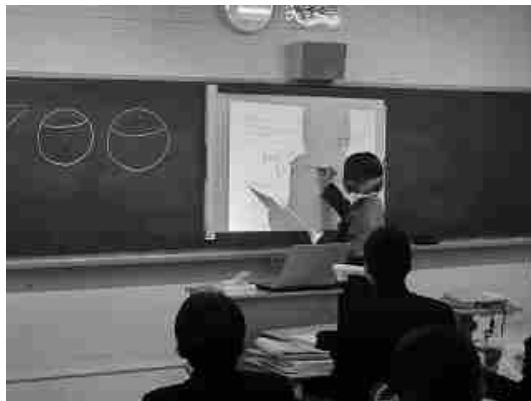
②問いかけてほしいこと

- ・自身で授業改善の創意工夫ができますか？
- ・取り組みを学校内に広げ、充実させることができますか？

（7）先進校視察 平成29年2月6日（月） 篠山市立丹南中学校

部員の有志により、パナソニック教育財団特別研究指定校であり、予習動画の作成や授業での教え合う活動などで先進的な取組をしている、篠山市立丹南中学校を訪問した。

内容としては、「授業の参観（数学、英語）」と「学校の取組についての説明（質疑応答含む）」であった。参加した部員からは、丹南中学校の取組について、次々と質問が出るなど、大変有意義な時間となった。



予習をしているので、始業後すぐに生徒の発表ができる。



少人数のクラスでは、1対1で教え合う活動に取り組む。



タブレット型パソコンで自分の考えを発表する。



A L Tと一緒に、動画教材を見ながらの英語の授業。

(8) 第7回 平成29年2月15日(水) 教育総合センター 701号室

各学校のAL通信1号～3号を一冊の冊子にまとめ、成果物として配布した。

それをもとに、部員がグループワーク形式で実践報告を行い、活発な意見の交流が行われた。

最後に、年間の活動のまとめとして、専任講師の寺嶋氏、泰山氏から講評をいただいた。

1. 「アクティブ・ラーニングについて」

(大阪教育大学大学院連合教職実践研究科准教授 寺嶋浩介 氏)

2. 実践事例発表グループワークⅠ



3. 教育委員会事務局からの連絡

①中学校情報教育研究会の実践「eライブラリの活用」

②学校教育課のアクティブ・ラーニング推進事業「タブレット活用実践報告」

(尼崎市立園田東中学校)



4. 実践事例発表グループワークⅡ

5. 参加者からの感想

6. 講評「アクティブ・ラーニング部会まとめ AL通信の実践から」

(鳴門教育大学大学院学校教育研究科講師 泰山 裕 氏)



## 5 おわりに（研究のまとめ）

前述の、第7回部会の中で、専任講師の泰山氏から講評をいただいた。

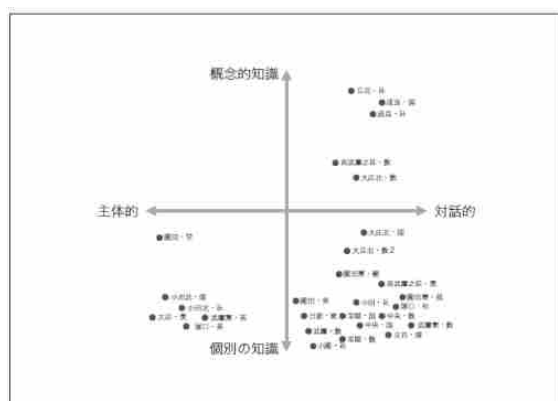
ここでは、その内容をまとめることで、今年度の授業実践部会のまとめとしたい。

### （1）A L通信の分類

各部員により作成されたA L通信を分類し、授業実践事例からわかることを整理した。

1. アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業改善が見られた。
2. 「対話的な学び」及び「主体的な学び」については、通信から読み取れた。  
→ 主体・対話のどちらを重視しているか。
3. 「対話的な学び」及び「主体的な学び」がどのような「深い学び」につながっているのか。 → 「教科の知識・技能」か「概念的知識」か。

#### 【A L通信を分類】



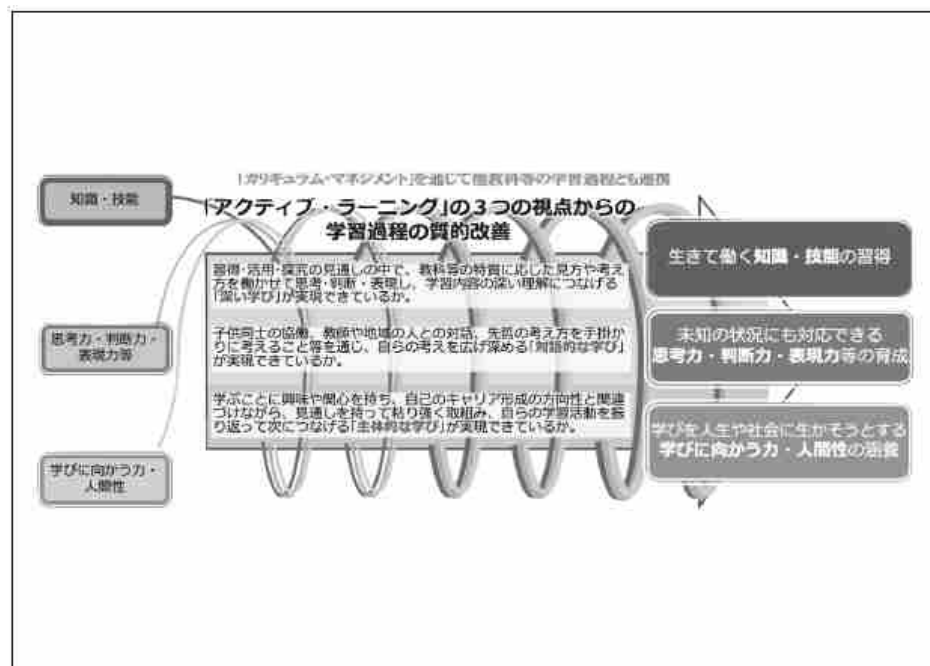
### 4. 対話的な学びの意義

A L通信の分類を見ると、今年度は「グループで考える活動」を通して、「個別の知識を深く理解するため」にアクティブ・ラーニングを取り入れている事例が多く見られた。

泰山氏からは「多様な他者と力を合わせて問題の解決や探求活動に取り組むことには、他者へ説明することにより生きて働く知識や技能の習得が図られること、他者から多様な情報が収集できること、新たな知を創造する場を構築できること、といった良さがある」との話があった。



## (2) 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点からの学習過程の質的改善



## (3) アクティブ・ラーニングをさらに進めるために

泰山氏からは、アクティブ・ラーニングをさらに進めるためには、まず「目的を共有すること」、すなわち「何のためのアクティブ・ラーニングか」を共有することが大切であるとの話があった。

また、「本時の学習目標の具体化を」として、「本時の活動によって育成を目指す資質能力は何か」を明確にしておくよう話があった。

「本時の活動によって育成を目指す資質能力」については、『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』も引用しながら話をされた泰山氏の講評から、以下のようにまとめられる。

### 1. 「生きて働く知識・技能」とは？

基礎的・基本的な知識を着実に習得しながら、既存の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容（特に主要な概念に関するもの）の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる概念としていくことが重要である。

資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものであり、資質・能力の育成は知識の質や量に支えられていることに留意が必要である。

#### ①同じ教科の別の場面へ ②別の教科の学習場面へ

#### ②広く実生活や問題解決場面へ

### 2. 「未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力」とは？

将来の予測が困難な社会の中でも、未来を切り拓いていくために必要な思考力・判断力・表現力等について、

- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法

を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程。

- ・精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面状況等に応じて互いの考えを適切に伝えあい、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程。
- ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程。

**「この授業で考えたこと」を「新しい場面でも使える思考力」につなげる。**

3. 「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性」とは？

資質・能力を、どのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素。

こうした情意や態度等を育んでいくためには、体験活動も含め、社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要である。

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自分の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
- ・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの。

**「今日の授業頑張るぞ！」を「学んだことをどの方向に使うかを決める、学びをコントロールする」につなげる。**

#### (4) まとめとして

1. 教科の知識・技能の理解、概念的理解につながるアクティブ・ラーニングを。
2. 思考力等の汎用的能力の育成へ。
3. 上記のようなことにつなげるためには…

①本時や単元を通して育成を目指す資質能力を具体的にすること。

→ ほとんどの教科が「内容」を「知識・技能」「思考・判断・表現」を区別して記述。

・どんな知識や技術を身につけるのか。

・どんなふうに考えられるようになるのか。 → 教科の「見方・考え方」

②教科での学びを教科横断的、汎用的なものに広げていく。

③今日の授業で、生徒は「何ができるようになったか」を大切にする。

小学校外国語活動における文字（アルファベット）の効果的な指導法を探る

指導主事 清水 康 弘  
研究員 山 本 宣 忠（園和北小）  
〃 篠 原 亜 衣（大庄小）  
〃 阪 本 千 文（武庫東中）  
〃 大 澤 奈緒子（常陽中）

【内容の要約】

昨年度より当教育総合センターでは、全小学校教員を対象とした外国語活動の研修を開催している。その結果、コミュニケーションの楽しさをあじわうことができる外国語活動の学習に関しては、多くの小学校で成果が上がってきているところである。

しかし、2020年度からの教科化にともない、これまで行われていなかった外国語活動の目標として「聞くこと・話すこと（やりとり）・読むこと・書くこと」の4技能5領域の習得があげられているが、本年度は「評価」する際に特に重要となるであろう「書くこと」に視点をおき、児童たちがストレスを感じないで正確にアルファベットを書くことができるためにはどのような手法があるかについて調査・研究していく。

キーワード：教科化，コミュニケーション能力，書く，学習指導要領の改訂『魔法のシート』

1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

2 研究の内容

（1）研究のテーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

（2）研究テーマの設定理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

（3）研究の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

（4）検証のための評価方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

（5）文字（アルファベット）指導における補助教材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

（6）作成に当たっての注意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

3 実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

4 研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78

5 おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79

## 1 はじめに

平成29年2月14日に文部科学省から、小学校で2020年度、中学校で2021年度から全面実施する次期学習指導要領の改訂案が公表された。「グローバル化への対応」を目指し、現在小学校5・6年に導入している外国語活動を3・4年に前倒しし、5・6年では英語を教科化するということである。3・4年では、『外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う』、5・6年では『外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて、外国語の基本と関わり、聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う』ということが基本となる。本市においては、これまでの外国語活動における指導力向上のための研修や公開授業などを積極的に推進することで「聞くこと」「話すこと」に関しての指導力はかなり向上してきている。

「英語教育の在り方に関する有識者会議」において、文字指導に関する以下のような報告（目標）が出されている。

- ① アルファベットや単語に慣れ親しみ、英語を読むことに対する興味を育てる。
- ② アルファベットを書くことに慣れ親しみ、英語を書くことに対する興味を育てる。

このような動向をうけて、本年度の外国語活動研究部会では、外国語活動の教科化に向けて文字（アルファベット）指導をどのように行えば効果があがるのかを研究していくこととした。メンバー構成は、小学校高学年担当教員2名と中学校（外国語）教員2名の計4名で両校種の多角的見地で研究を進めた。

## 2 研究の内容

### （1）研究のテーマ

小学校外国語活動における文字（アルファベット）の効果的な指導法を探る

### （2）研究テーマの設定理由

本市における外国語活動の授業については、学校ごとに工夫して取り組んでおり、2領域については児童の外国語によるコミュニケーション能力は向上している。現行の外国語活動は音声中心であり、中学校で「書く」ことについての指導が入るため、文字を書くことについての抵抗がある生徒が増えていると考えられる。新たに小学校では英語が教科となり、習得レベルをある程度均一にすることでスムーズに中学校英語につなげることが大切であると考え、効果的な文字の指導法および補助教材について研究していくこととした。それ故、本年度の研究テーマを『小学校外国語活動における文字（アルファベット）の効果的な指導法を探る』とした。

### （3）研究の進め方

教科化に向けて、実践を通して文字（アルファベット）の効果的な指導法を検証していく。

#### (4) 検証のための評価方法

授業者の学級児童を対象に、文字（アルファベット）指導前と指導後にアンケートを実施し、評価する。

#### (5) 文字（アルファベット）指導における補助教材

本市では、外国語活動の指導教材として文部科学省が推奨する『Hi, friends!』を活用している。イラストや内容も工夫されており、児童たちが楽しんで使える教材である。

デジタル教材が活用できることもあり、「聞くこと」「話すこと」の2技能の指導に関し

ては、たいへん使いやすいものとなっている。また、世界の文化についても触れられて

おり、児童にグローバルな意識を持たせるためにも効果的である。しかし、文字（アル

ファベット）を「書く」技能に関しては触れられておらず、指導するに当たって、教材

が必要である。そこで、外国語活動研究部会として文字（アルファベット）を書くこ

とに慣れ親しませ、興味を育てる教材作りに取り組んだ。

教材作成に当たっては、教科化に向けての文字指導における問題点や課題などを議論しながら作成した。

#### (6) 作成に当たっての注意点

① 児童は文字（アルファベット）を「書く」活動には慣れていないので、できるだけストレスなく取り組める教材であること。

② 多くの時間を費やすものではなく、毎時間少しずつ取り組める教材であること。

③ 「書く」回数もあまり多くせず、何回も繰り返し行い文字（アルファベット）に慣れ親しむことができる教材であること。

④ 児童が常に罫線（4本線）を意識しながら書けるよう、しっかり罫線を明記する。（特に大文字ではあまり問題はないが、小文字の場合、大文字と同じ形のものでも、文字がどこに書かれてあるかを意識させる）また教科書で使われている文字のフォントがパソコンに設定されていないので、正確に正しい文字（アルファベット）を習得させるため、手書き等で見本を示さなければならない文字がある。

●形がおなじもの→【C】と【c】、【P】と【p】、【S】と【s】、【O】と【o】など

●特に罫線を意識させて書かせるもの→【b】【d】【f】【g】【h】【j】など

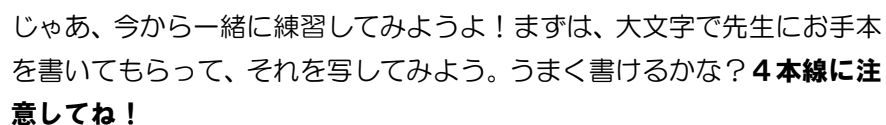
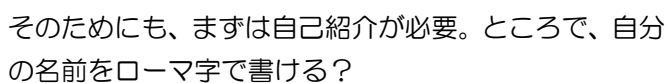
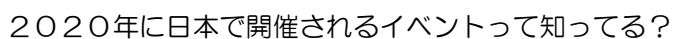
⑤ 文字（アルファベット）を書く上で、平行して発音の練習ができるように、多くの文字を一度に練習させず、1枚のシートに4文字程度にとどめる。

⑥ 文字（アルファベット）を書くだけの練習ではなく、世界のクイズやゲームなど、

世界に興味を持たせるようなものも織り交ぜる。

# 魔法のシート (1)

クラス( ) 番号( ) 名前( )



【お手本】

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

【練習】

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

### 【魔法のシート（自分の名前編）】

# 魔法のシート (2)

Class (     ) No. (     )

Name

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

【1】アルファベット（大文字）のA～Dを書いてみよう。

|   |  |   |  |  |  |
|---|--|---|--|--|--|
| A |  | A |  |  |  |
| B |  | B |  |  |  |
| C |  | C |  |  |  |
| D |  | D |  |  |  |

うまく書けたかな？ 書き順は例を書いています、自分が書きやすい順番でも OK! しっかりまねをして書き写してね！



【2】自分の好きなアルファベット（大文字）を書いてみよう。

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |



今、地球上にはいくつの国があると思いますか？

（日本の都道府県は、47ってことは知ってるんだけどなあ・・・）

答え                  力国

【魔法のシート（大文字編）】

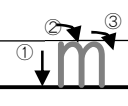
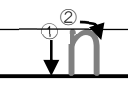
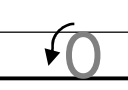
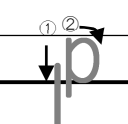
# 魔法のシート (12)

Class (     ) No. (     )

Name

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

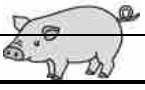
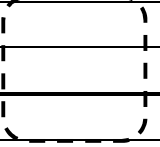
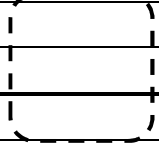
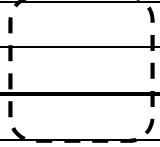
【1】アルファベット（小文字）のm～pを書いてみよう。

|   |                                                                                     |   |  |  |  |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------|---|--|--|--|
| m |    | m |  |  |  |
| n |   | n |  |  |  |
| o |  | o |  |  |  |
| p |  | p |  |  |  |

【n】は、ひだりがわの線が長いと、【h】とまちがうから注意が必要ね！



【2】ブタを英単語（小文字）で書けるかな？<ピッグなんだけどなあ…>

|                                                                                     |                                                                                     |                                                                                     |                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |  |  |
|                                                                                     |                                                                                     |                                                                                     |                                                                                      |
|                                                                                     |                                                                                     |                                                                                     |                                                                                      |



日本を除く世界の国で、いちばん日本人が多く住んでいる国は？

答え \_\_\_\_\_

【魔法のシート（小文字編）】



# 魔法のシート (20)

Class (     ) No. (     )

Name

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

## 【1】ビンゴゲーム（小文字）

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

- ①下の9マスに、自分の好きなアルファベット（**小文字**）を書く。
- ②先生が読まれたアルファベットがあれば、それを○で囲む。
- ③タテ・ヨコ・ナナメ、どれかが並べばビンゴ！

1 番目の線

2 番目の線

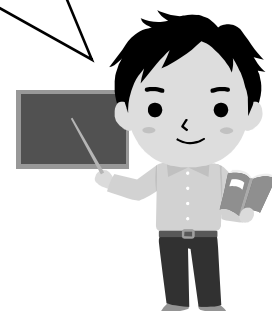
3 番目の線

4 番目の線

## 【2】ビンゴゲーム（小文字）

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

小文字を書くときは、特に**4本**の線がどこに来るのか気を付けるんだよ。きれいに書けると気持ちがいっしょだよ？3つそろった君、今日はラッキーなことがあるかもね・・・？



【魔法のシート（ゲーム編）】

### 3 実践事例

～ 文字（アルファベット）を「読む」「書く」ことを意識した授業実践 ～

#### 1. 実践の概要【第6学年 児童33名】

##### (1) 単元名

『夢宣言をしよう』 What do you want to be? (Hi, friends! 2 Lesson 8)

##### (2) 単元の目標

|                     |                                                                |      |                                      |
|---------------------|----------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------|
| コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 自分の思いが友達に伝わるように工夫して、積極的にどのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりしようとする。         |      |                                      |
| 外国語の表現・理解           | 聞くこと                                                           |      | どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現を聞いて理解する。 |
|                     | 話すこと                                                           | 発表   | 自分の将来の夢について「夢宣言」として、発表する。            |
|                     |                                                                | やりとり | どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする。           |
|                     | 読むこと                                                           |      | 英語で書かれた単語、文を声に出して読む。                 |
|                     | 書くこと                                                           |      | 手本を見ながら丁寧にアルファベットの文字を書き写す。           |
| 言語や文化に関する気付き        | 世界には様々な夢をもつ同年代の子どもがいることを知り、英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを通して、言葉の面白さに気付く。 |      |                                      |

##### (3) 指導にあたって

本単元では、「What do you want to be? / I want to be a ～.」という表現や職業を表す単語を扱う。この表現を使って、児童が「将来になりたい職業」についての表現に慣れ親しむことをねらいとしている。児童は今までに Hi, friends 1 Lesson 6 「What do you want?」及び Hi, friends 2 Lesson 5 「Let's go to Italy.」において、自分の欲しいものや行きたい場所について表現する音声に慣れ親しんできている。日常生活の中で、相手の思いを聞き取ったり、自分の思いを伝えたりすることは、コミュニケーションを図る上で大切なことである。この単元では、友達の夢を聞き取ったり、自分の夢を伝えたりする活動を通して、主体的にコミュニケーションをとる力を育むことができる。児童はこれまでの経験から、たくさんの職業を知っており、ある程度の知識をもっていることから、本単元は児童にとって親しみやすい単元であると考えられる。また、「ポリス」や「ドクター」のようにカタカナ語として身近に定着している職業もある。それらのカタカナでの発音と英語での発音の違いに気付かせることのできる単元でもある。職業の表現に親しむ中で、地域社会にはたくさんの職業があり、様々な人々に支えられて生活が成り立っていることに気付かせることもできる。また小学校第6学年は、卒業を控え、自分の将来について漠然とながらも想像を膨らませる時期でもある。この単元を通して、自分の将来就きたい職業や憧れについて考えることができる。

本学級の児童は、第6学年ということもあり、外国語活動を2年間経験している。1学期当初は、第5学年までに扱った英語の文章や単語が定着しておらず、聞き取りや発声に苦手意識を持っている児童が多くいた。そこで、各単元のゴールに自分の思いを表現する活動を設定し、そのゴールに向かって段階的にゲームやチャンツなどの活動を行うようにした。そうすることによって、児童は英語の文章や単語に必然性を感じ、目的意識を持って英語を表現するようになっていく。本学級の児童に取った事前アンケートの結果から、「外国語活動の授業は好きですか」という問いに対して、「好き／どちらかといえば好き」と答えた児童は、27名と学級全体の約82%にあたる。しかし、「会話をすることを楽しい」と思っている児童は11名（約33%）となっている。まだ、自信を持って英語の会話ができていないといえない。

本単元は、何度もくり返し口に出す活動とコミュニケーション活動をスパイラルに行い、最後に「夢宣言」をする発表の活動をゴールとする。何度も口に出しても、飽きずに楽しんで話せるように、チャンツやゲームのバリエーションを増やしたり、難易度に変化を付けたりしていく。また、単元最後の発表活動につながるようにスモールステップで活動を設定する。児童が自信を持って取り組めるようにするとともに、児童にとって成功体験が積み重なっていくようにしていきたい。そして、今回の単元では「読み・書く活動」を意識して取り入れている。授業の最初には、アルファベットの復習になる「魔法のシート」を行う。5分間ほどで、継続的に活用することができる内容になっているため、通常の授業内にアルファベットの復習ができるという利点がある。うまく活用しながら、書く活動への苦手意識をなくしていきたい。また、授業内では、英単語や英語の文章を提示しながら、授業を行う。児童が自然と文字をヒントにし、読みながら発音につなげていけるようにしていきたい。

#### (4) 単元の指導計画（全5時間）

| 時 | 目標と主な学習活動                                                                                                                                                                             | 評価の観点 |   |   | 使用表現                                                                                                                                                                                                                                       |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |                                                                                                                                                                                       | コ     | 表 | 気 |                                                                                                                                                                                                                                            |
| 1 | <p>様々な職業の言い方に慣れ親しみ、職業を表す語について英語と日本語の共通点に気付く。</p> <p>○【Let's Listen】「だれの夢か、考えよう」</p> <p>○「ビンゴゲーム」</p> <p>○「キーワードゲーム」</p> <p>○「ポインティングゲーム」 職業を表す語を聞いて、ペアでゲームをする。</p> <p>○「ミッシングゲーム」</p> |       | ○ | ○ | <p>〈主な語彙〉</p> <p>teacher /singer</p> <p>doctor</p> <p>cook / farmer / florist</p> <p>cabin attendant</p> <p>comedian / vet</p> <p>artist</p> <p>zookeeper / baker</p> <p>dentist / bus driver</p> <p>fire fighter</p> <p>soccer player</p> |

|           |                                                                                                                                                                                           |                       |                       |  |                                                                                                     |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2         | 就きたい職業について、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。<br><input type="radio"/> 【Let's Chant】チャンツを歌う。<br><input type="radio"/> 「チェーゲーム」<br><input type="radio"/> 「カード取りゲーム」<br><input type="radio"/> 「ラッキーカードゲーム」 |                       | <input type="radio"/> |  | 〈主な表現〉<br>What do you want to be?<br>I want to be a ～.                                              |
| 3<br>(本時) | 相手意識をもって、就きたい職業について、尋ねたり答えたりする。<br><input type="radio"/> 【Let's Chant】チャンツを歌う。<br><input type="radio"/> ラッキーカードゲーム<br><input type="radio"/> 【Let's Play】インタビューゲーム                         | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |  | 〈その他の表現〉<br>Hello.<br>OK. / Good. / Nice.<br>Once more, please.<br>Thank you.<br>Goodbye / See you. |
| 4         | 自分の夢を紹介する準備、練習をする。<br><input type="radio"/> 【Let's Chant】チャンツを歌う。<br><input type="radio"/> 【Let's Activity】<br>「夢宣言をしよう。」の準備、練習をする。                                                       |                       | <input type="radio"/> |  |                                                                                                     |
| 5         | 相手意識をもって、自分の夢を紹介しようとする。<br><input type="radio"/> 【Let's Chant】チャンツを歌う。<br><input type="radio"/> 【Let's Activity】<br>「夢宣言をしよう。」                                                            | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |  |                                                                                                     |

(5) 本時の目標 (3 / 5)

☐ 手本を見ながら丁寧にアルファベットの文字を書き写す。

【文字 (アルファベットを書くことへの慣れ親しみ)】

☐ 自分の思いが友達に伝わるように工夫して、積極的にどのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(6) 準備物

大型テレビ、パソコン、デジタル教材、絵カード、ワイヤレスマウス、ワークシート、ふり返しシート、ミニ絵カード (児童用)

(7) 本時の展開

|          | 児童の活動                                     | 教師の支援、指導上の留意点<br>●評価 [方法]                    |
|----------|-------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 導入<br>5分 | 1. 「魔法のシート」をする。<br>・発音、空書き、なぞり書き、文字練習をする。 | ・自信を持って発音させる。<br>・罫線を意識してアルファベットを書くように声をかける。 |
| 展開       | 2. あいさつをする。<br>・Hello.                    | ・教師とあいさつをする。                                 |

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 25<br>分           | <ul style="list-style-type: none"> <li>• How are you? It's ~.</li> <li>• How is the weather today? It's ~.</li> <li>• What day is it today? It's ~.</li> <li>• What's the date today? It's ~.</li> <li>• What time is it now? It's ~.</li> </ul> <p>3. 単語の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 絵カードを見て、発音する。</li> </ul> <p>4. チャンツをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• What do you want to be?</li> <li>• I want to be a ~.</li> </ul> <p>5. 本時のめあてを確認する。</p>                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童同士であいさつをする。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 英語と日本語の発音の違いを意識させる。</li> <li>• 尋ね方、答え方の英語表現をリズムを使って復習する。</li> <li>• 本時のめあてを提示する。</li> </ul>              |
| 活<br>動<br>10<br>分 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">         友達の夢について インタビューをしよう！ ~Let's interview!~       </div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                   | <p>6. ラッキーカードゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ペアにカードを見せて、質問する。<br/>相手が答える。交互に行う。</li> </ul> <p>7. インタビューゲームをする。</p> <p style="text-align: right;">【Let's Play】 P. 40</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デモンストレーションを見せる。</li> <li>• 担任→児童, 児童→担任, 児童同士で練習する。</li> </ul> <p>A&amp;B : Hello.</p> <p>A : What do you want to be?</p> <p>B : I want to be a ~.</p> <p>A : Thank you./Good./Nice.</p> <p>B : What do you want to be?</p> <p>A : I want to be a ~.</p> <p>B : Thank you./Good./Nice.</p> <p>A&amp;B : Good bye./See you.</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• What do you want to be?/I want to be a ~.の英語表現をペアで練習する。</li> <li>• 会話のやり取りは掲示する。</li> <li>• 形態を変えながら練習する。</li> <li>• Loudly (大きく), Kindly (やさしく), Clearly (はっきりと)を意識させるようにする。</li> <li>● 相手意識をもって、就きたい職業について尋ねたり答えたりしている。</li> </ul> <p>【コ表】〔観察, ふり返りシート〕</p> |



# 8. ふり返り

- ・ ふり返りに記入する。

# 9. あいさつをする。

- ・ That's all for today.
- ・ Good bye. See you again.



- ・ ふり返りをワークシートに書かせる。
- ・ 時間があれば、発表させ、次につながるような声かけをする。
- ・ 児童のがんばり、良かった点を伝える。

## (8) 事後研究会

授業者による公開授業後、参加教員との意見交流を行った。毎授業少しずつ児童に取り組ませている『魔法のシート』の活用法や、その取り組みについての質問や意見が活発に出された。児童たちは文字（アルファベット）を「書く」ことについて抵抗感なく活動している様子が参加教員にも伝わっていた。ただ、授業者への音声（発音）やイントネーションに対して中学校教諭からの意見が出ていた。これについては、専科ではない小学校教諭にとっての今後の課題と言える。また後半には、今井裕之氏（関西大学外国語学部教授）を講師として招聘し、学習指導要領改訂に伴う今後の外国語活動ならびに教科としての「英語」の方向性や、外国語に慣れ親しみ、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を育成する授業の工夫のポイントなどについて講話いただいた。



## 学習指導要領の改訂について

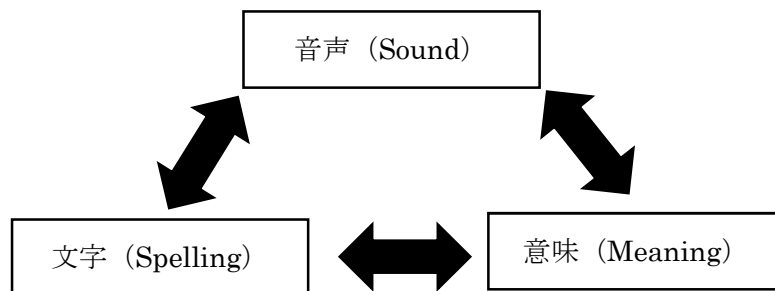
### ◆これまでと変わる点

- ① 3・4年含め、600～700語の習得
- ② 文字指導（特に「読み」「書き」）
- ③ 文法事項の定着（S+V+C / S+V+O）
- ④ 過去形・3人称が主語となる文の指導



大きく変わるように感じるが、実は大きく変わることはない

中学校英語へのスムーズな接続を意識し、音声(Sound)・文字(Spelling)・意味(Meaning)という3つの要素を連結させながら児童に外国語を感じさせ、総合的に外国語を使ったコミュニケーションを体験させることが大切である。



## 語彙指導について

600～700語という語彙は多いように感じる。だからといって単語を詰め込ませて暗記させることや、音声なく小テストなどで評価する指導はするべきでない。語彙力は言語による表現活動で十分にまかなえる。英単語に触れ、関連づけながら語彙指導を行うことへの工夫が必要である。また、児童たちに考えさせながら語彙指導を行うことで、パターン化した表現ではなく、英語で簡単な表現を使って身の回りの事柄を表すことができる能力が養われる。

<指導の一例(ゲーム)>

RIGHT or LEFT?

### 【LEFT GROUP】

farmer  
fire fighter  
soccer player

What's the rule?

### 【RIGHT GROUP】

doctor  
baker  
cook

(答え) 屋外で働く人と、屋内で働く人の職業

(9) 児童対象のアンケート実施

『魔法のシート』を外国語活動の授業に取り入れたクラス（6 学年 33 名）にシートの活用前（10 月）と活用後（3 月）の 2 回、アンケートを実施した。

【アンケート内容】

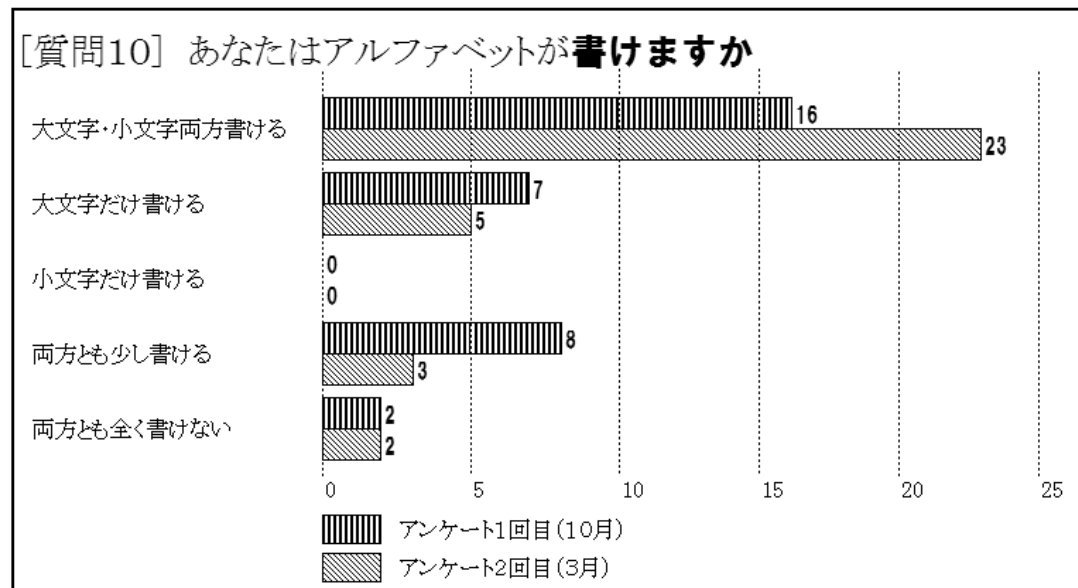
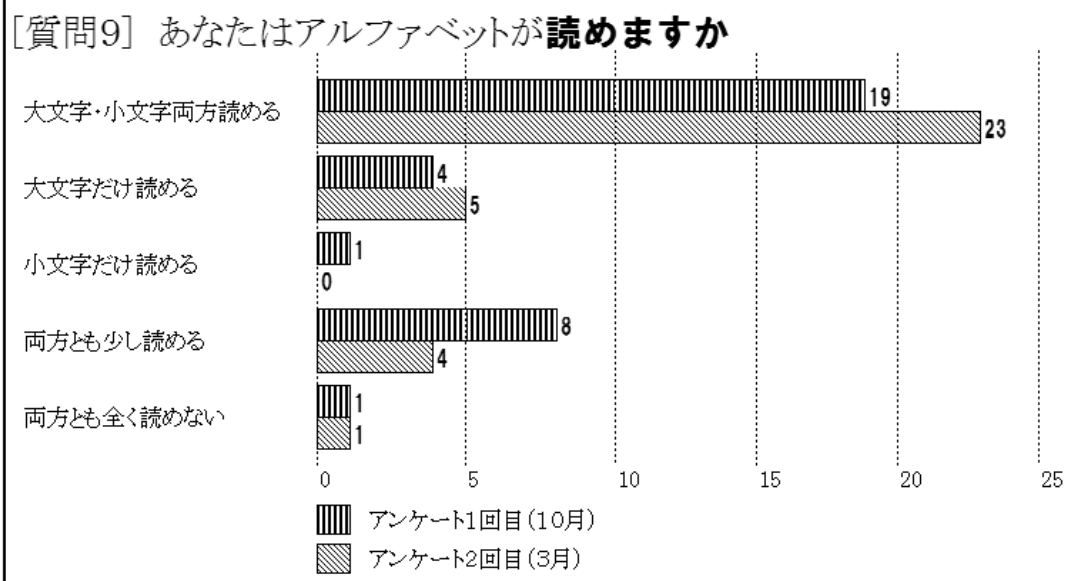
- |         |                             |
|---------|-----------------------------|
| 〔質問 1〕  | 外国語活動の授業は好きですか。             |
| 〔質問 2〕  | 外国語活動の授業に進んで参加していますか。       |
| 〔質問 3〕  | 外国語活動の内容をどのくらい理解していると思いますか。 |
| 〔質問 4〕  | 外国語活動の授業で楽しいと思うことは何ですか。     |
| 〔質問 5〕  | 英語は好きですか。                   |
| 〔質問 6〕  | 英語が使えるようになりたいですか。           |
| 〔質問 7〕  | 英語が大切だと思いますか。               |
| 〔質問 8〕  | 外国の人が話しかけてきたらどうしますか。        |
| 〔質問 9〕  | あなたはアルファベットが読めますか。          |
| 〔質問 10〕 | あなたはアルファベットが書けますか。          |

このアンケート結果から、児童たちの外国語活動に対する意識が『肯定的な考え』に変わってきたことがわかった。授業で行うゲームや歌などを楽しみ、外国語によるコミュニケーションへの関心・意欲・態度に興味を持って取り組んでいることがうかがえた。

また、『魔法のシート』を使用し「書くこと」に視点を置き研究を進めてきたので、質問 9「あなたはアルファベットが読めますか」、質問 10「あなたはアルファベットが書けますか」という 2 つの質問に注目した。質問 9 については、「読むこと」に関する質問ではあるが、文字（アルファベット）指導において、「読む」指導（＝発音）と「書く」指導は関連性をもたせる必要がある。アンケート結果は『肯定的な答え』が 10% 以上アップしている。児童が、『魔法のシート』を使うことにより「書く」ことに触れ、「自分も文字（アルファベット）をしっかりと書くことができた」という達成感が児童たちの意識を変えてきたのだと分析する。同時に、文字（アルファベット）を書きながら発音する指導ができたため、児童たちが「読む」ことに対する興味を持ち、活字体で書かれた文字を識別し、その結果、読み方を発音することができるようになった児童が増加したといえる。このようなことから、『魔法のシート』を継続的に使用することにより、「読むこと」「書くこと」に対する抵抗感が減少したと考える。

課題としては、「全く読めない」「全く書けない」と答えた児童に対して、今後どのように指導していくかということである。「読むこと」および「書くこと」については、音声面を中心とした指導を補助する程度の扱いとすることが基本である。このことをふまえ、そのような児童に対して、「読む」「書く」活動に抵抗を感じさせることなく、少しずつ工夫しながら課題等を与え、できたことに対してしっかりと褒めてあげることによって自信をつけさせることが、指導のカギとなるのではないかとと思われる。





#### 4 研究のまとめ

以上のように、本年度は研究テーマ「小学校外国語活動における文字（アルファベット）の効果的な指導法を探る」に向けて、『魔法のシート』を作成し、児童に文字（アルファベット）を書かせる活動を継続的に取り組ませた。

本市における小学校のこれまでの外国語活動は、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる力（＝聞くこと）や、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる力（＝話すこと）を確実につけさせるために、様々な実践や研究に取り組んでいる。しかし、「読む」「書く」技能については、教科化に向け、

指導法の工夫が必要となる。

「書く」ことに関しては、今回『魔法のシート』を活用することで、私たち教員が思う以上に、児童たちは興味を持って「文字（アルファベット）を書く」活動に取り組むことができた。自分の名前を書いたり、身の回りにある身近な英語を書いたりすることで、「もっと英語を書きたい」という意欲（達成感）が児童の表情にあふれていた。中学校では、文字（アルファベット）指導にかかる時間はほんのわずかである。このシートを繰り返し活用し、文字（アルファベット）の認識をさせ慣れ親しむことから、英語に対する興味を育てていきたい。

## 5 おわりに

本年度の外国語活動研究部会の実践や研究を進めていく中で、さまざまな課題（①外国語活動における小学校間での格差 ②小学校教員の英語力および指導力の向上 ③スムーズな小・中連携の推進 ④教科化における評価 ⑤学校間での情報交換 など）が浮かび上がってきた。本年度、小中の研究部員でのメンバー構成により、校種間の指導内容における連続性の必要性を確認することができた。そうした中で、2020年の教科化に向けて小学校教員が外国語（英語）活動の指導にどのような不安や悩みがあるのかを調査し、それに基づいた研究をしていく必要があると考える。加えて、高学年において年間35時間増となる時数を確保するためには、教育課程全体の枠組みの状況を考慮すると、帯学習やモジュール学習などを含めた弾力的な授業時間の設定や時間割編成など、いくつかのパターンが考えられる。本市の今後の課題としてとらえ、小学校で学んだ外国語に関する学習内容を、中学校への学びの連続性を持たせながら効果的に学習できるカリキュラムについても研究していく必要がある。

来年度に向けて、さらに児童が楽しく文字（アルファベット）を「書く」授業とはどのようなものかを意識した調査・研究を進めていくとともに、小学校教員の英語力および指導力を向上させるための準備を進めていきたい。

### <参考文献>

|                                  |       |      |
|----------------------------------|-------|------|
| 「小学校学習指導要領解説外国語活動編」              | 文部科学省 | 2012 |
| 「次期小学校学習指導要領の改訂（案）」              | 文部科学省 | 2017 |
| 「Hi! Friends! 1」「Hi! Friends! 2」 | 文部科学省 | 2012 |
| 「英語教育の在り方に関する有識者会議」              | 文部科学省 | 2014 |
| 「小学校外国語活動のあり方と“Hi, friends!”の活用」 | 東京書籍  | 2013 |



## すべての子どもが「楽しく・わかる・できる」を目指して 工夫する授業のデザイン

|       |                |
|-------|----------------|
| 指導主事  | 田 中 かおり        |
| 研 究 員 | 小 杉 宏 美 （清和小）  |
| 〃     | 太 田 宏 樹 （立花小）  |
| 〃     | 東 田 直 久 （武庫東小） |
| 〃     | 福 田 美 香 （園田南小） |
| 〃     | 田 邊 奈緒美 （中央中）  |

### 【内容の要約】

教室でともに学ぶ子どもたちの中には、各学年において、特別な支援を必要としている子どもがいる。学習面や行動面で何らかの困難を示す子どもを含むすべての子どもにとってわかりやすいように配慮した授業や指導方法の工夫を考えていくことは、わかりやすい授業につながる。

本研究では、特別支援教育の視点を導入した授業実践を通して、「どのような手立てをすれば、すべての子どもにとって『わかる』授業になるのか」「どうすればすべての子どもが『できる』授業になるのか」等の指導の工夫と共に、「子どもの多様性を踏まえた学級づくり」について、「ユニバーサルデザイン化」をめざし、子どもの姿を通して研究・実証することとする。

キーワード：子ども理解 特別支援教育の視点 ソフトサイン 視覚化 共有化  
焦点化 パターン化 ボディイメージ 多様性を踏まえた学級づくり  
ユニバーサルデザイン化

|   |              |    |
|---|--------------|----|
| 1 | はじめに .....   | 81 |
| 2 | 研究について ..... | 81 |
| 3 | 実践事例 .....   | 81 |
| 4 | 研究のまとめ ..... | 87 |
| 5 | おわりに .....   | 88 |



## 1 はじめに

昨今、授業のユニバーサルデザイン化の考え方が広まることで、授業のユニバーサルデザイン化に関する様々な実践が紹介されるようになった。「子ども理解」と「特別支援教育の視点」に立ち、工夫・配慮された授業は、全ての子どもにとって有効な手立てである。しかし、それは一般論であって、それぞれのクラスの子どもの実態に合った実践とはいえない。つまり、「クラスの誰が困っているのか」「どんな点で困っていて支援が必要なのか」等、個々の子どもの実態を明確にすることが重要なポイントである。

そこで本研究部会では、クラスの現状に合った授業のユニバーサルデザイン化を考えていくために、「子ども理解」をより深め、様々な子どもの特性を探るとともに、「特別支援教育の視点」から、それぞれの特性に合った子ども一人ひとりの対応を考えていくことを本研究部会の基本的な方向性とし、研究を進めている。

## 2 研究について

### (1) 研究のテーマ

すべての子どもが「楽しく・わかる・できる」を目指して工夫する授業のデザイン

### (2) 研究テーマの設定理由

本研究部会は今年度3年目を迎えた。これまでは、授業のユニバーサルデザイン化の必要性や考え方を学んできた。また、学習面や行動面で何らかの困難を示す子どもの実態をふまえた上で、手立てを考え、実践することを中心に研究を進めてきた。研究を進める中で、学級すべての子どもの理解を深めることが、安心して過ごせる学級づくりや、「わかる・できる」授業づくりにつながると考えた。そこで本年度は、学級に属する全ての子どもの実態を踏まえた授業づくりと集団づくりに視点をおいて研究を進めることとした。

### (3) 研究の仮説

学級のすべての子どもの実態を把握し、理解を深めたことをもとに「楽しく・わかる・できる」授業づくりや、安心して過ごせる学級づくりを研究することで、子どもの課題の改善につながる効果的な指導の方法が明らかになる。

### (4) 実践の評価方法

研究の協力学級において、子どもの様子を観察し、実態を把握する。その実態をもとに、特別支援教育の視点を導入した具体的な手立てを考え支援を行う。子どもの様子を観察・比較することで、子どもの様子の変化について明らかにするとともに、効果的な指導方法について評価する。

## 3 実践事例（小学校3年生）

学習面や行動面で何らかの困難を示す子どもを含む、学級のすべての子どもが「わかる・できる」をめざし、ユニバーサル視点でデザインした指導について、実践事例をあげ考察する。

### 1. 協力学級の子どもの実態

7月に学級を参観し、ソフトサイン（授業中の児童の様子や作品の観察）から、個々の児童の特性や抱えている困難を分析した。学級内には、教師の指導が入らず校内を

徘徊したり暴言や暴力行為を繰り返す児童がおり、その対応に追われ、学習面や行動面で何らかの困難を示す他の児童が見えにくい状態であった。そこで、研究部員による児童の観察と授業後の研究会で、ソフトサインの分析を繰り返し、すべての児童の理解を深め、手立てや支援を検討することとした。

9月以降の児童の観察とソフトサインの分析から、授業中ぼんやりとして教師の話に意識を向けることが難しい児童や、言語能力や場面の状況を理解する力が弱いため教師の指示や説明に対する理解に困難のある児童がいることがわかった。そのため、これらの児童への支援や手立て、また自己肯定感が低いことから学習に自信が持てない児童の指導について研究を深めていくこととした。

## 2. 実践の概要

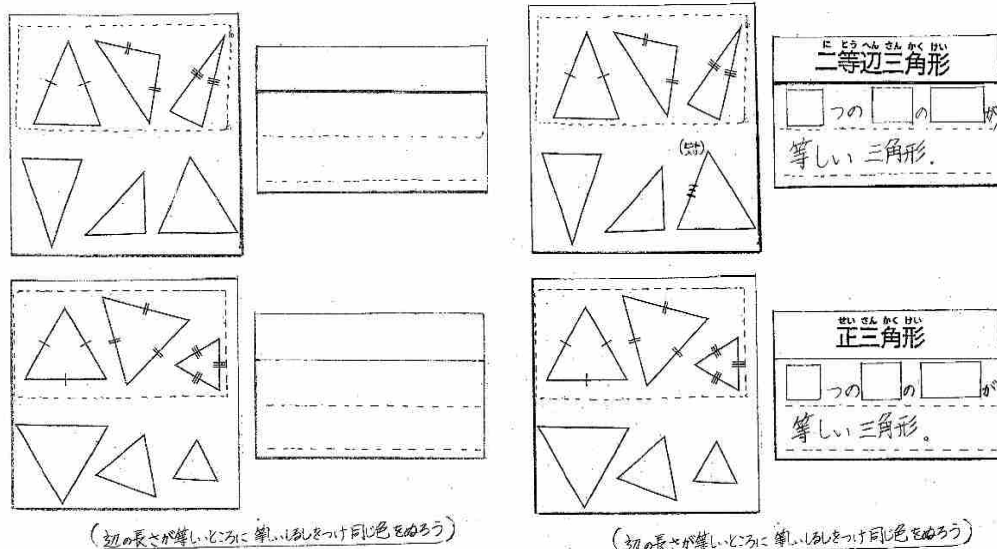
### ①授業の工夫をする5つの視点

研究の教科を算数に絞り、児童の実態から「わかる・できる」授業デザインを行うため、授業の工夫をする5つの視点を柱にして授業を構成した。

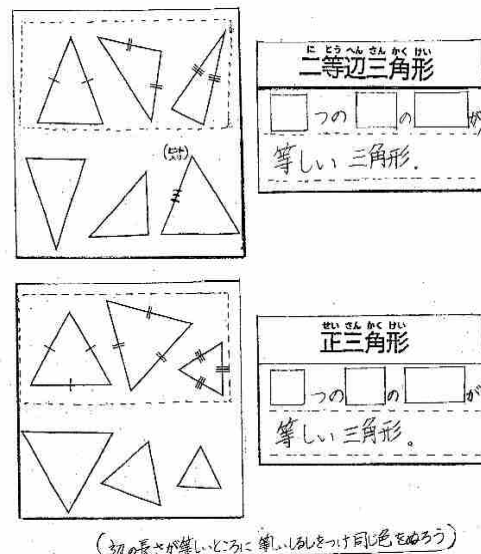
- ・視覚化……………指示や発問、授業の流れを目で見てわかるような掲示や板書、ICT機器の活用
- ・具体物の活用……学習に楽しく取り組んだり、学習内容の理解を助ける工夫
- ・共有化……………効果的なペアトーク・グループワークの工夫
- ・協働化……………互いに協力しながら学習目標を達成する工夫
- ・焦点化……………「今何を勉強しているのか」「何を考えるのか」を明確にした課題の提示の工夫

### ②特に配慮を必要とする児童への手立て

注意が逸れやすい児童も、学習に継続して楽しく取り組めるよう「声を出す」「作業する」「移動する」等の「動いていい学習時間」を取り入れた授業を行った。また、書字の継続的な指導のため、通常のプリント（図1）とは別に、記入枠や記入する文字を補っている「補助プリント」（図2）を作成する等、継続した指導を行った。



【図1】通常のプリント



【図2】補助プリント

### 3. 授業実践

(1) 単元名 「三角形のなかまをしらべよう」

(2) 本時のねらい

辺の長さに着目して三角形を分けることができ、二等辺三角形や正三角形の意味について理解する。

(3) 準備物

身近にある三角形の形の物の画像と実物 書画カメラ

4色のストロー12本を封筒に入れたセット（色別に長さを変えたもの）

作成した三角形を貼る紙（1人3枚） セロハンテープ

二等辺三角形と正三角形の名前と定義を書く紙

(4) 本時の展開

| 学習活動                                                                                                                       | 指導上の留意点・支援                                                                                                                                                                                                                   | UDの視点                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 身近にある三角形の形のものを知る                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>画像や実物を見せ、三角形について興味を持たせる。</li> </ul>                                                                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>画像や実物を見せる【視覚化】</li> </ul>                                                       |
| いろいろな三角形を作って、なかま分けをしよう。                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                        |
| 2. 12本のストローから好きな色を3本選んで三角形を作り紙に貼る。（個人）<br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>個人で作成した三角形の中から1つを選ぶ。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ色のストローは同じ長さであることを説明する。</li> <li>三角形を作成するのに必要な本数や何色使用するかを考えさせる。</li> <li>2つ目以降は違う三角形を作らせる。</li> <li>最初に作った三角形と見比べさせ、どこが違うのかを説明できるようにする。</li> <li>選んだ三角形の紙以外は全て机の中に片付けさせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>（具体物の活用）</li> <li>ストローを紙に貼る手順を示す。【視覚化】</li> </ul>                               |
| 3. 同じ仲間を見つけて集まる。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>どのような決まりで集まったのかを話し合う。</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>どこに集まればいいのか困っている児童がいたら、グループの方から見つけて声をかけてあげるように支援する。</li> </ul>                                                                                                                        |                                                                                                                        |
| 4. どのような仲間で集まったのかを確認し、理由を代表者の紙に書く。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>座席にもどる。</li> <li>代表者が前へ出て発表し、交流する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの数が多い場合は、数を減らせないか考えさせる。（ペアトーク）</li> </ul>                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>話し合ったことを一枚にまとめる。【共有化】・（協働化）</li> <li>グループの三角形を黒板に掲示して説明させる【視覚化】【共有化】</li> </ul> |



|                                                                  |                                                                                                                                       |                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 5. 「二等辺三角形」と「正三角形」の定義を全体で見つける。                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・等しい長さの辺の数に着目すればよいことを明らかにしながら、三角形の分類の仕方を考えさせる。</li> <li>・最終的に3つのグループに分けられることに気付かせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストローが辺を表していることに着目させる</li> </ul> <b>【焦点化】</b> |
| 6. シートに三角形の名前と定義を書きノートに貼る<br>・自分がストローで三角形を作成した紙に、三角形の名前とその理由を書く。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「二等辺三角形」と「正三角形」の名前と定義を示す。</li> <li>・定義と照らし合わせ、自分が作成した三角形の名前と理由を書かせる。</li> </ul>               | ※補助プリント                                                                              |
| 7. 本時のふりかえりをする。                                                  |                                                                                                                                       |                                                                                      |

#### (5) 児童の実態を分析しての手立て

本時（本単元）における児童の実態に対する具体的な手立てを明確にするために、以下のようなシートを作成し、実践にのぞんだ。

##### ①シートの例

| 子どもの実態 | 本時で予想される困難さ | 個別の支援・手立て |
|--------|-------------|-----------|
|        |             |           |

##### ②具体的な手立て

###### ア 教師の話に意識を向けることが難しい児童

- ・指示する際にまず意識をこちらに向けさせるようにする。
- ・作業を止めさせてから具体的な言葉で説明する。

###### イ 指示を理解する力や場面の状況を理解する力が弱いため、教師の指示や説明に対する理解に困難のある児童

- ・座席を前方にして個別に声かけを行うようにする。
- ・視覚的にわかりやすいものを掲示する。
- ・次に何をするか、一対一で話すような分かりやすい言葉で説明する。

###### ウ 自己肯定感が低いことから学習に自信が持てない児童

- ・机間指導の際に積極的に声かけを行うようにする。
- ・出来ていたら褒めるようにし、次の学習への自信に繋げるようにする。
- ・話し合いがしやすい班の編成をし、徐々に自分の考えに自信を持たせるようにする。

#### 4. 授業実践の考察

##### ①視覚化について

- ・教材の画像や実物を見せることにより、生活の身近にあることに気づかせ、興味を持たせることが出来たが、児童の生活実態に合わせた教材を選んで提示する必要がある。（写真1）（写真2）
- ・作業の手順の実演を書画カメラで示すことにより、活動に見通しをもたせることが出来た。（写真3）
- ・グループ討議を行って選んだ三角形を黒板に掲示することで、様々な形の三角形があることの理解を促すことができた。（写真4）



【写真1】

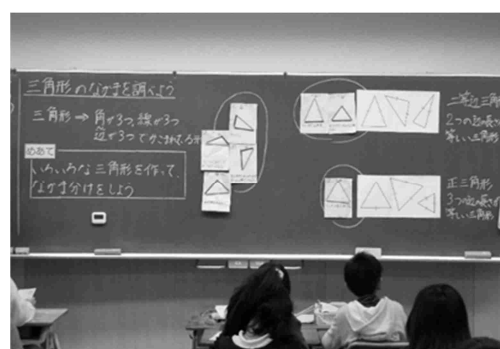


【写真2】

〈生活の身近にある画像や実物を見せる〉



【写真3】〈ストローを紙に貼る手順を示す〉



【写真4】〈グループの三角形を黒板に  
掲示して説明させる〉

## ②共有化について

- ・グループで話し合ったことを1枚のシートにまとめさせることで、個々の考え方を共有させることができた。(写真5)
- ・グループの三角形について全体に説明させることにより、さまざまな三角形の考え方について共有することが来た。(写真6)



【写真5】〈話し合ったことを1枚にまとめる〉

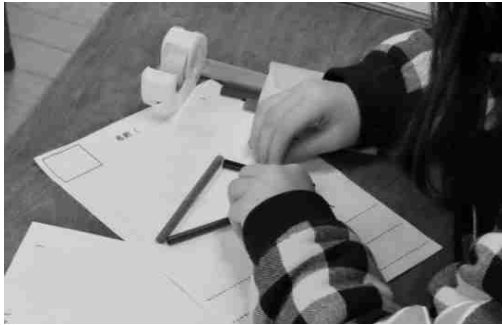


【写真6】〈グループの三角形を黒板に掲示して  
説明させる〉

## ③焦点化について

- ・三角形の分類の仕方を考えさせる際に、同じ色のストローが長さの等しい辺を表していることに着目しながら、三角形の分類の仕方を考えるように促した。しかし、作業をする前にストローの色についての確認が不十分であったため、色に着目して

考えることが出来なかった児童もいた。(写真7)



【写真7】〈ストローが辺を表していることに着目させる〉

#### ④特に配慮を必要とする児童への手立てについて

「具体物の活用」や「動いていい学習時間」を取り入れたことにより、特に配慮を必要とする児童や、その他の集中が途切れがちな児童も、友達と楽しく対話しながら思考を深めることにつながり、全員参加の授業となった。「補助プリント」については、「通常プリント」と「補助プリント」のどちらのプリントを使うのか自分で選ばせ、児童が主体的に学習に取り組めるようにした。「補助プリント」を導入し始めてからは、ノートの記録に困難がある児童も、他の児童と同じ速さで整った記録ができるようになってきている。ノートの記録が整ってきたため、授業のふりかえりの活用にもつながり、学習の理解が深まった。しかし、授業全体に児童の活動を多く取り入れたことと、導入に時間をかけすぎたため、授業の時間内に終わることが出来なかった。本時のふり返しをしっかりと行うためにも、時間配分をよく考えて授業計画を立てるようにすることが課題である。

#### 5. 事後研究会

公開授業後に、全ての研究部員で過去2年間から今年度までの実践・研究について発表した。今年度の研究については、協力学級のすべての子どもの理解を深め、安心して過ごせる学級づくりに繋がったことや授業づくりの工夫について説明した。昨年度までの研究が今年度に繋がっており、参加者に本日の授業だけではなく、これまで研究してきた学級づくりや授業づくりの視点について多くのことを伝えられた。

また後半には、専任講師の関西国際大学 准教授 百瀬 和夫 氏より、幼児期から高校までの発育・発達の理解の必要性や、授業のユニバーサルデザイン化をめざした学級づくりの工夫などについて講話いただいた。

- ・指導者は、幼から高までの、縦の発育・発達の理解をしておく必要がある。
- ・担任と子どもの間に、適度な程良い距離がある年度初めの3日間で、担任は「学級を束ねる」という意識を持ち、徹底した指導を行う。またその時に、聞く力が弱い子どものために視覚支援のカード等を準備しておくことも大切である。
- ・子どもがソフトサインで「聞くことに困難がある」と表現しているのを、指導者は理解できるようになる。「なぜ聞けないのか？」ではなく、「聞くことに困難がある」子どもに、どんな手立てをするのかが考えられるようになる。
- ・授業の工夫をする視点の「共有化」や「協働化」などは、外界からの刺激によって子

どもの心が動き、学習活動へと繋がる。

- ・体を動かしている神経系統と、話を聞く神経系統は同じである。話を聞ける子どもを育てるには、体を動かす活動にも沢山取り組ませる。また、体幹を鍛える「つばめ」等の体を支える運動も大切だが、今後はそれを「いかにおもしろく」できないかを考えていくのも研究である。
- ・活動の始まりや頭を揃えることが、(つまり、すでに準備が整っている子どもを待たせることが、) 全ての子どもの学習の権利を保障しているのではない。個々の子どもの実態に即した学習の始め方や、どの子も伸ばすための複数の課題の設定等を考える方が効果がある。
- ・本日の公開授業の内容は、少し盛りだくさんだった。本時のめあてを達成するために、逆算思考を持って授業の計画を立てるようにすることが大事である。

#### 4 研究のまとめ

本研究部会では、すべての子どもが「楽しく・わかる・できる」を目指して授業のユニバーサルデザイン化に着目した授業実践や学級づくりを行ってきた。その成果と課題を次のようにまとめる。

##### (1) 成果

- ・ 多様な子どもを受け入れるクラスづくりを行うことによって、友達同士で声を掛け合って活動したり、助け合う場面が見られるようになった。
- ・ 学習活動の中に「声を出す」「作業する」「移動する」等の動きを取り入れることで、課題に集中することができるようになった。
- ・ 画像や実物を見せることにより、取り組む課題の認識がより明確になり、楽しく意欲的に取り組む子どもの姿があった。
- ・ 具体物を取り入れて作業することにより、考えを深める助けとなった。また、グループ活動や子ども同士の教えあいや助け合いにつながった。
- ・ 子どもの問題行動に着目するだけではなく、ソフトサインからその背景を分析し、「なぜ、できないのか」ではなく、子どもの困り感に着目し「どのようにしたら出来るのか」という視点を持つことで、子どもの実態に合わせた手立てを考え、子どもの課題の改善につながった。

##### (2) 課題

- ・ ユニバーサルデザイン化された通常の授業だけでは、学力が低位にある子どもたちの学習をすべて補うことは難しい。そのため、復習プリント等の補充指導を工夫する必要がある。
- ・ 子どもが困難とする内容によって、支援を長期にわたって継続していく必要がある子どもと、徐々に支援を外しながら自分で出来ることを増やしていける子どもがいる。指導者の系統立てた継続的な取り組みが必要であることから、幼保小中高の連携や校内の共通理解、さらに、幼時期から高校時までの縦の発育発達の理解を深める必要がある。

## 5 おわりに

授業のユニバーサルデザイン化を進める上で必要不可欠な「子ども理解」と「特別支援教育の視点」を持って指導を行うことは、生徒指導上の課題解決や子どもたちの学力向上の一つの糸口になるとも考えられる。子どもの問題行動だけを見て、その指導や対応策だけを考えているのでは子どもの問題解決には繋がっていかない。誤った対応をすることで状況を悪化させるような結果を招いてしまう場合もある。子どもの環境・育ち・健康・発達・認知等のさまざまな面から行動の背景を分析し、特別支援教育の視点を活かした支援や関わり方を考えることは、効果的な問題行動の解決につながる。また、すべての子どもにとってわかりやすい授業は、子どもたちの学習意欲や学力を高めることができる。授業のユニバーサルデザイン化の視点は、全ての子どもの成長において大切な視点である。

今後は、どの教員にも、すべての子どもにとってわかりやすい授業に結びつけるために必要な視点や支援、関わり方のすべを身につけ、アセスメント能力の向上を図るためのシステムを構築していく必要があると考える。

### 【参考・引用文献】

・文部科学省「通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」・関西国際大学 兵庫県尼崎教育委員会「みんなの特別支援教育～授業のユニバーサルデザイン化をめざして～」・百瀬和夫 著「『笑育』のすすめⅠ～『ちょっと変な教師』が教育を救う～」さんだる文庫・兵庫県教育委員会「特別支援教育の視点をいかした授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック」

## 家庭学習支援事業について（中間報告）

指 導 員 東 江 潤

### 【内容の要約】

本市においては全国学力・学習状況調査の結果から、市内中学生の家庭学習の充実が課題となっている。

本年度からは、市内中学生の確かな学力の定着を目的として、ICTの利点を活かした学習支援ソフト（eライブラリ）を活用し、生徒の家庭学習の推進を図る家庭学習支援事業を始めた。

この事業は市内中学校2校をモデル校として、2年間にわたり生徒のICTを活用した家庭学習を支援し、その成果を市内全中学校へ発信することを目的としており、この中間報告は初年度としての1年間の2校の取り組みをまとめたものである。

キーワード： 教育の情報化，中学校，学習支援ソフト（eライブラリ）  
eラーニング，コンピュータ，インターネット，

|     |             |    |
|-----|-------------|----|
| 1   | 事業の概要       | 89 |
| 2   | 実践事例        | 89 |
| (1) | 実践事例1（A中学校） | 89 |
| (2) | 実践事例2（B中学校） | 93 |
| 3   | 研究のまとめ      | 98 |
| 4   | おわりに        | 99 |

## 1 事業の概要

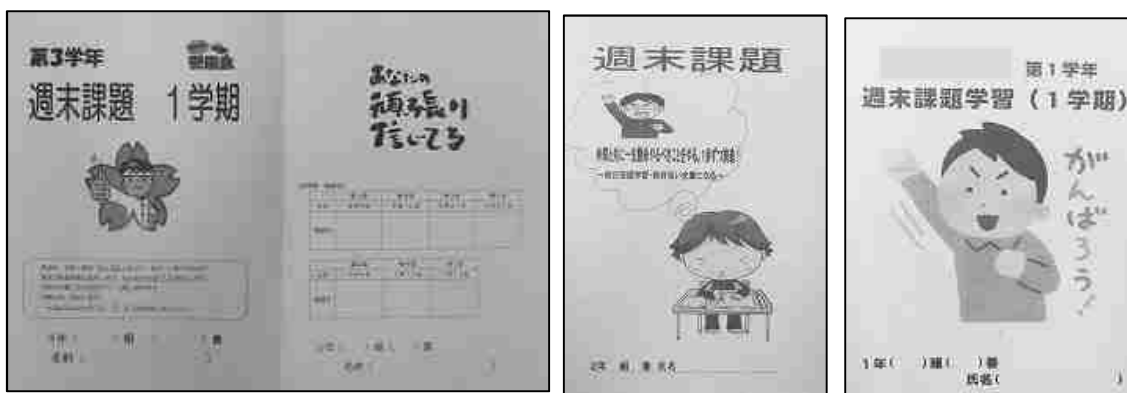
- (1) 実施期間 平成28年度および平成29年度
- (2) 事業モデル校 尼崎市内中学校2校
- (3) 家庭学習支援スタッフ 有償ボランティア配置（A中学校2人、B中学校1人）
- (4) 実践内容
  - ①学習支援ソフト（eライブラリ）を活用した自主学習を継続的に支援する。
  - ②効果や課題を明らかにするため家庭学習支援スタッフを配置し、ICTを活用した放課後や家庭での自主学習をサポートする。

## 2 実践事例

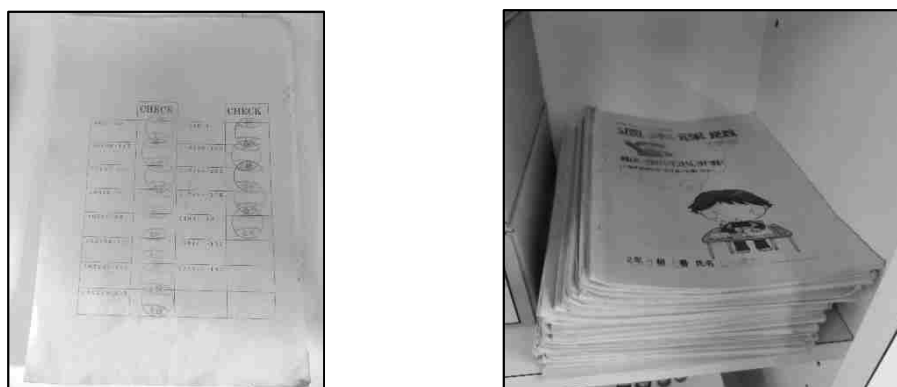
### (1) 実践事例1（A中学校）

#### 1. 実践の概要

- (1) 実践期間 平成28年度
- (2) 実践の対象 A中学校在籍全生徒  
(1年生142人、2年生151人、3年生162人 計455人)
- (3) 実践内容 eライブラリを活用したプリント週末課題冊子の取り組み
  - ①家庭学習支援スタッフのサポートにより、全校生徒に向けたプリント週末課題冊子を印刷準備する。(図1)
  - ②毎週月曜日朝に全生徒分提出チェックと返却、また新たな課題冊子の印刷・配布を実施する。(図2)



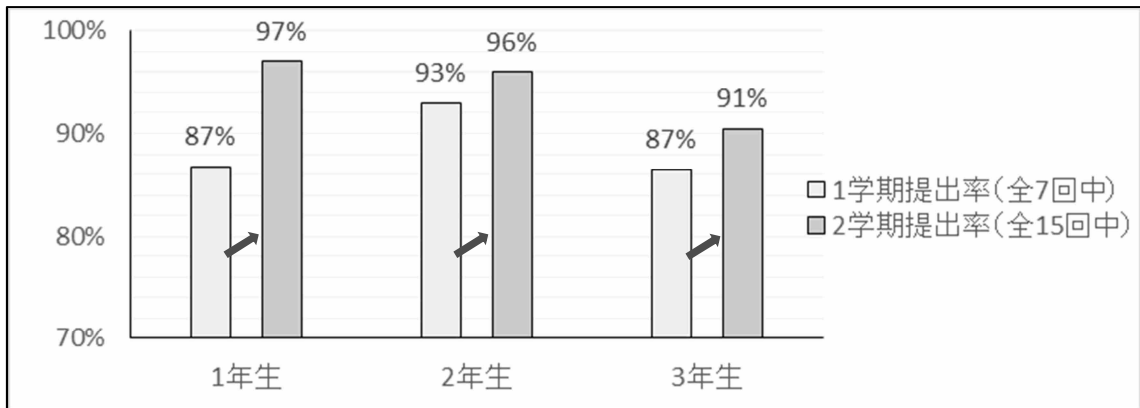
【図1】 各学年に配布されるプリント週末課題（例）



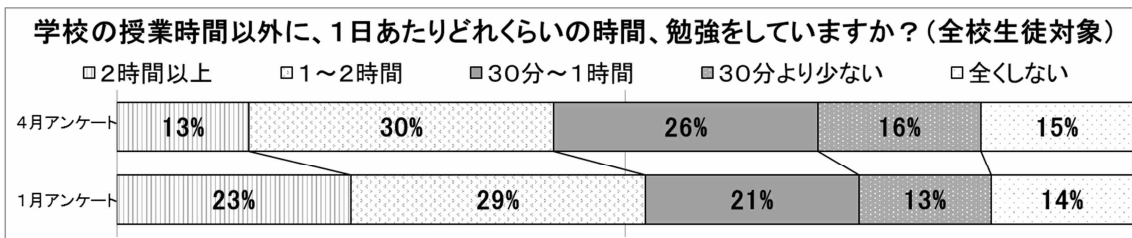
【図2】 チェックして、各クラスに返却されるプリント週末課題冊子

## 2. 実践結果の概要

### (1) プリント週末課題の提出率と家庭学習との関係



【グラフ1】プリント週末課題の提出率の推移



【グラフ2】家庭学習時間の推移

○プリント週末課題の提出率は年度当初と比較して増加している。また、家庭での学習時間も「30分～1時間」、「30分より少ない」と回答した生徒が減り、「2時間以上」と回答した生徒が増加している。しかし、「全くしない」と回答した生徒の割合はほとんど変化が見られなかった。

### (2) 家庭での学習時間と定期テスト成績との関係

| 家庭での学習時間と<br>定期テスト平均点との関係 | 定期テスト5教科(500点満点)の平均点との差(点) |          |          |          |
|---------------------------|----------------------------|----------|----------|----------|
|                           | 1学期中間テスト                   | 1学期期末テスト | 2学期中間テスト | 2学期期末テスト |
| 全くしない                     | - 48.1                     | - 51.2   | - 59.9   | - 59.0   |
| 30分より少ない                  | - 12.1                     | + 2.9    | - 12.6   | - 6.1    |
| 30分～1時間                   | - 3.4                      | - 2.7    | - 2.2    | - 3.3    |
| 1時間～2時間                   | + 13.4                     | + 16.3   | + 18.4   | + 17.3   |
| 2時間以上                     | + 9.2                      | + 6.2    | + 17.6   | + 11.7   |

【表1】1日あたりの家庭学習時間と定期テスト成績の関係

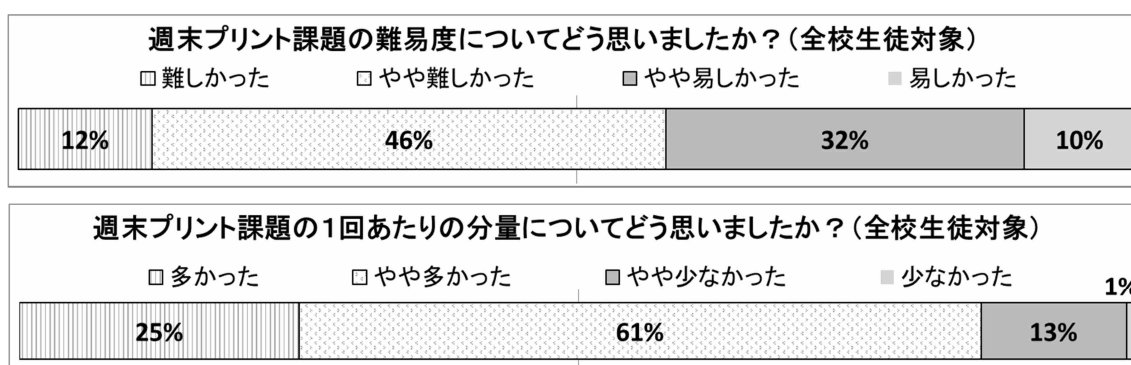
伸びが見られた



○家庭での学習時間が増えると、定期テストでとれる点数が高くなる傾向がみられた。

1日あたり勉強を「全くしない」と答えた生徒は、定期テストで平均点を大きく下回っていることが分かり、テストを重ねるごとに平均点との差が広がっていることが分かった。また、1日あたり「1時間～2時間勉強する」と答えた生徒と「2時間以上勉強する」と答えた生徒との間で平均点が逆転しているのは、もともと家庭学習時間が少なかった生徒が「2時間以上」勉強するようになったからと考えられる。そしてそれらの生徒もテストを重ねるごとに、少しずつ点数に伸びが見られた。

### (3) 週末プリント課題の難易度や分量に関する質問と定期テスト成績との関係



【グラフ3】週末プリント課題に関するアンケート結果

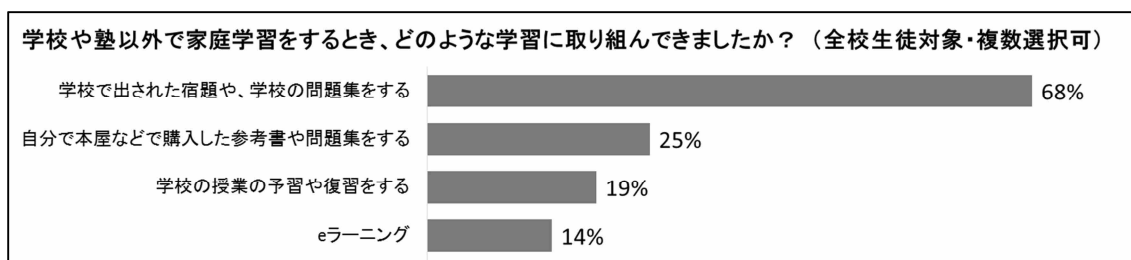
学力によって課題の難易度に対する意識が異なっている

| 週末プリント課題の難易度に対する意識<br>と定期テスト平均点の関係 | 定期テスト5教科(500点満点)の平均点との差(点) |          |          |          |
|------------------------------------|----------------------------|----------|----------|----------|
|                                    | 1学期中間テスト                   | 1学期期末テスト | 2学期中間テスト | 2学期期末テスト |
| 難しかった                              | - 47.9                     | - 53.5   | - 41.8   | - 49.9   |
| やや難しかった                            | - 12.5                     | - 10.9   | - 14.1   | - 11.8   |
| やや易しかった                            | + 35.3                     | + 35.0   | + 35.4   | + 33.3   |
| 易しかった                              | + 50.5                     | + 50.2   | + 49.1   | + 51.7   |

【表2】週末プリント課題の難易度に対する意識と定期テスト成績の関係（全校生徒対象）

○同じ週末プリント課題に対して、難易度や分量にさまざまな意識をもっている生徒がいることが分かった。特に難易度に対しての意識は、生徒の成績によって異なっており、「難しかった」と「易しかった」と答えた生徒の間で、平均点で約100点の点数の開きがみられた。

### (4) 家庭学習の内容や学習習慣と、定期テスト成績の関係



【グラフ4】家庭学習の内容に関するアンケート

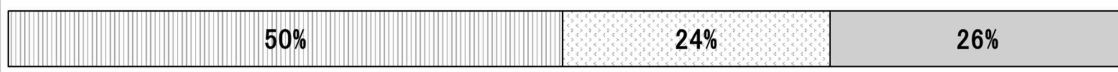
伸びが見られた

| 家庭学習の内容と<br>定期テスト平均点の関係 | 定期テスト5教科(500点満点)の平均点との差(点) |          |          |          |
|-------------------------|----------------------------|----------|----------|----------|
|                         | 1学期中間テスト                   | 1学期期末テスト | 2学期中間テスト | 2学期期末テスト |
| 学校の宿題や問題集               | + 17.1                     | + 19.0   | + 20.5   | + 20.2   |
| 塾の宿題                    | + 19.3                     | + 21.7   | + 24.8   | + 23.3   |
| 自分で購入した参考書や問題集          | + 6.7                      | + 3.3    | + 5.1    | + 5.7    |
| 学校の予習・復習                | + 23.1                     | + 22.1   | + 24.0   | + 21.2   |
| eラーニング                  | + 12.9                     | + 9.1    | + 9.4    | + 9.0    |
| 通信教育                    | + 68.4                     | + 65.0   | + 64.6   | + 58.5   |

【表3】家庭学習の内容と定期テスト平均点の関係（全校生徒対象）

1年間週末プリント課題に取り組んできましたが、今の自分の家庭学習習慣に当てはまるものはどれですか？

☐ 週末だけでなく、平日にも家庭で勉強している ☐ 週末だけは家庭で勉強している ☐ 平日も週末も家庭で十分学習できていない



【グラフ5】家庭学習習慣に関するアンケート（全校生徒対象）

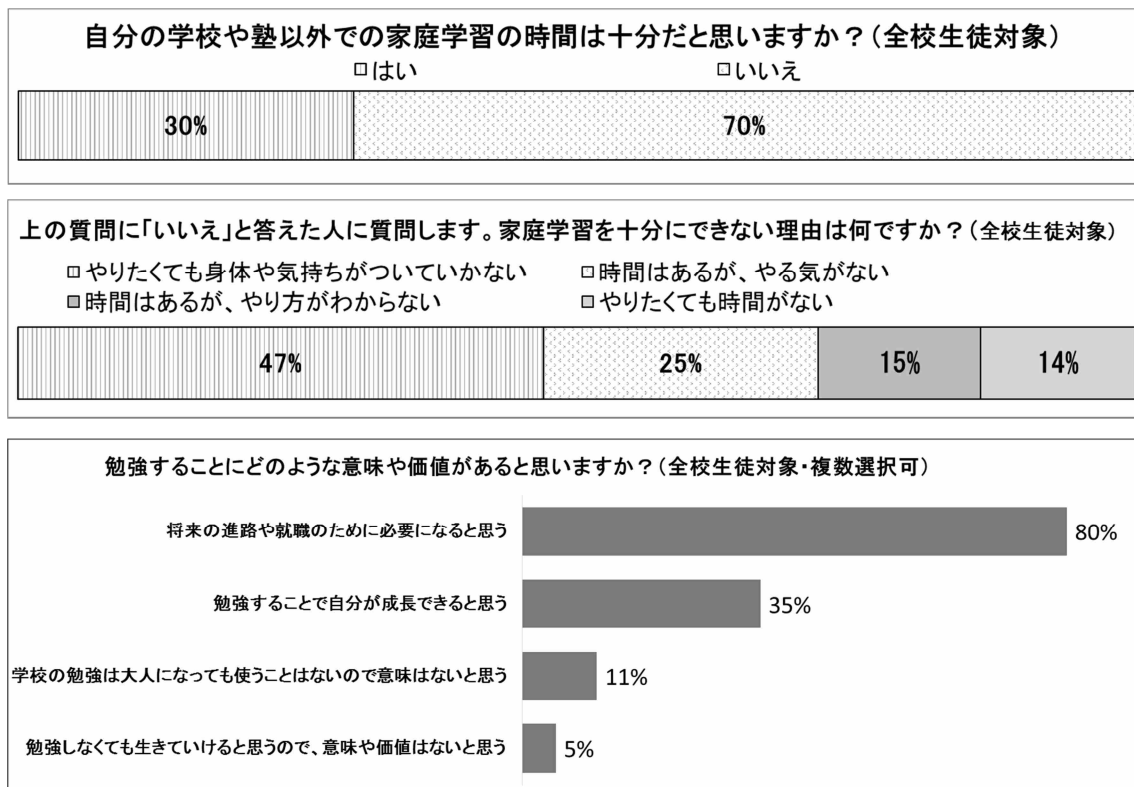
差が広がった

| 家庭学習習慣と<br>定期テスト平均点の関係 | 定期テスト5教科(500点満点)の平均点との差(点) |          |          |          |
|------------------------|----------------------------|----------|----------|----------|
|                        | 1学期中間テスト                   | 1学期期末テスト | 2学期中間テスト | 2学期期末テスト |
| 週末だけでなく、平日にも家庭学習をしている  | + 25.8                     | + 24.6   | + 29.0   | + 27.9   |
| 週末だけは家庭学習をしている         | - 16.5                     | - 15.0   | - 21.3   | - 20.8   |
| 平日も週末も家庭で学習できていない      | - 23.7                     | - 19.6   | - 22.7   | - 23.6   |

【表4】家庭学習習慣と定期テスト平均点の関係（全校生徒対象）

○家庭学習の内容としては、「学校の宿題や問題集をする」と答えた生徒が最も多く、「学校の宿題や問題集」、「予習・復習」を行うことは定期テストの成績の推移から見ても、効果的であることがわかった。また、学習習慣に関するアンケートからは、「週末だけでなく平日も勉強する」と答えた生徒が半数であり、それらの生徒は定期テストの成績にも伸びが見られた。一方、「週末だけ」、「週末も平日も十分でない」と答えた生徒はいずれも、学校平均を大きく下回っていた。また、「週末だけ」と答えた生徒はテストの回数を重ねるごとに平均点との差が広がっていることから、「週末だけ」の家庭学習では成績を維持することもできないことが明らかになった。

## (5) 家庭学習に対する意識調査の結果



【グラフ6】家庭学習に対する意識調査

○自分の家庭学習の時間を、まだまだ「十分でない」と自覚している生徒が大半を占めており、そのできない理由として「気持ち、やる気」を問題にしている生徒が多い。また、勉強することの価値を、「将来の進路のために必要なもの」、「自分の成長に必要なもの」と認識している生徒が多く、勉強に「価値が無い」と考えている生徒が少数であることが分かった。よって、キャリア教育等とつなげて生徒の意識を高めることで、家庭学習の取組に更なる効果が期待できると考える。

### (2) 实践事例 2 (B 中学校)

## 1. 実践の概要

- (1)実践期間 平成28年度
- (2)実践の対象 B中学校放課後学習登録生徒  
(1年生30名、2年生22名、3年生33名 計85名)
- (3)実践内容 コンピュータ教室を活用した放課後学習の取り組み
- ①家庭学習支援スタッフのサポートにより、希望登録制の放課後学習を、パソコン教室を開放して行う。(図3～6)
- ②学習支援ソフト(eライブラリ)を活用したドリル学習や、解説教材による自学自習の学習を支援する。



【図3】 PC室での放課後学習の様子



【図4】ヘッドホンを着用して英語の  
ヒアリング問題に挑戦できる



【図5】PCで調べながらの自学自習の様子

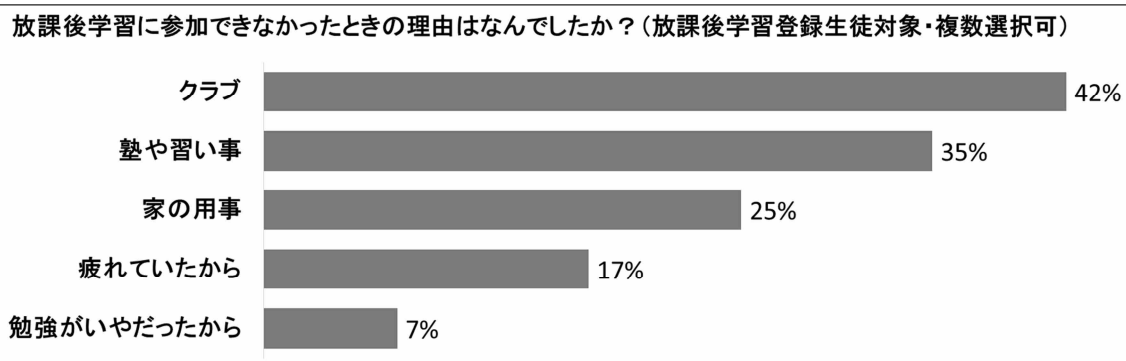


【図6】教科別、単元別のドリル学習に取り組む様子

## 2. 実践結果の概要

### (1) 放課後学習への出席率と理由について

- ・放課後学習実施日時 . . . 毎週 月曜・木曜日の放課後（2時間程度）
- ・放課後学習実施期間 . . . 平成28年5月～
- ・放課後学習実施回数 . . . 全50回（5月～1月末現在）
- ・平均出席率 . . . . . 1年生 24% 2年生 31% 3年生 31%
- ・平均参加者人数 . . . . . 16.8人（PC室最大収容人数40人）



【グラフ7】放課後学習への不参加の理由について

○毎回平均して、PC 室の最大収容人数 40 人の半数近くの生徒が放課後学習に参加した。  
3 年生はクラブの総体までの間はなかなか出席率が上がらず、クラブの引退以降に参加する生徒が増えた。一方、3 年生の引退後は 2 年生がクラブの主力となることで、出席率が下がった。

## (2) 放課後学習への出席率と定期テスト成績との関係

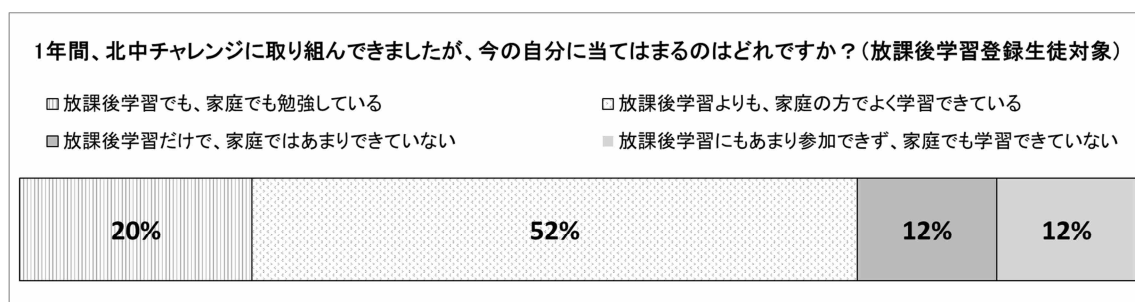
| 放課後学習への出席率と<br>定期テスト平均点との関係 | 定期テスト5教科(500点満点)の平均点との差(点) |          |          |          |
|-----------------------------|----------------------------|----------|----------|----------|
|                             | 1学期中間テスト                   | 1学期期末テスト | 2学期中間テスト | 2学期期末テスト |
| 出席率50%以上の生徒                 | + 45.3                     | + 35.4   | + 55.3   | + 37.0   |
| 出席率30%～50%の生徒               | + 53.7                     | + 44.9   | + 46.0   | + 34.1   |
| 出席率10%～30%の生徒               | - 0.1                      | + 3.1    | + 7.1    | + 3.3    |
| 出席率10%以下の生徒                 | - 38.4                     | - 52.6   | - 61.5   | - 63.9   |

差が広がった

【表 5】放課後学習への出席率と定期テスト成績との関係

○出席率が高い生徒は平均点を大きくこえていたことが分かった。また、2 学期の成績においては、出席率 50%以上の生徒が、出席率 30%～50%の生徒の平均点をこえるようになった。出席率が 10%以下の生徒はテストの回数を重ねるごとに点数が下がって平均点との差が広がっていた。

## (3) 放課後学習での学習と家庭での学習について

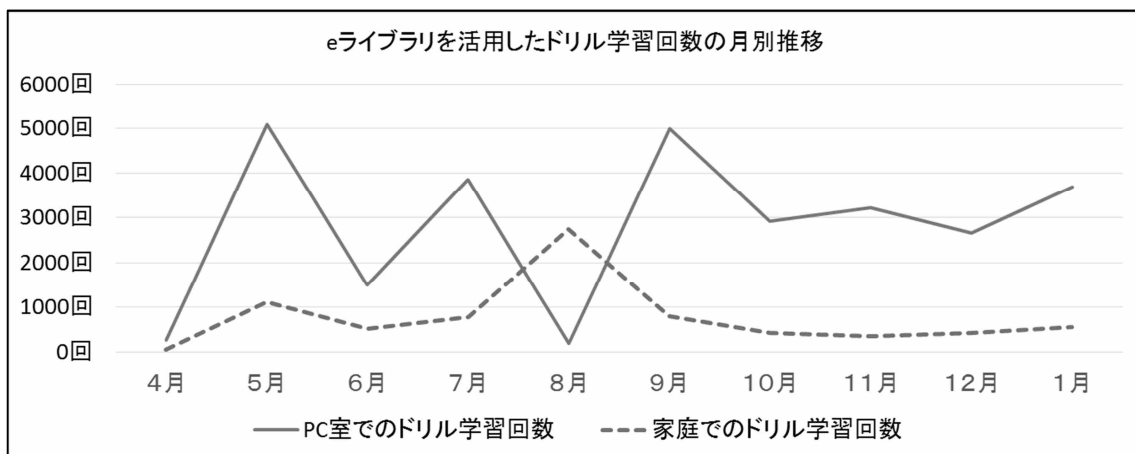


【グラフ 8】放課後学習と家庭での学習について

| eライブラリを活用したドリル学習<br>(月別回数) | 4月   | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    |
|----------------------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| PC室でのドリル学習回数               | 272回 | 5079回 | 1499回 | 3849回 | 189回  | 4987回 | 2918回 | 3227回 | 2662回 | 3694回 |
| 家庭でのドリル学習回数                | 60回  | 1112回 | 514回  | 780回  | 2735回 | 797回  | 426回  | 345回  | 429回  | 551回  |

【表6】eライブラリを活用したeラーニングドリル学習回数の推移

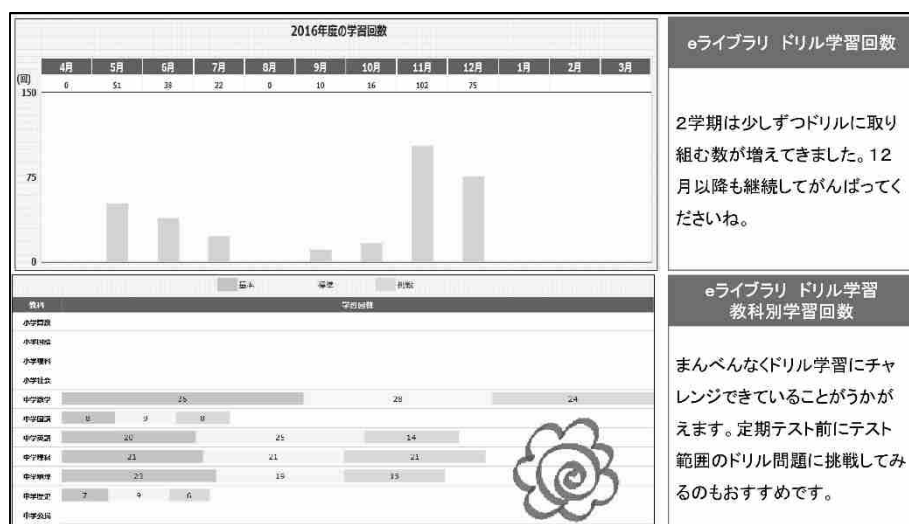
※ここでいうドリル学習回数とは1回につき、10問～15問がセットになった教科別・単元別のeラーニング学習のことを示します。1回を学習するのに5分～15分程度かかります。



【グラフ9】eライブラリを活用したeラーニングドリル学習回数の推移

○放課後学習に参加した生徒のうち、学習が「放課後学習だけ」と答えた生徒は1割程度で、7割が「家庭で学習」としていると回答している。eライブラリの活用においても、放課後学習がなかった夏休みの期間に家庭での活用回数が大きく伸びていることから、家庭でもドリル学習をしていることが分かった。

#### (4) 生徒へのフィードバックについて



【図7】 生徒に配布する個人カルテ

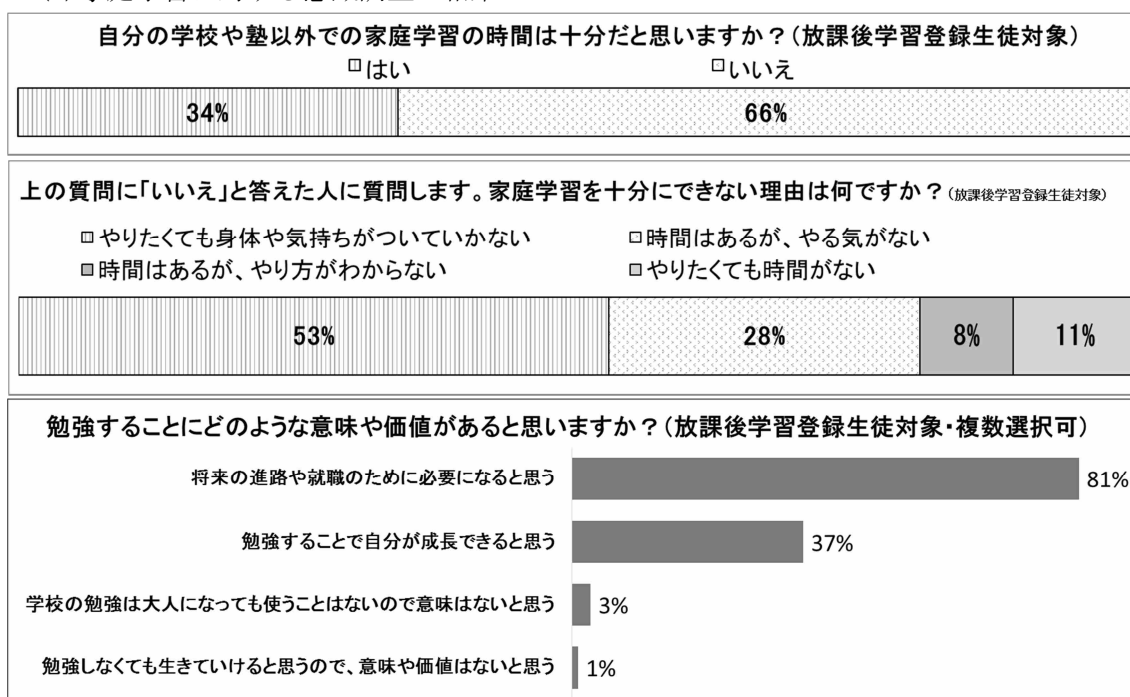
月別・教科別学習履歴やスタッフからの励ましのコメントを表記

### 生徒アンケートより

- ・ 静かな環境でできていたのでよかったと思う
- ・ 自分がしたい勉強を静かな場でできて、良いと思う
- ・ 時間を6時まで延長してほしい
- ・ しっかりと勉強に取り組めて、分からないところがあったら教えてくれる人がいるのでとても良いと思いました
- ・ 各教科の先生がいてほしい
- ・ 勉強をするべき時間を放課後につくってくれるのはありがたいです。家などではどうしても怠けてしまう方が多いので、こういう環境を作ってくれることに感謝します
- ・ eライブラリがとても楽しいです！！
- ・ ドリル問題が4択になっているから解きやすいと思いました
- ・ 前までは全く勉強していなかったけど、放課後学習に行くようになってから、勉強時間が少し増えた

○学期ごとに個別カルテの配布を実施した。カルテには放課後学習の出席率や、取り組んだドリル学習の詳細（年間通算回数、月別回数、教科別回数、ドリル平均点、学習日数、先生からのコメント、各個人の定期テストの成績推移）が表記されており、放課後学習に参加した生徒に個別に配布されている。

### (5) 家庭学習に対する意識調査の結果



【グラフ10】家庭学習に対する意識調査推移

○自分の家庭学習の時間を、まだまだ「十分でない」と自覚している生徒が大半を占めており、そのできない理由として「気持ち、やる気」を問題にしている生徒が多い。また、勉強することの価値を、「将来の進路のために必要なもの」、「自分の成長に必要なもの」と認識している生徒が多く、勉強に「価値が無い」と考えている生徒が少数であることが分かった。

### 3 研究のまとめ

家庭学習支援事業において、生徒の家庭学習の推進に対する成果や、研究で明らかとなった点を挙げると、次のとおりである。

#### (1) A中学校での実践を通して

- ・e ライブラリを活用して家庭学習支援スタッフが印刷、製本したプリント週末課題冊子を全校生徒に毎週末取り組ませた結果、各学年の課題提出率と、2時間以上家庭で勉強する生徒の割合が増加した。
- ・プリント週末課題冊子の1回あたりの分量に対する感想として、「やや多かった」「多かった」と答えた生徒が大部分を占めたが、難易度に対する感想としては、「難しい」と感じる生徒から「易しい」と感じる生徒までが一定の割合で存在している事が分かった。e ライブラリのプリント教材には3種類の難易度が用意されていることから、生徒のそれぞれのレベルに応じた課題冊子を準備して取り組ませることも効果があるのではないかと考える。
- ・A中学校では家庭学習でよく取り組む内容が「学校の宿題」とであると答えた生徒が大半で、「e ラーニング」に取り組む生徒は少なかった。e ライブラリでは、e ラーニングとして取り組ませるドリル学習と、単元別のプリント学習の2通りの学習方法に取り組めるが、A中学校ではプリント学習の「宿題」としての取り組みが生徒に浸透していることがうかがえる。また、「予習・復習」を家庭学習に取り入れることが定期テストへの成績向上に効果的であったことから、プリント週末課題の内容が普段の授業の予習・復習を兼ねるように単元別に準備することも、より効果的だと考える。
- ・家庭学習の習慣が「週末だけでなく平日もしている」と答えた生徒が半数近く存在していることがわかった。また、「週末だけは家庭学習をしている」と答えた生徒の定期テストの成績がテストを重ねるごとに下がっていることから、「週末だけ」の家庭学習では成績を維持できないことがわかった。よって、このプリント週末課題を週末だけでなく、平日にも取り組ませられるような工夫も効果的だと考える。

#### (2) B中学校での実践を通して

- ・希望登録制の放課後学習に85名が登録し、全50回開催した放課後学習に、毎回平均16.8名の生徒が参加して学習を行った。その学習はPC教室を開放して行い、学習支援スタッフが各生徒の学習状況を管理して個別カルテ等でフィードバックした。
- ・クラブ活動や塾、習い事などのため、欠席せざるをえなかった生徒がいることが分かった。また、出席率の高い生徒は定期テストの成績を向上させていた。このことから、放課後学習の開催日がクラブの活動日と重ならないように、ノークラブデーを有効的に活用するなど、生徒の出席率を高めることが、家庭学習の推進により効果的であると考えられる。
- ・放課後学習参加生徒のうち、「家庭で学習できている」と回答した生徒が7割を超えた。また、e ライブラリを活用したドリル学習では、1日あたりのPC教室での取り組み回数、家庭での取り組み回数がそれぞれ2837回/月、774回/月となっており、PCを活用した学習が定着されつつあることも分かった。よってパソコン教室でも家庭でも生徒が更に自ら進んで取り組めるように、個別カルテの分析によって、生徒個々に弱点である単元のドリル課題を指定して宿題として与えるようなことが効果的であると考えられる。



#### 4 おわりに

本研究は，市内中学校生徒の家庭学習の推進を目的として行った。A中学校では e ライブラリを活用したプリント課題に取り組むスタイル，B中学校ではPC室を開放した放課後学習でドリル学習に取り組むスタイルと，2種類のタイプで研究を進めていった。今後は週末プリント課題冊子活用の拡大や，放課後学習参加生徒の増加や定着に向けての工夫等，2校で行った取り組みを更に深め，市内各校で実践できるような仕組みづくりについて研究を進めていきたいと考えている。

※e ライブラリはラインズ株式会社の登録商標です。

平成28年度 尼崎市立教育総合センター

専任講師

|           |     |       |
|-----------|-----|-------|
| プール学院大学   | 准教授 | 今宮 信吾 |
| 関西大学初等部   | 教諭  | 尾崎 正彦 |
| 大阪教育大学大学院 | 准教授 | 寺嶋 浩介 |
| 鳴門教育大学大学院 | 講師  | 泰山 裕  |
| 関西大学外国語学部 | 教授  | 今井 裕之 |

大学との連携

|        |     |       |
|--------|-----|-------|
| 関西国際大学 | 准教授 | 百瀬 和夫 |
|--------|-----|-------|